



Electone
EL-100
OWNER'S MANUAL
取扱説明書

安全上のご注意




ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

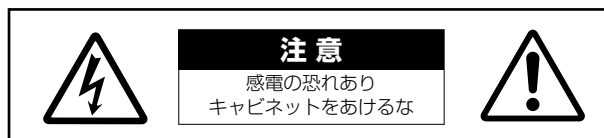
以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
-----------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
-----------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。この製品の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。」

警告

電源/電源コード



電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを
きれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

必ず実行



電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。
他の電源コード/プラグを使用すると、発熱や感電の
原因になります。

必ず実行



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無
理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コード
に重いものをのせない。

禁止

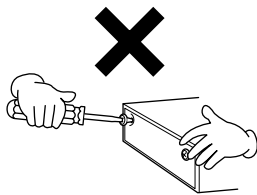
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり
改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。

禁止



水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置か
ない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気が多いとこ
ろで使用しない。

禁止

感電や火災、または故障の原因になります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

禁止

火に注意



本体の上にもうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

禁止

異常に気づいたら



電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中
に音が出なくなったり異常なおい煙が出たりした
場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコ
ンセントから抜く。

必ず実行

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、
お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品
サービス拠点に点検をご依頼ください。

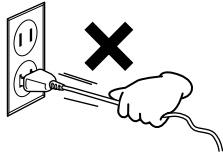
⚠ 注意

電源/電源コード



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

必ず実行



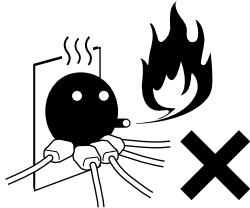
長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電や火災、故障の原因になることがあります。

必ず実行



たこ足配線をしない。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

禁止



組み立て



組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

必ず実行

設置



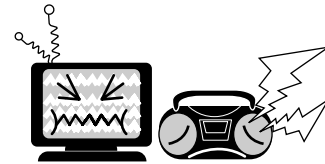
直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多い場所で使用しない。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。

禁止



テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

禁止



不安定な場所に置かない。本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

禁止



本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。

必ず実行



本体を壁につけない。換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。壁から3cm以上離してください。

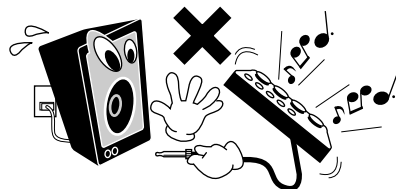
禁止

接続



他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。感電または機器の損傷の原因になることがあります。

必ず実行



手入れ



禁止

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

使用時の注意



ご注意ください

本体のすき間に手や指を入れない。お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



禁止

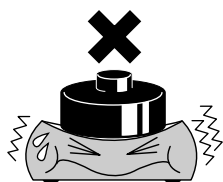
本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。



イス



禁止

不安定な場所に置かない。イスが転倒して、お客様や他の方々がけがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



必ず実行

イスのボルトを定期的に締め直す。イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。ボルトがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



ご注意ください

イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意する。イスの脚でフローリングの床やたたみを傷つけることがあります。イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。

データの保存

作成したデータの保存とバックアップ



必ず実行

レジストレーションのデータ(76ページ)をはじめ、パネル上やLCDディスプレイで設定されたデータは電源を切ると消えてしまいます。保存しておきたいデータはフロッピーディスクに保存してください。

フロッピーディスクのバックアップ



必ず実行

保存したフロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のフロッピーディスクにバックアップとして保存されることをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

はじめに

このたびは、ヤマハエレクトーンEL-100をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
EL-100は、長年にわたって培ってきたノウハウと最新の電子テクノロジーの粋を集めて完成されたエレクトーンです。ほとんどの機能は、体系的でわかりやすいLCDディスプレイを通して操作/設定できます。
EL-100のバラエティあふれる機能のすべてを使って演奏をお楽しみいただくために、是非この取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。
また、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

EL-100の同梱品

椅子	組立説明書
譜面板	保証書
エレクトーンカバー	愛用者カード
取扱説明書	



エレクトーンの電源を切ると、レジストレーションをはじめパネル上やLCDディスプレイに設定されていたデータはすべて消去されます。再び電源を入れると自動的に基本レジストレーションの1の設定になります。消去したくない設定は、電源を切る前に、MDRを使用してフロッピーディスクに保存されることをおすすめします。



「GM」とは、メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音源の音色配列やMIDI機能に関する一定の基準のことです。
「GM」に準拠した音源やソングデータには、このGMマークがついています。



「XG」とは、音色の配列に関する「GM」をより拡張し、時代と共に複雑化、高度化していくコンピューター周辺環境にも対応させ、豊かな表現力とデータの継続性を可能とした音源フォーマットです。「XG」では、音色の拡張方式やエディット方式、エフェクト構成やタイブなどを規定して、「GM」を大幅に拡張しました。
XGマークのついた市販ソングデータを、XGマークのついた音源で再生することによって、無数の拡張ボイスやエフェクト機能までも含めた壮大な演奏を手軽に楽しむことができます。

- * この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- * 市販の音楽/サウンドデータは、私的利用のための複製など著作権上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- * 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- * この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データなどのコンテンツを含みます。
ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

目次

EL-100の主な特長	8
EL-100各部の名称	9
EL-100 操作パネル	10
演奏までの準備	12
レツトライ!	14
1 EL-100の基本操作	20
1 基本レジストレーションを使う	20
2 操作の流れ	21
3 LCDディスプレイ	22
2 ボイスセクション	26
1 ボイスディスプレイ	26
2 パネルで音色を選ぶ	27
3 ドットボタンで音色を選ぶ	30
4 ボイスメニュー	32
3 コントロールとエフェクト	38
1 ボイス コンディション画面で設定するもの	39
【ページ1】	39
(1) イニシャルT(イニシャルタッチ)	39
(2) フィート	39
【ページ2】	40
(1) ボリューム	40
(2) バン	40
(3) リバーブ	40
【ページ3】	41
(1) エフェクト	41
【ページ4】	42
(1) ビブラート	42
【ページ5】	43
(1) チューン	43
(2) スライド	43
2 エフェクトセット画面で設定するもの	43
(1) トレモロ/コーラス	44
(2) シンフォニック/セレステ	44
(3) ディレイ	45
(4) フランジャー	47
(5) ディストーション	48
3 パネルボタンで設定するもの	49
(1) リバーブ	49
(2) サステイン	50
(3) トレモロ/コーラス	51
4 リズムとアカンパニメント	54
1 パネルでリズムを選ぶ	54
2 リズムコンディションを設定する	57
3 ドットボタンでリズムを選ぶ	58
4 リズムメニュー	60
5 オートベースコード(A.B.C.)	61
6 アカンパニメント	63
7 プリセット/ユーザーキーボードパーカッション	65
8 メロディオンコード(M.O.C.)	73

5 レジストレーションメモリー	76
1 レジストレーションを記録する	76
2 レジストレーションを呼び出す	77
3 記録したレジストレーションを フロッピーディスクに保存する	77
4 レジストレーションシフト	78
6 ミュージックディスクレコーダー(MDR)	82
1 MDRのご使用の前に	82
2 ディスクをフォーマットする	84
3 録音する	85
4 レジストレーションなどのデータだけを記録する	91
5 レジストレーションなどのデータを読み込む	92
6 レジストレーションだけを入れ替える	92
7 再生する	93
8 その他の機能	97
7 フットスイッチ/エクスペッションペダル ...	106
1 フットスイッチ	106
2 エクスペッションペダル	109
8 トランスポーズ/ピッチ	110
9 MIDIコントロール	111
10 付属端子	113
11 資料	114
MIDIについて	114
MIDIデータフォーマット	120
MIDIインプリメンテーションチャート	129
故障かな?と思ったら	131
EL-100の組み立て方	134
EL-100仕様	138
索引	140

1	EL-100の基本操作
2	ボイスセクション
3	コントロールとエフェクト
4	リズムとアカンパニメント
5	レジストレーションメモリー
6	ミュージックディスクレコーダー(MDR)
7	フットスイッチ/エクスペッションペダル
8	トランスポーズ/ピッチ
9	MIDIコントロール
10	付属端子
11	資料

LCDディスプレイ表示や機能用語については、140ページの索引をご利用いただくと便利です。

EL-100の主な特長

1 心の奥底まで表現できるナチュラルで多彩なサウンド

新AWMの技術の粋を結集した最新の音源システムにより、ナチュラルで美しい本格的なサウンドが内蔵されています。全部で173種類(AWM)の楽器音色を使って、多彩な演奏をお楽しみください。

2 豊かな表現力を生み出すイニシャルタッチ

イニシャルタッチにより、各楽器の持つ微妙なニュアンスや感情表現が可能です。(39ページ)

3 音楽の幅を更に広げるボイスコンディショニング

各音群に対して音量や音程、パンニング(発音される位置)など、さまざまな調節が可能です。曲想や好みに合わせて最も演奏にマッチしたコンディショニングをつくることができます。(39ページ)

4 ハイクオリティ デジタル エフェクト

リバーブはもちろん、ディレイやフランジャー、ディストーションに至るまで、すべて高品位なデジタルエフェクトが音群ごとに得られます。また、エフェクトのオン/オフに関係なくパン機能が働きます。(43ページ)

5 ダイナミックなリズムサウンド/プログラマブル パーカッション サウンド

クオリティの高いAWM音源による66種類もの多様なジャンルのリズムサウンドと、バラエティ豊かなアカンパニメントが、あなたの演奏をサポートします。(54ページ)

キーボードパーカッションは、ユニークな和楽器も加え120種類と豊富で、しかも、すべての打楽器音はどの鍵盤にもアサイン(設定)できます。(65ページ)

6 本格的な演奏に欠かせないレジストレーション機能

さまざまな音楽ジャンルに合ったエレクトーン演奏のための設定が、基本レジストレーションやレジストレーションメニューで簡単に選ぶことができます。(20ページ)

また、パネルやLCDで設定したセッティングを記録しておき、演奏中にワンタッチで呼び出すことができます。(76ページ)

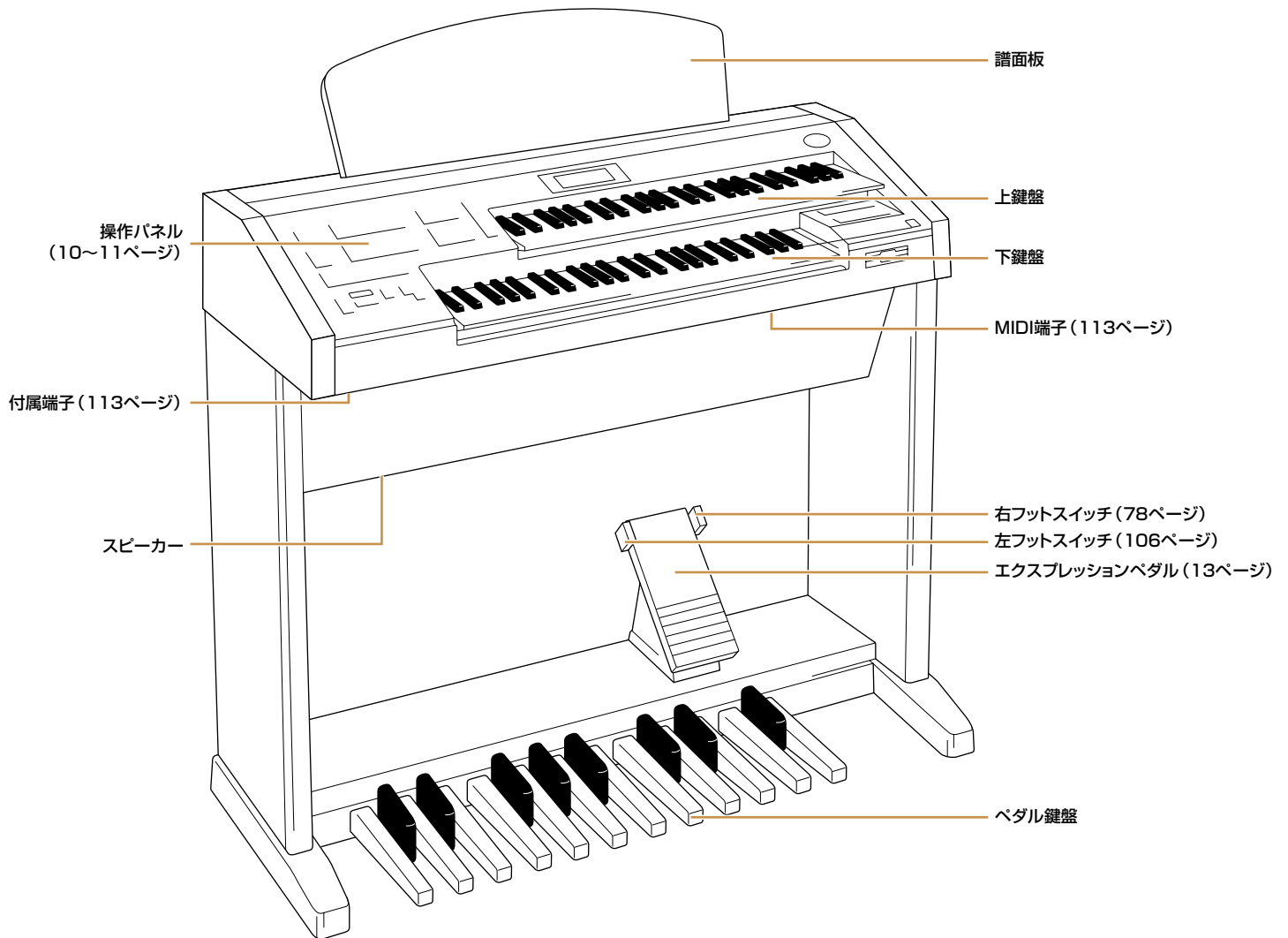
7 データの活用に便利なMDR機能

あなたの演奏を録音したり、レジストレーションデータを保存したりできる簡単で便利なMDR(ミュージックディスクレコーダー)機能が内蔵されています。さらに、ディスクコピーや異なったディスク間のソングコピー、市販のXGソングデータへの対応など、機能が充実しています。(82ページ)

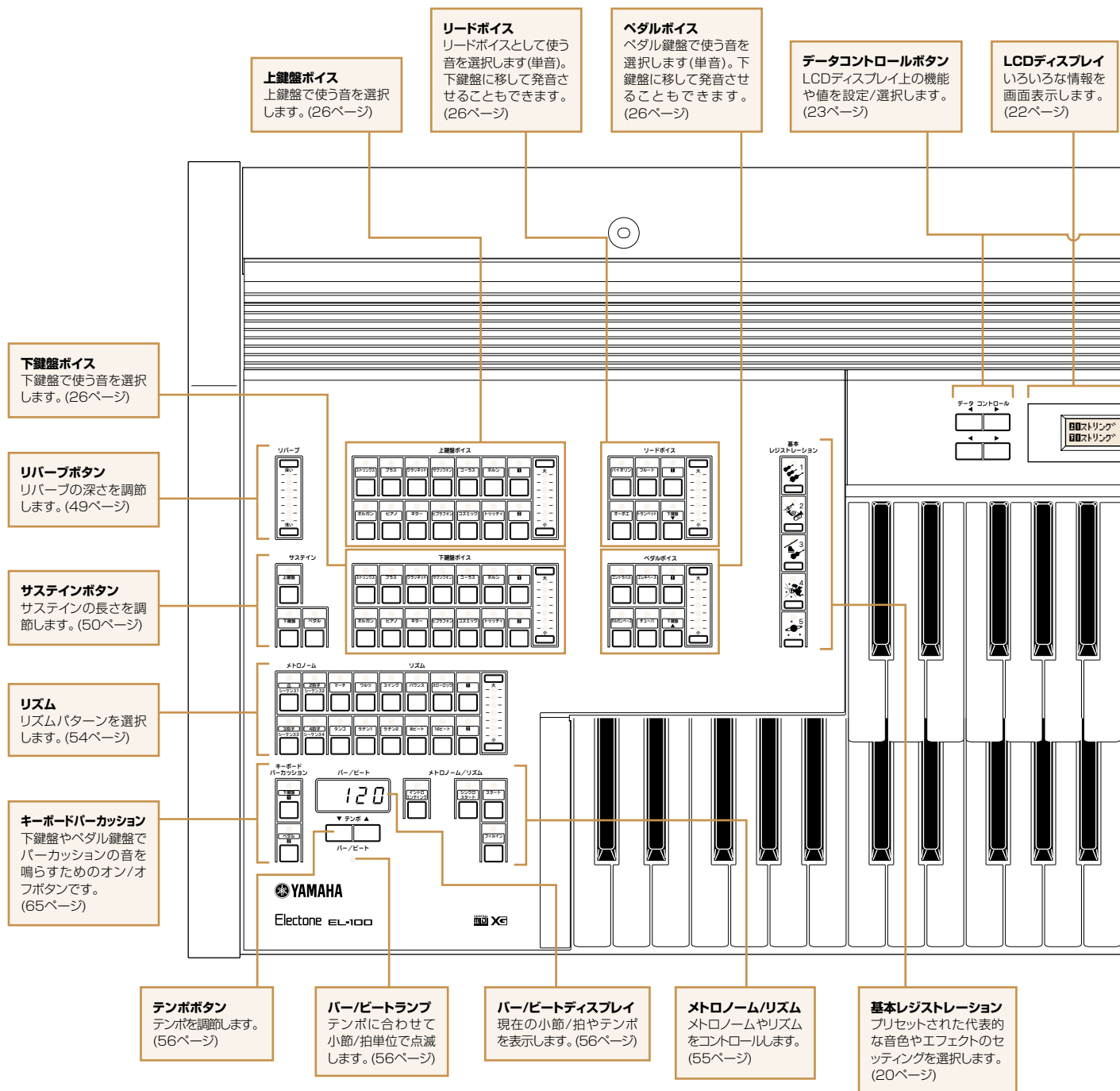
8 機能的/体系的で二か国語表示対応のLCDディスプレイ

すべての操作は、機能的/体系的でわかりやすいLCDディスプレイを中心に行ないます。日本語と英語の二か国語表示に対応しており、EL-100が初めての方でも、操作の内容を目で確認することができるので安心です。(25ページ)

EL-100各部の名称

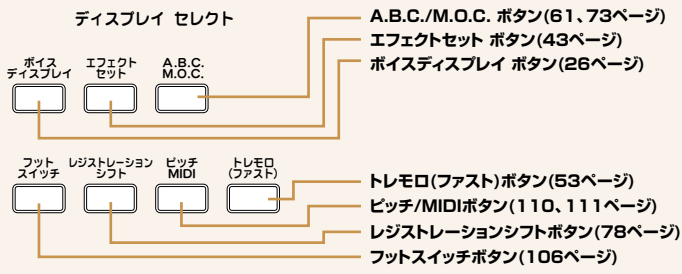


EL-100 操作パネル



ディスプレイセレクト

LCDディスプレイに表示する機能を選択します。(24ページ)



ページボタン

LCDディスプレイ上の画面ページを選択します。(23ページ)

M./TO DISK(メモリー)ボタン

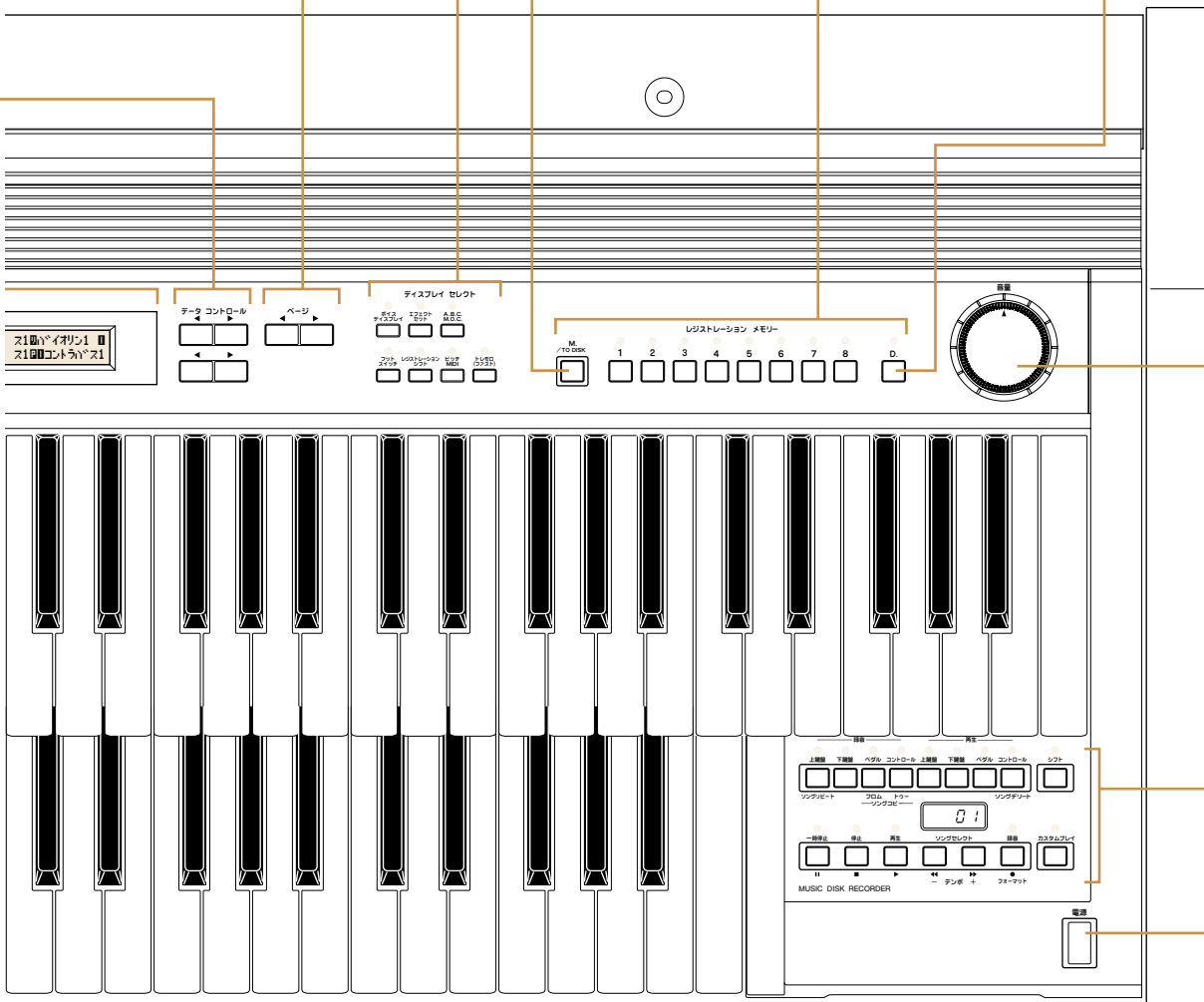
(76ページ)

レジストレーションメモリー

パネルやLCDディスプレイの設定を記録することができます。(76ページ)

D.(ディスエーブル)ボタン

(77ページ)



音量ダイヤル
エレクトーン全体の音量を調節します。(13ページ)

MDR(ミュージックディスクレコーダー)
演奏データを録音/再生したり、レジストレーションデータなどを保存したり読み込んだりすることができます。(82ページ)

電源スイッチ
電源のオン/オフスイッチです。

フロッピーディスク挿入口
フロッピーディスクを差し込みます。

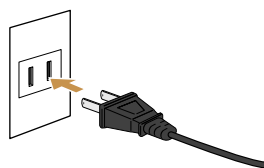


ユーズランプ
電源が入っているときに点灯します。

イジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出します。

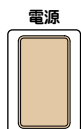
演奏までの準備

- 1 電源プラグは必ずAC100Vのコンセントに差し込みます。

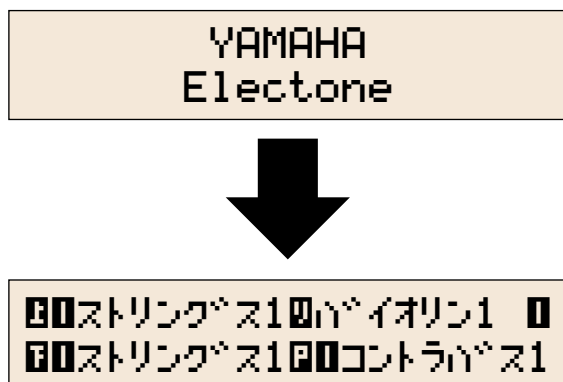


誤ってエアコン用などの200Vのコンセントに接続しないようご注意ください。

- 2 エレクトーンの電源スイッチをオンにします。



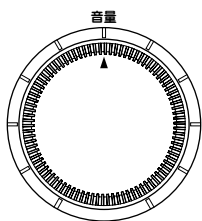
エレクトーンの電源を入れると、LCDディスプレイに以下の表示が連続して現れます。



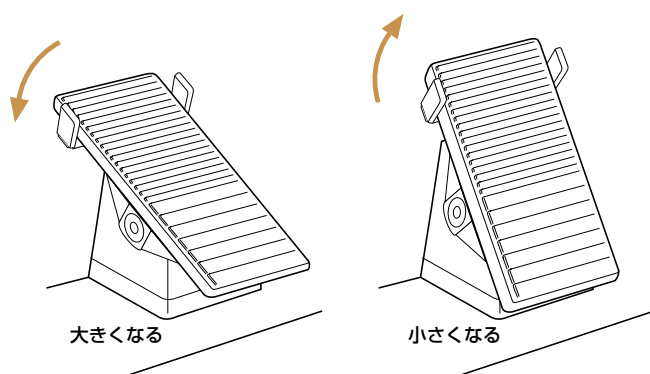
最後に表示された画面が、ボイスディスプレイ画面の1ページ目です。ボイスディスプレイ画面の1ページ目～2ページ目には、各音群に現在設定されている音色名や上鍵盤と下鍵盤の音量バランスが表示されます(27ページ)。また、ボイスディスプレイ画面の3ページ目では、LCDディスプレイの言語表示を日本語か英語に切り換えることができます(25ページ)。

電源を入れると、基本レジストレーション1が自動的に設定されます。

- 3 音量を設定します。
音量ダイヤルでは、エレクトーン全体の音量を調節します。



- 4 エクスプレッションペダルを右足で適度に踏み込みます。
エクスプレッションペダルでは、演奏中の音の強弱を調節します。このペダルが上がったままの状態では、音は出ません。



お子さまとお読みください

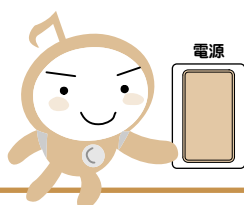
レッツトライ!

Let's Try!



でんげん い
電源を入れてはじめよう!

でんげん お でんげん い
電源スイッチを押して電源を入れよう。

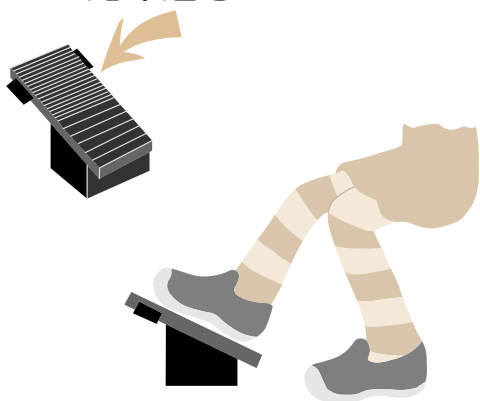


うえけんばん みぎて したけんばん ひだりて
イスにすわって、上鍵盤に右手、下鍵盤に左手、
けんばん ひだりあし
ペダル鍵盤に左足をおこう。

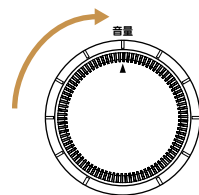
みぎあし おく
右足は、奥にあるペダル(エクスプレッションペ
ダル)にのせてね。



踏み込む



おんりょう あ
エレクトーンの音量を上げて、
エクスプレッションペダルを踏
こみ込もう。

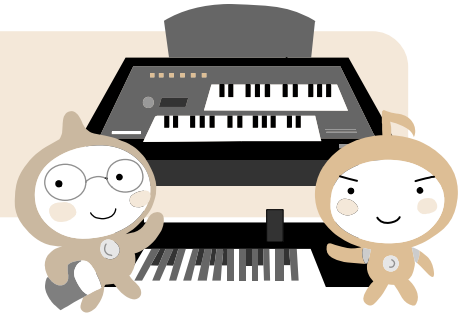


おと で じょうたい
これでエレクトーンの音が出る状態になったよ。



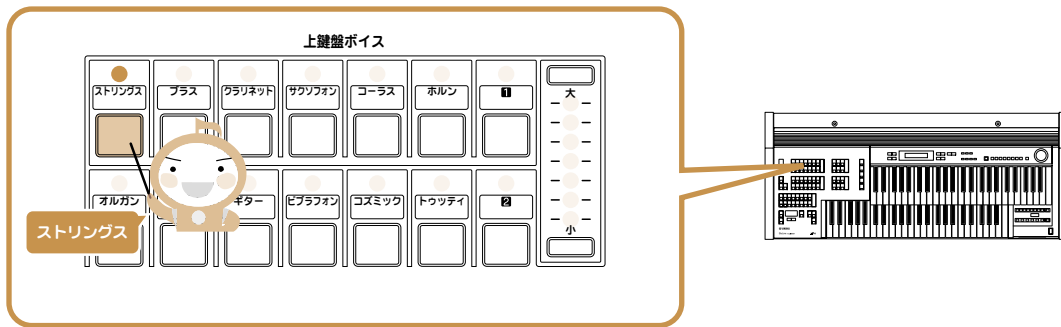
おと だ 音を出してみよう

エレクトーンは、^{うえけんぼん}上鍵盤、^{したけんぼん}下鍵盤、^{けんぼん}ペダル鍵盤に、
^{しゅるい}たくさんの種類の音の中から好きな音が選べるんだよ。

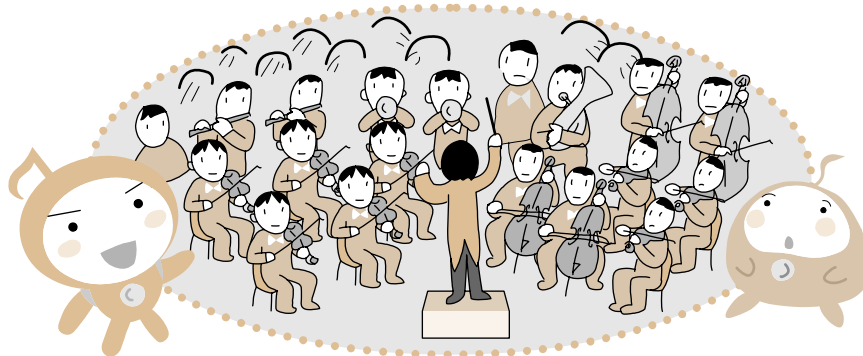
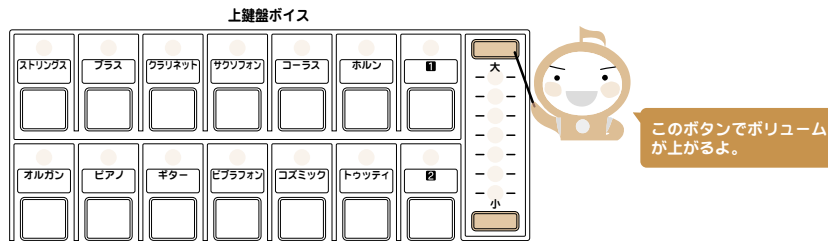


^{うえけんぼん}まず、上鍵盤の音を鳴らしてみよう。

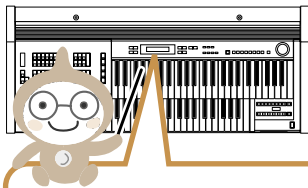
^{うえけんぼん}上鍵盤ボイスのストリングスのボタンを^お押してみよう。



^{うえけんぼん}上鍵盤ボイスのボリュームを上げて、^あ鍵盤を弾くと、^{けんぼん}鍵盤を弾くと・・・^ひストリングスの音が出たね！



み LCDディスプレイを見てみよう。



データ コントロール

◀ ▶

◀ ▶

▲ スtringス1 Stringス2

ピチカート シンセStringス1

データ コントロール

◀ ▶

◀ ▶

ページ

◀ ▶

ヘヤ スtringスの部屋には4つの音がかくれているんだよ。

いま今はStringス1に■がついているから、Stringス1の音が鳴るんだ。

えら Stringス2を選ぶにはこのボタンを押そう。

データ コントロール

◀ ▶

◀ ▶

Stringス1 ▲ Stringス2

ピチカート シンセStringス1

データ コントロール

◀ ▶

◀ ▶

ページ

◀ ▶

おと か音が変わったのがわかるかな？

えら ピチカートを選ぶにはこのボタンを押すんだよ。

データ コントロール

◀ ▶

◀ ▶

Stringス1 Stringス2

▲ ピチカート シンセStringス1

データ コントロール

◀ ▶

◀ ▶

ページ

◀ ▶

こんど げん今度は弦をはじいてる音が鳴ったね。

き シンセStringスも聞いてみよう。

データ コントロール

◀ ▶

◀ ▶

Stringス1 Stringス2

ピチカート ▲ シンセStringス1

データ コントロール

◀ ▶

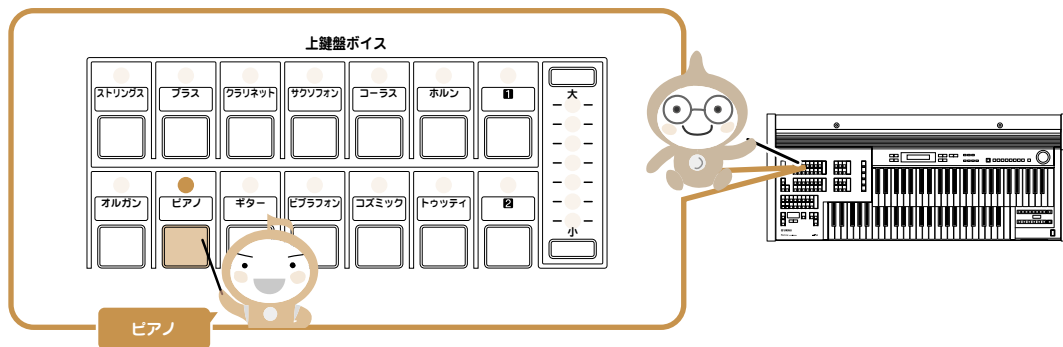
◀ ▶

ページ

◀ ▶

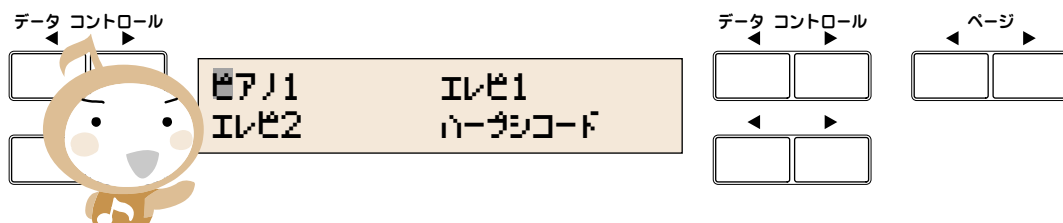
つぎ おと
次はピアノの音にしてみよう。

お けんぼん ひ
ピアノのボタンを押して鍵盤を弾いてみよう。



おと
ピアノの音がしたかな？

へや おと
ピアノの部屋にも4つの音がかくれているよ。

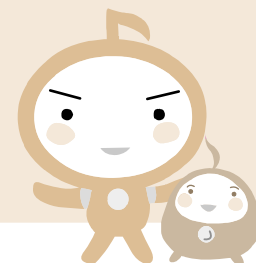


き
4つとも聞いてみよう。



おと おんしよく おため
ほかにもいろんな音があるよ。パネルの音色ボタンをいろいろ押して試
してみてね！

おと えら
このほかにパネルにボタンがない音も選べるよ。EL-100は
しゅるい おと だ み
173種類の音が出せるんだ。33ページも見てみてね！

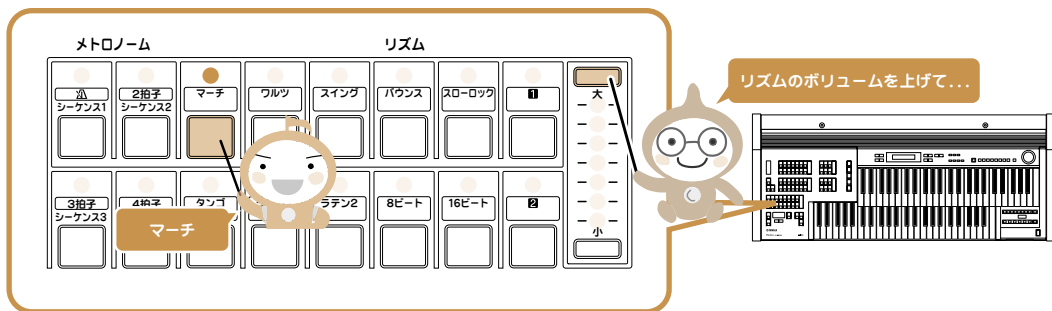


リズムを鳴らしてみよう

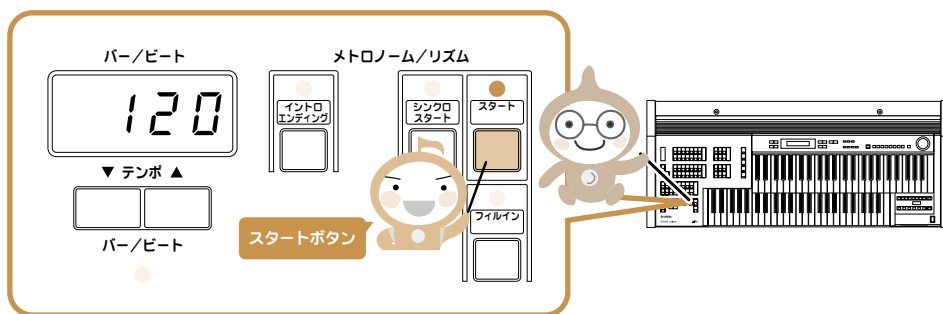
パネルのリズムセクションにはたくさんのボタンがあるね。
さっそくリズムパターンを聞いてみよう。



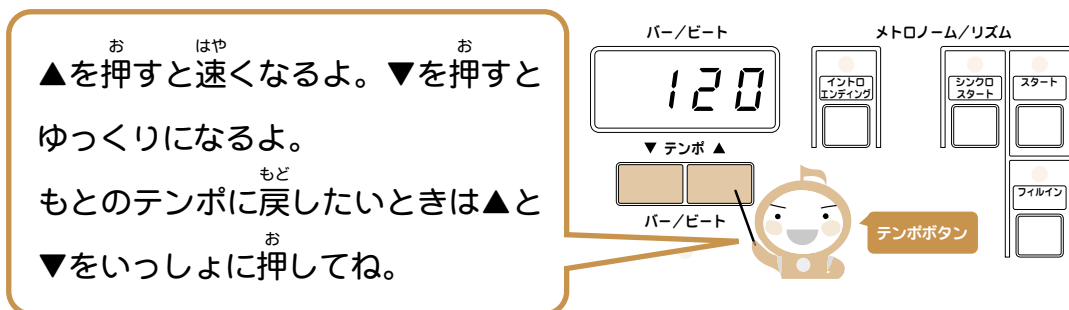
まず、マーチのボタンを押してみよう。



スタートボタンを押すとリズムがスタートするよ。



テンポボタンでテンポが変わるんだ。

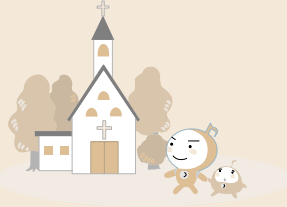


ほかにはどんなリズムがあるかな？いろいろ押して聞いてみよう。

リズムを止めるときはもう一度スタートボタンを押してね。



た つか かた その他の使い方

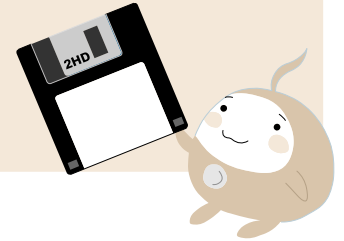


エレクトーンおと きょうかい ひの音を教会で弾いている
 ような感じかん ひびに響かせたり(リバーブ)、
 音をうねらせたり、こだまのように
 繰り返させたり(エフェクト)、鍵盤けんぱんで
 タンバリンやトライアングルの音おとを
 鳴らしたり(キーボードパーカッション)、
 いろんなことができるよ。



フロッピーディスクを使うと、自分で作った音おと ほぞんを保存
 したり、演奏えんそう ろくおんを録音したりもできるんだ。

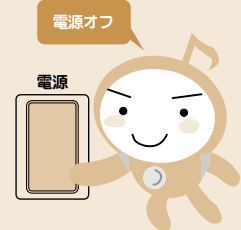
くわしい使い方つか かたは、取扱説明書
 (この本ほん)で調べてみてね!



つか おわ 使い終わったら

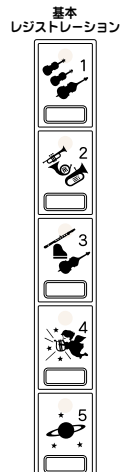
使い終わったら、電源でんげんスイッチを押して電源お でんげん きを切ってね。

エレクトーンにほこりが入らないように、カバーをかけておこう。



1 基本レジストレーションを使う

「レジストレーション」とは、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤の音色やリズムなどの組み合わせのことです。基本レジストレーションセクションの1～5ボタンには、5種類の基本的なレジストレーションがプリセットされています。この5種類のレジストレーションは、それぞれ幅広い音楽ジャンルの中の代表的なセッティングになっています。



基本レジストレーションを選ぶには

基本レジストレーションセクションの1～5ボタンのうち、いずれか一つを押すだけで、それぞれの**上鍵盤**と**下鍵盤**と**ペダル鍵盤**のレジストレーションが自動的に設定されます。

エレクトーンの電源を入ると、必ず**基本レジストレーション1**が選択されます。

	基本 レジストレーション1	基本 レジストレーション2	基本 レジストレーション3	基本 レジストレーション4	基本 レジストレーション5
上鍵盤	ストリングス1	ブラス1	フルート1	コズミック1	シンセブラス1
下鍵盤	ストリングス1	ホルン1	ピアノ1	コズミック2	コズミック3
ペダル鍵盤	コントラバス1	チューバ	コントラバス1	コズミック2	シンセベース1

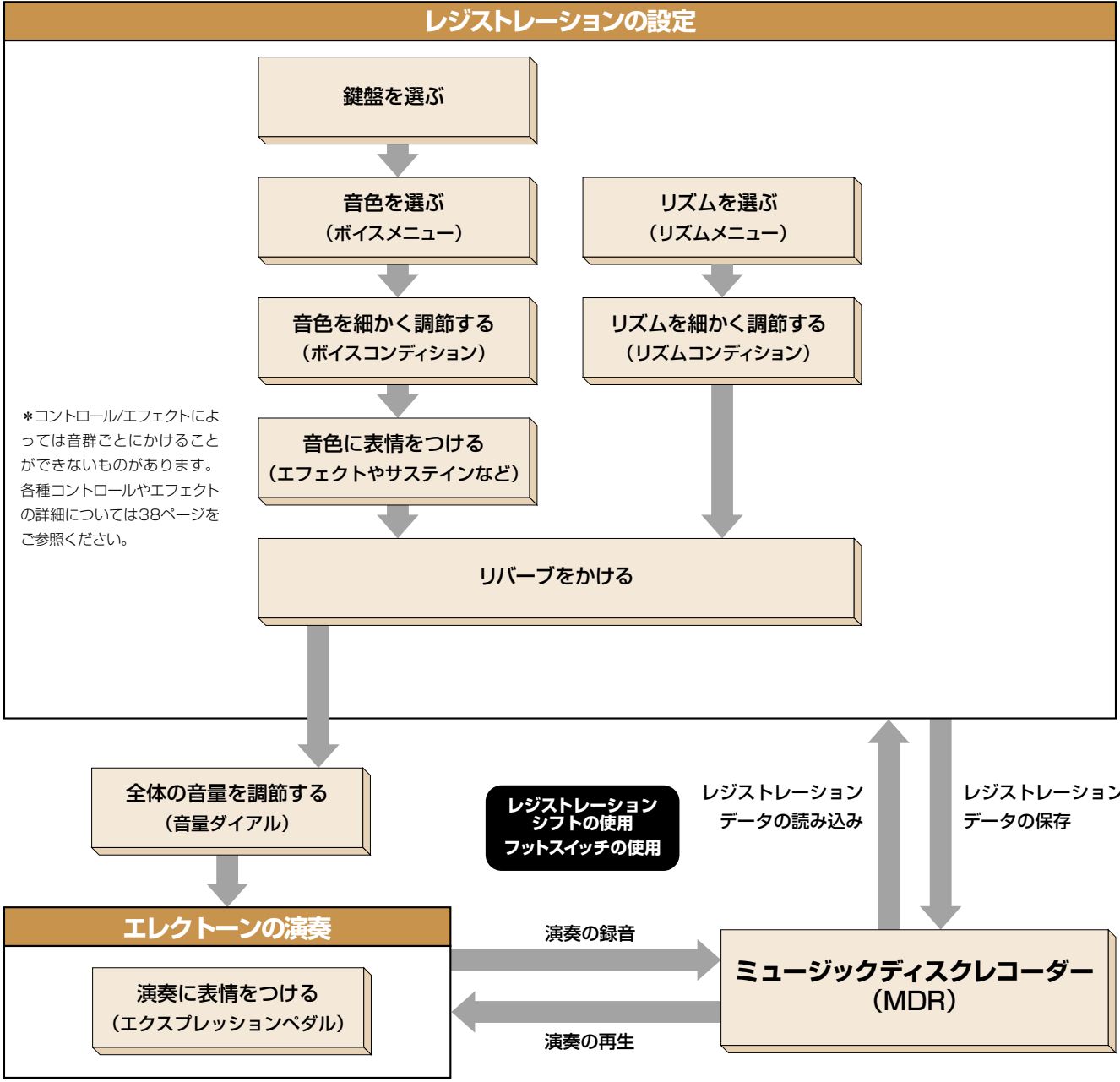
NOTE

レジストレーションメモリー1～8にもそれぞれ基本的なレジストレーションがプリセットされています。詳しくは76ページをご参照ください。



エレクトーンの電源を切ると、レジストレーションを含めパネル上やLCD上で設定していたデータはすべて消去されます。なお、再び電源を入ると、自動的に基本レジストレーション1の設定が現れます。

2 操作の流れ



3 LCDディスプレイ

EL-100には、幅広いジャンルで種類も豊富な音色やリズム、高品位のさまざまなデジタルエフェクト類、そしてレジストレーションやMDRなどのバラエティあふれる機能が満載されています。これらの機能を使いこなすためには、EL-100の操作の中心になるLCDディスプレイの使用方法をマスターすることが重要です。

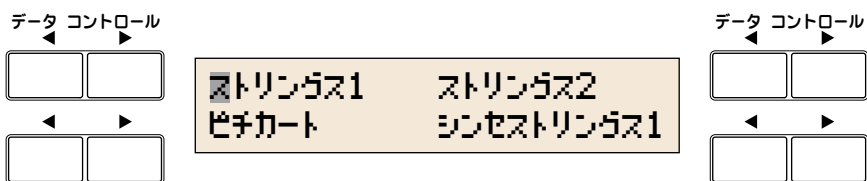
14ページ～19ページの「レツツトライ！」を参考にしながら実際に操作して、LCDディスプレイの操作方法の理解を深めていきましょう。

音色やリズムを選択する

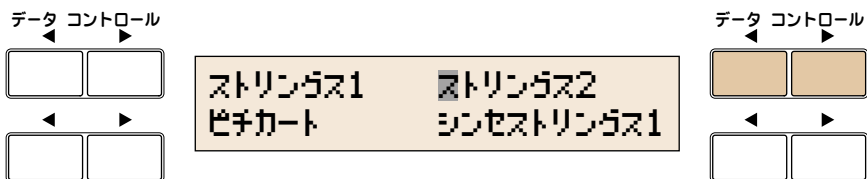
- 1 パネル上の音群やリズムセクションの使用したいボイスボタンまたはリズムボタンを押します。



LCDディスプレイ上にボイスまたはリズムメニューが表示されます。



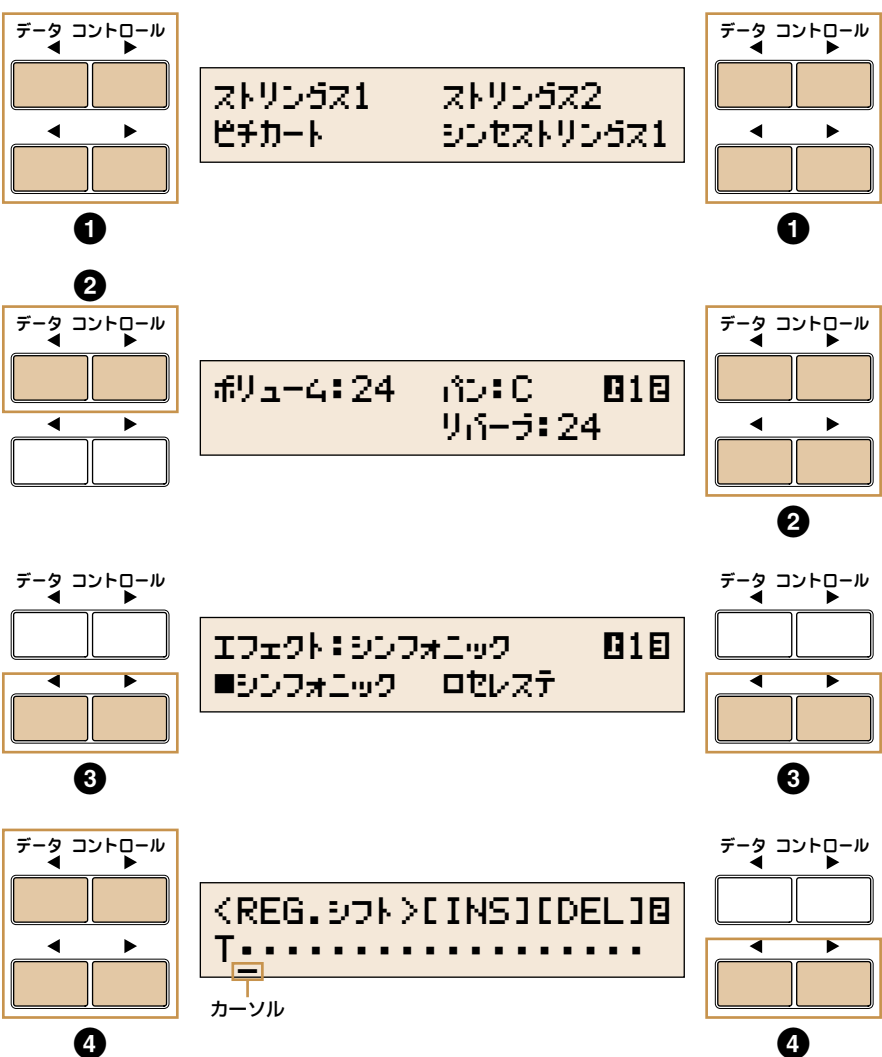
- 2 自分の使用したいボイス(下の図ではストリングス2)と同じ位置にあるデータコントロールボタンを押します。



選択された音色の最初の文字が点滅表示になります。

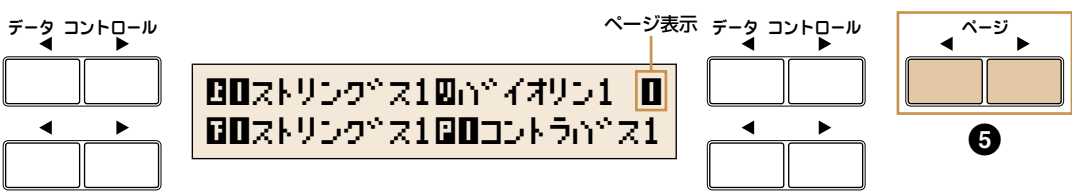
ボイスメニューリストについては、32ページをご参照ください。

データコントロールボタンの働き



データコントロールボタンは、①音色や機能を選択したり、②ボリュームやレベルなどの数値を上げ下げしたり、③フィートやエフェクトのように表示されているものから何かを選択したり、④レジストレーションシフトの設定のようにカーソルを左右に動かすために使用します。

ページボタンの働き

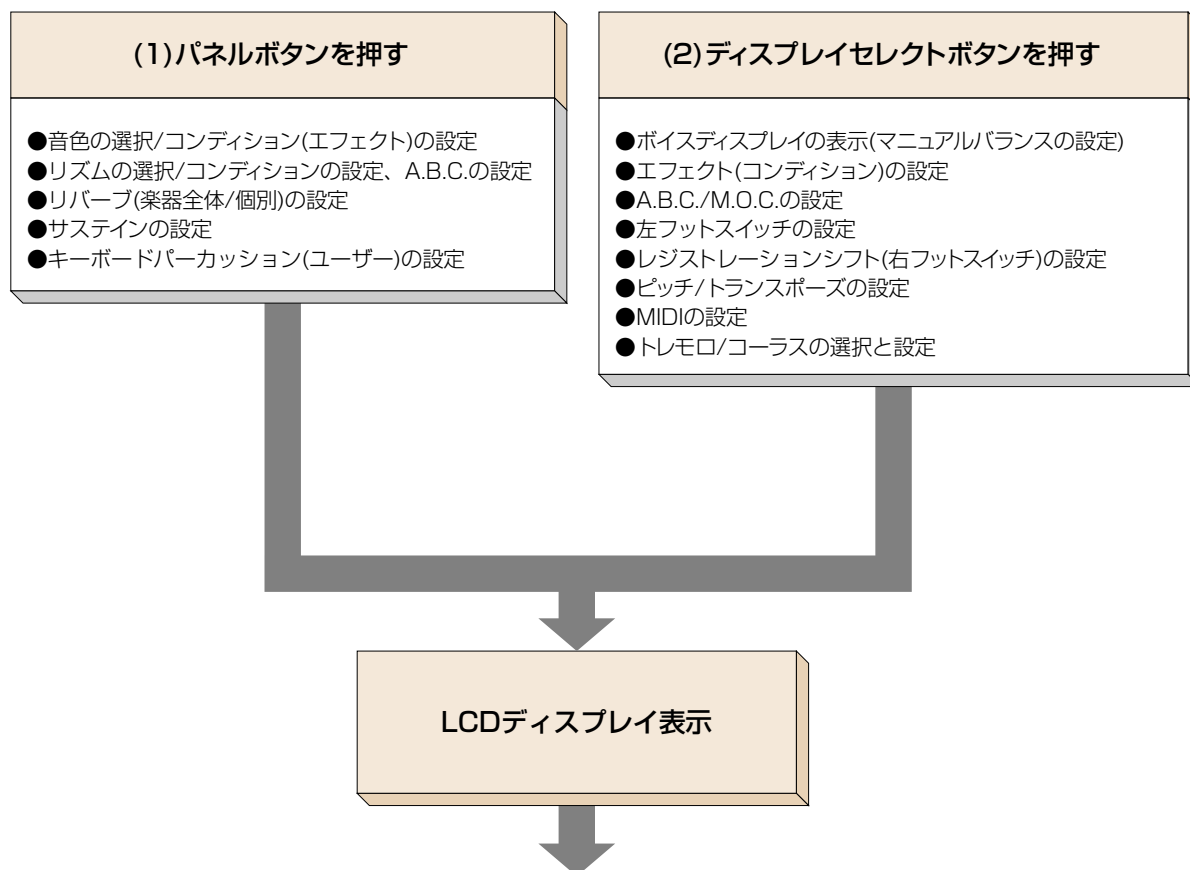


画面の右上にページ表示がある場合には、LCDディスプレイの右側の⑤ページボタンを使って、次ページを選択することができます。

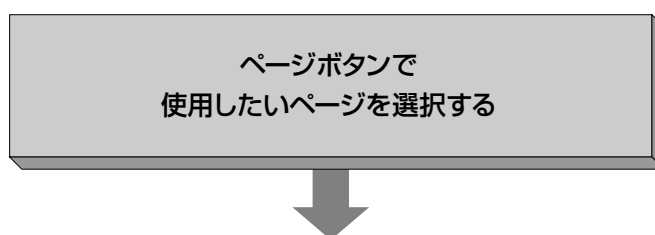
LCDディスプレイ操作のまとめ

以上の操作を、レジストレーションをセッティングする際の操作手順に沿ってまとめてみると、下図のようになります。

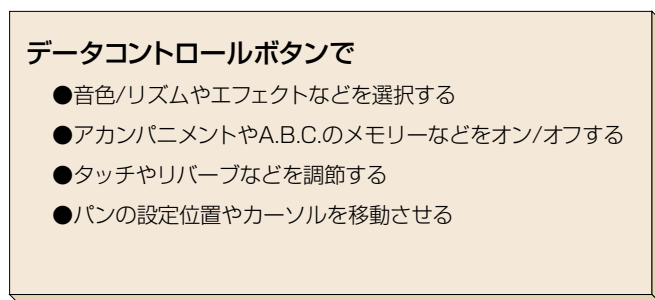
1. LCDディスプレイを呼び出す



2. ページを選択する



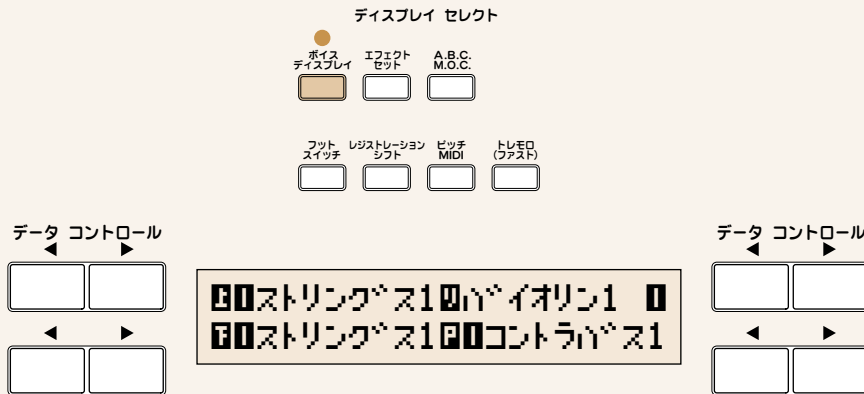
3. 設定したい内容进行操作する



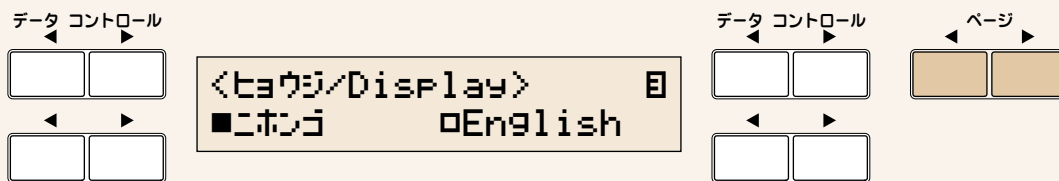
LCDディスプレイの表示言語の切り換えについて

EL-100のLCDディスプレイの表示言語は、電源オン時には日本語に設定されています。必要に応じてLCDディスプレイの表示言語を英語に切り換えることができます。

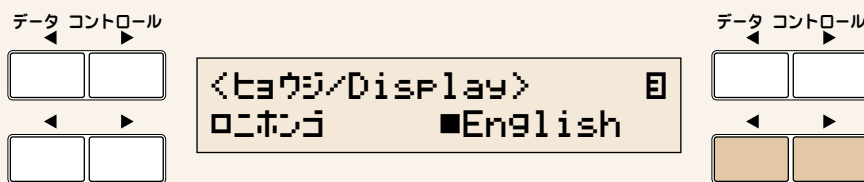
1. パネルのボイスディスプレイボタンを押します。
ボイスディスプレイ画面の1ページ目が表示されます。



2. ページボタンを数回押して、ボイスディスプレイ画面の3ページ目を表示させます。



3. 右下のデータコントロールボタンを押すと、LCDディスプレイのEnglish (英語)の左のボックスが□から■になり、表示言語が英語に設定されます。



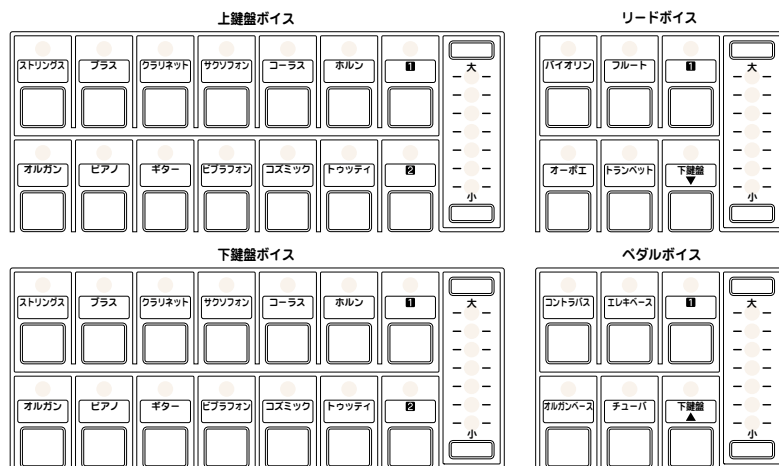
NOTE
なお、表示言語を日本語に戻したい場合、上記1.~2.の操作をくり返して、ニホンゴの左のボックスを選びます(■にします)。



NOTE
一度エレクトーンの電源を切って、再び電源を入れると、表示言語は日本語に戻ります。

これ以降、LCDディスプレイは英語で表示されます。

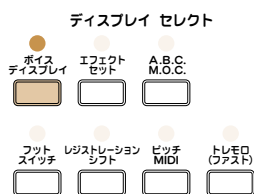
EL-100には、全部で173種類にも及び多彩でナチュラルな楽器音色が装備されています。全音色は、どの鍵盤でも使用することができますが、原則として、4つの音群に分かれています。上鍵盤には上鍵盤ボイス、リードボイスの2つの音群、下鍵盤には下鍵盤ボイス、ペダル鍵盤にはペダルボイスの音群があります。それぞれの音群で、個々に音色の設定やボリューム/コンディションの調整をすることができます。



1 ボイスディスプレイ

ボイスディスプレイを使って、各鍵盤にどの音色が設定されているかを確認することができます。

ボイスディスプレイ画面を呼び出すには、パネルのディスプレイセレクトセクションにあるボイスディスプレイボタンを押します。(電源オン時には、必ずボイスディスプレイ画面が表示されます。)



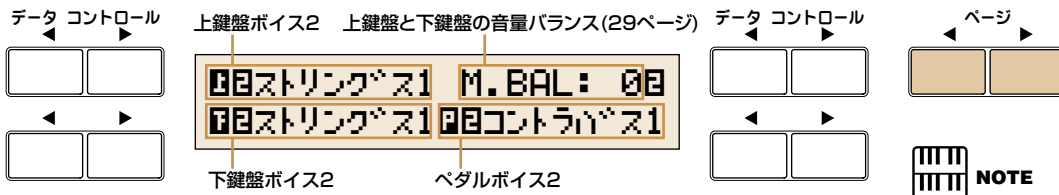
ボイスディスプレイ画面は3ページで構成されています。各ページはLCDディスプレイの右側にあるページボタンを使って選択します。

ボイスディスプレイ画面の1ページ目と2ページ目には、各音群に現在設定されている音色名や上鍵盤と下鍵盤の音量バランスが表示されます。

1ページ目



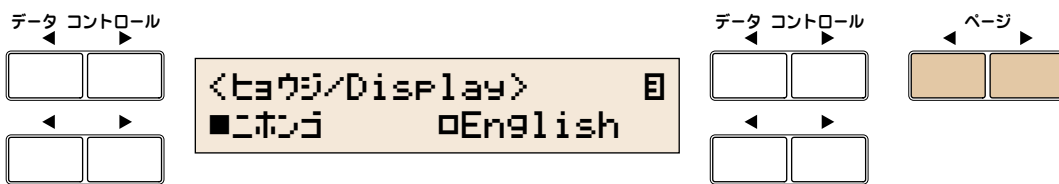
2ページ目



EL-100にはパネル上にある「上鍵盤ボイス」「下鍵盤ボイス」「ペダルボイス」「リードボイス」の4つの音群のほかに、「上鍵盤ボイス2」「下鍵盤ボイス2」「ペダルボイス2」の3つの音群が内蔵されています。この3つの音群は、ボイスディスプレイ画面の2ページ目に表示されます。内蔵されているものも含めると、7つの音群があることとなります。これはEL-500などの上位機種と同じです。したがって、EL-500などの7つの音群を持つ上位機種で作ったレジストレーションを再生することもできるわけです。内蔵された音群もLCDディスプレイ上に呼び出して、パネル上にある音群と同じようにいろいろな設定を行なうこともできます。詳しくは36ページをご参照ください。

NOTE
上鍵盤と下鍵盤の音量バランスについては、29ページをご参照ください。

なお、ボイスディスプレイ画面の3ページ目では、LCDディスプレイの表示言語を切り換えることができます(25ページ)。



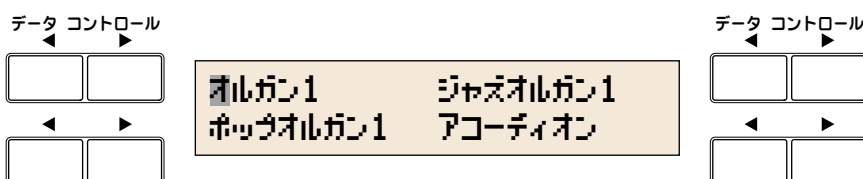
2 パネルで音色を選ぶ

音色の選び方は、どの鍵盤でもどの音群でも共通です。ここでは上鍵盤ボイスの音色を選ぶ例を使って説明します。

1 パネル上の上鍵盤ボイスセクションの中のいずれかのボイスボタンを押します。

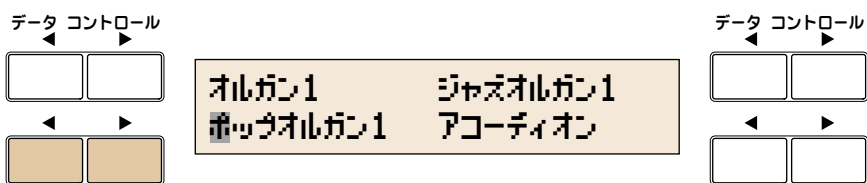


たとえば、オルガンボタンを押した場合、LCDディスプレイ上に以下の表示が現れます。



ディスプレイ上には、いくつかのオルガン音色のバリエーション(ボイスメニュー)が表示されます。

- 2 ボイスメニューの中から使用したい音色を選択します。
イラストのように、自分の使用したい音色と同じ位置にあるデータコントロールボタンを押します。(この場合ポップオルガン1)



選択された音色名の最初の文字が点滅します。これで上鍵盤ボイスには、ポップオルガン1が設定されました。

- 3 同じ手順で、リードボイスの音も選択します。

- 4 次に、それぞれの音群の音量を設定します。
音量を設定するには2通りの方法があります。

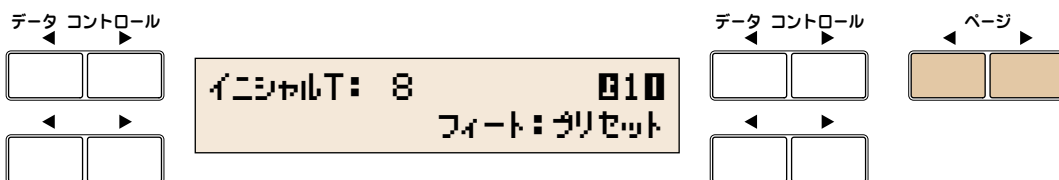
通常の設定

それぞれの音群の右端にあるボリュームコントロールを使用します。0~6の7段階になっています。

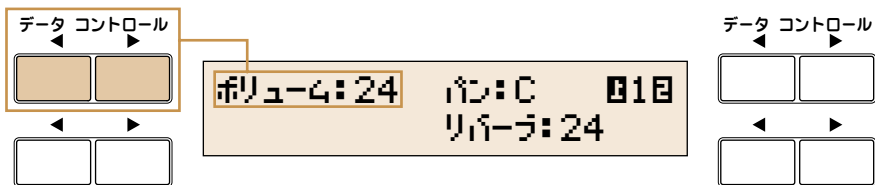


細かな設定

パネル上に現在表示されている音色ボタンをもう一度押すことで、(または、現在選ばれている音色と同じ位置にあるデータコントロールボタンをもう一度押すことで)イラストにあるようなボイス コンディション画面の1ページ目がLCDディスプレイ上に表示されます。ページボタンを押して、ボイス コンディション画面の2ページ目を表示させます。



LCDディスプレイの左上に、ボリューム値が表示されますので、その左側にある一組のデータコントロールボタンを使って、音量を調節します。0～24の細かな設定が可能です。



NOTE

パネル上の音色ボタンを一度押すと、その音色のボイスメニュー(バリエーション)がLCD上に表示されます。もう一度押すと、ボイスコンディショニング画面が表示されます。ボタンを繰り返し押し続けると、ボイスメニューとコンディショニング画面が交互に繰り返し表示されます。



NOTE

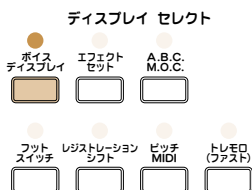
リードボイスの演奏やペダル鍵盤での演奏では、複数の鍵盤を同時に押しても、押された鍵盤の一番高い音が一つだけ発音されます(単音/高音優先)。

5 同じ手順で、下鍵盤ボイスやペダルボイスの音色も設定します。

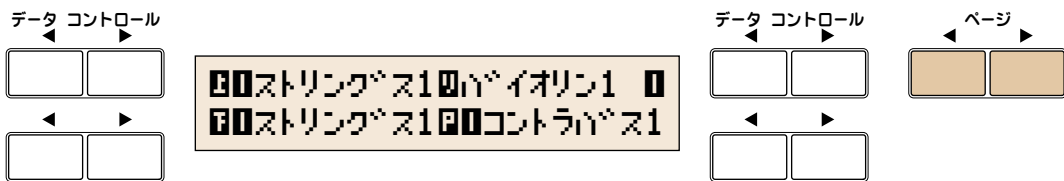
6 上鍵盤と下鍵盤の音量バランスを、ボイスディスプレイ画面上の音量バランスコントロールで調節します。

音量バランスを調整するには

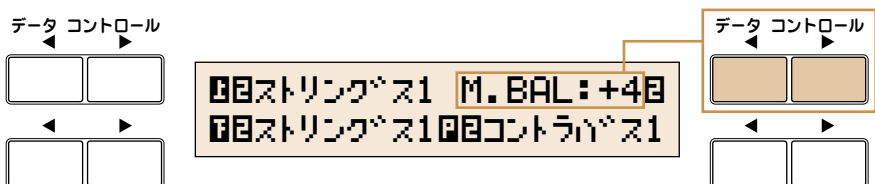
1. パネルのディスプレイセレクトセクションにあるボイスディスプレイボタンを押します。(電源オン時には、必ずボイスディスプレイ画面が表示されます。)



2. LCDディスプレイの右側にあるページボタンを使って、ボイスディスプレイ画面の2ページ目を選択します。



3. 音量バランスコントロール(マニュアルバランス)の右の一組のデータコントロールボタンを使って、音量バランスを調節します。値を + にするほど上鍵盤の音量バランスが大きくなり、値を - にするほど下鍵盤の音量バランスが大きくなります。設定できる範囲は-6～+6です。



NOTE

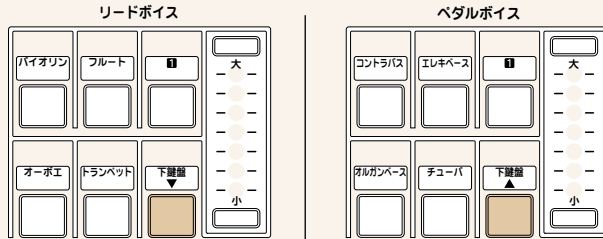
この一組のデータコントロールボタンを同時に押せば、バランスはまん中に戻ります。

トゥーロー機能について

通常、上鍵盤で演奏するためのリードボイスやペダル鍵盤で演奏するためのペダルボイスの音色は、それぞれの音群内の下鍵盤▼/▲ボタンを押すと、下鍵盤で演奏することができます。



下鍵盤▼/▲ボタンがオンになっている間は、上鍵盤/ペダル鍵盤を弾いても、リードボイス/ペダルボイスは発音されません。



エレクトーンの電源を切ると、レジストレーションをはじめパネル上やLCD上で設定していたデータはすべて消去されます。なお、再び電源を入れると、自動的に基本レジストレーション1の設定が現れます。データを消去したくない場合は、電源を切る前にMDRを使用してフロッピーディスクに保存してください。(77ページをご参照ください。)

3 ドットボタンで音色を選ぶ

EL-100には、パネル上の音色ボタン数より遥かに多くの音色が内蔵されています。今までに、個々のボイスメニューの音色選択方法を説明しましたが、ここでは、それぞれの音群の全音色を自在に使いこなせる便利なドットボタンについて説明します。

個々の音群には、右端に2つ(または1つ)のドットボタンがあります。

このドットボタンを使うことで、すべての音群の音色を、どの音群にも呼び出すことが可能です。



ドットボタンには、以下のように2通りの便利な使い方があります。

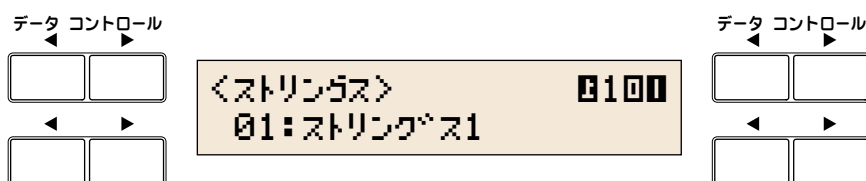
- すべてのボイスメニューの音色を、上鍵盤でも、下鍵盤でも、ペダル鍵盤でも使用することができます。たとえば、上鍵盤セクションには12個のボイスボタン——したがって12種類のボイスメニューがありますが、ドットボタンを使うことによって、他の音群を含む22種類のボイスメニューすべてから、音色を選択することが可能になります。(たとえば上鍵盤の音群で、単音のペダルボイスを選択すると、複音で演奏することが可能になります。)
- 同一グループのボイスメニューの中にある3つの異なった音色を1つの曲で使用したい場合、1つの音群の2つのドットボタンを使うことで、あらかじめパネル上のボタンに3音色とも呼び出しておけます。

ドットボタンで音色を選ぶには

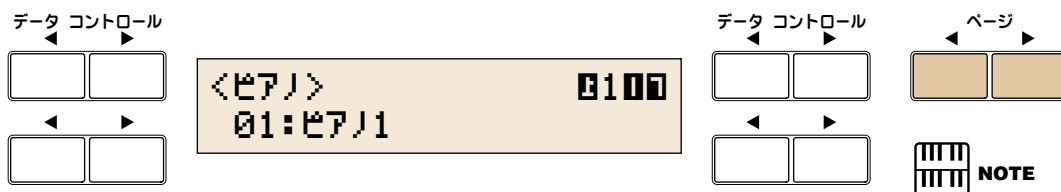
- 1 使用したい音群のドットボタンを押します。
ここでは、例として上鍵盤ボイスのドットボタン1にホンキートンクを設定してみましょう。



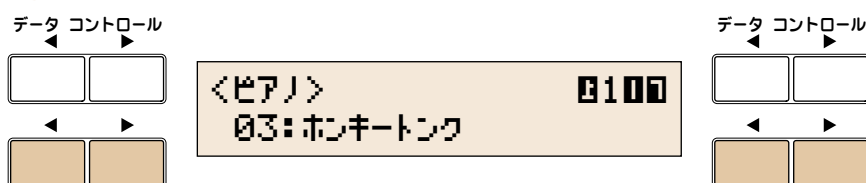
LCDディスプレイに、ページ1(ストリングス)が表示されます。



- 2 LCDディスプレイの右側にあるページボタンを押して、22ページ(種類)のボイスメニューの中から、使用したい音色が属しているページを選択します。(この場合はページ17:ピアノ)



- 3 データコントロールボタンを使って、03:ホンキートンクを選択します。

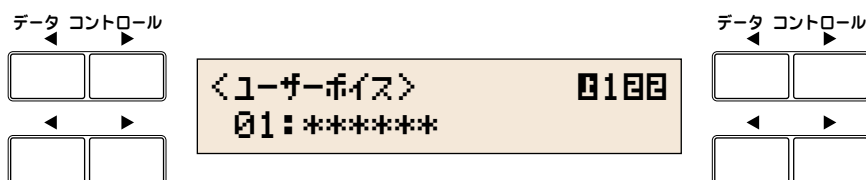


ドットボタンを押し続けたままで、自分の使用したい音色ボタンを押すと、他のページを経由しなくても、すぐにそのページが選択できます。

これで、上鍵盤ボイスのドットボタン1にはホンキートンクが設定されました。

ユーザー音色について

ページ22にはユーザーページがあります。EL-100ではEL-900mなどの上位機種で作られたユーザー音色をそのとおりに再現することはできませんが、EL-100の自動変換機能によって、ある程度原音に近い音色で発音させることができます。ただし、音色によっては、思ったとおりの音にならない場合があります。



4 ボイスメニュー



ディスプレイの音色名は、省略形のものがあります(例：エレピ→エレクトリックピアノ)。

パネル上のボイスボタンを押すと表示される、ボイスメニューのリストです。ドットボタンを使って選べるその他の音色については、33ページをご参照ください。

ストリングス 上鍵盤/下鍵盤

ストリングス1 ピチカート	ストリングス2 シンセストリングス1
------------------	-----------------------

コントラバス ペダル

コントラバス1 ピチカートベース	コントラバス2 アウトライトベース
---------------------	----------------------

ホルン 下鍵盤

ホルン1 ホルン3	ホルン2 ミュートホルン
--------------	-----------------

チューバ ペダル

チューバ ティンパニロール	ティンパニ
------------------	-------

オーボエ リード

オーボエ1 バスーン1	オーボエ2 イングリッシュホルン
----------------	---------------------

サクソフォン 上鍵盤/下鍵盤

サクソフォン1 ソクラノサククス	サクソフォン2 シンセリード1
---------------------	--------------------

コーラス 上鍵盤/下鍵盤

コーラス1 コーラス3	コーラス2 ホーカル
----------------	---------------

オルガン 上鍵盤/下鍵盤

オルガン1 ホップオルガン1	ジャズオルガン1 アコーディオン
-------------------	---------------------

ピアノ 上鍵盤/下鍵盤

ピアノ1 エレピ2	エレピ1 ハーウシコード
--------------	-----------------

ピブラフォン 上鍵盤/下鍵盤

ピブラフォン マリンバ	グロックン シンセチャイム
----------------	------------------

コズミック 上鍵盤/下鍵盤

コズミック1 コズミック3	コズミック2 コズミック4
------------------	------------------

バイオリン リード

バイオリン1 チェロ	バイオリン2 ピチカートバイオリン
---------------	----------------------

ブラス 上鍵盤/下鍵盤

ブラス1 ブラス3	ブラス2 シンセブラス1
--------------	-----------------

トランペット リード

トランペット1 トロンボーン1	トランペット2 ミュートトランペット
--------------------	-----------------------

フルート リード

フルート1 リコーダー	ピッコロ ホイッスル
----------------	---------------

クラリネット 上鍵盤/下鍵盤

クラリネット1 バスクラリネット	クラリネット2 シンセクラリネット1
---------------------	-----------------------

トウッティ 上鍵盤/下鍵盤

トウッティ1 トウッティ3	トウッティ2 トウッティ4
------------------	------------------

ハーモニカ 上鍵盤

ハーモニカ1	ハーモニカ2
--------	--------

オルガンベース ペダル

オルガンベース1 オルガンベース3	オルガンベース2 オルガンベース4
----------------------	----------------------

ギター 上鍵盤/下鍵盤

ギター1 エレキギター1	ギター2 ハーウ
-----------------	-------------

エレキベース ペダル

エレキベース1 シンセベース1	エレキベース2 シンセベース2
--------------------	--------------------

ユーザーボイス 上鍵盤/下鍵盤/ペダル

<ユーザーボイス> 01:*****

*各音色のフィート(オクターブ)設定やエフェクトのオン/オフについては33ページをご参照ください。

ボイスリスト

パネルボタンで選べる音色には ● が付いています。

ページ / 音群	ボイス名	プリセット		イメージ
		フィート	エフェクト	
1ページ 上鍵盤/下鍵盤 ストリングス	● 01:ストリングス1	8'	-	標準的な大編成のストリングスアンサンブル。
	● 02:ストリングス2	8'	-	軽めのストリングス。ポップスにも合う。
	03:ストリングス3	8'	-	小編成のストリングスアンサンブル。
	04:ストリングス4	8'	-	弦をこする音がナチュラル。他の音色とのマッチングも良い。
	05:ストリングス5	8'	-	コンソルディーノ(=弱音器つき)レガート奏向き。
	06:ストリングス6	8'	-	透明感のある響きのストリングス。速いパッセージにも合う。
	07:ストリングス7	8'	-	表情豊かなストリングス。ゆったりとした立ち上がりが特徴。
	● 08:ピチカート	8'	-	ピチカート奏法のストリングス。
	09:トレモロストリングス	8'	-	トレモロ奏法のストリングス。
	● 10:シンセストリングス1	8'	セレステ	立ち上がりのやわらかいシンセストリングス。
	11:シンセストリングス2	8'	シンフォニック	明るいシンセストリングス。
	12:シンセストリングス3	8'	セレステ	やわらかい響きのシンセストリングス。
2ページ リード バイオリン	● 01:バイオリン1	8'	-	いろいろなジャンルに使えるバイオリン。
	● 02:バイオリン2	8'	-	立ち上がりのハッキリしたソロ向き。
	03:バイオリン3	8'	-	明るめのフィドル。カントリーやジャズに合う。
	04:バイオリン4	8'	-	暗めのシンセバイオリン風。タッチの変化が大きい。
	05:バイオリン5	8'	-	深いビブラートが特徴のバイオリン。和音で弾くのも良い。
	● 06:ピチカートバイオリン	8'	-	ピチカート奏法のバイオリンソロ。
	● 07:チェロ	8'	-	立ち上がりの弦をこする音がナチュラルなチェロ。
	08:コキユウ	8'	-	胡弓。
3ページ ペダル コントラバス	● 01:コントラバス1	8'	-	標準的なコントラバス。
	● 02:コントラバス2	8'	-	迫力ある固めのコントラバス。オクターブユニゾンで鳴っている。
	03:コントラバス3	16'	-	ナチュラルなコントラバスのソロ。
	● 04:ピチカートベース	8'	-	ピチカート奏法のコントラバス。クラシック向き。
	● 05:アップライトベース	8'	-	ウッドベース。ジャズ向き。
4ページ 上鍵盤/下鍵盤 ブラス	● 01:プラス1	8'	-	標準的なトランペット+トロンボーンアンサンブル。どちらかといえばクラシック向き。
	● 02:プラス2	8'	-	ビッグバンド風プラス。アタック感が派手。
	● 03:プラス3	8'	-	オクターブで鳴るインパクトの強いプラス。ヒット的に使用してもよい。
	04:プラス4	U16'/L8'	-	トロンボーンアンサンブルプラス。
	05:プラス5	8'	-	ポップスに合うタイトなおクターブプラス。
	● 06:シンセプラス1	8'	-	アタック感の強いシンセプラス。基本レジストレーション5で使用。
	07:シンセプラス2	8'	-	アナログ風のシンセプラス。メロディに使ってもよい。
	08:シンセプラス3	8'	-	ファットなシンセプラス。
5ページ 下鍵盤 ホルン	● 01:ホルン1	8'	-	標準的なタイプ。遠近感の出やすいクラシック向きの音色。
	● 02:ホルン2	8'	-	ホルンユニゾン。やわらかい音色。アルペンホルン風。
	● 03:ホルン3	8'	-	ソロ用として使いやすいタイプ。
	04:ホルン4	8'	-	荘厳に鳴る響くホルンアンサンブル。
	● 05:ミュートホルン	8'	-	ミュートホルン。(弱音)
6ページ リード トランペット	● 01:トランペット1	8'	-	標準的なタイプ。クラシック向き。
	● 02:トランペット2	8'	-	渋さと張りのあるジャズトランペット。
	03:トランペット3	8'	-	甘い音色が特徴のロマンティックなトランペット。
	04:トランペット4	8'	-	アタックにクセのある音色。ラテンなどに合う。
	05:トランペット5	8'	-	シンセトランペット。ややコミカルなサウンド。
	06:トランペット6	8'	-	華やかなソロトランペット。
	● 07:ミュートトランペット	8'	-	ミュートトランペット。(ハーモンミュート)
	● 08:トロンボーン1	U16'/L8'	-	甘めのトロンボーン。レガート奏向き。
	09:トロンボーン2	U16'/L8'	-	明るくて軽めのトロンボーンソロ。速いフレーズにも合う。
	10:ミュートトロンボーン	U16'/L8'	-	ミュートトロンボーン。(カップミュート)
	11:フリューゲルホルン	8'	-	フリューゲルホルン。
	12:ユーフォニウム	U16'/L8'	-	やわらかい音の特徴のユーフォニウム。
7ページ ペダル チューバ	● 01:チューバ	16'	-	チューバ。ソロとしても使える。
	● 02:ティンパニ	8'	-	ティンパニ。
	● 03:ティンパニロール	8'	-	ティンパニロール。
8ページ リード フルート	● 01:フルート1	8'	-	標準的なフルートソロ。
	02:フルート2	8'	-	透明感あるフルートソロ。どちらかといえばレガート奏向き。
	● 03:ピッコロ	4'	-	ピッコロ。
	04:ヨコブエ	4'	-	明瞭な響きの篠笛。
	● 05:リコーダー	4'	-	たて笛。(スベリオ by YAMAHAともいう。)
	06:オカリナ	4'	-	素朴な響きのオカリナ。
	07:パンフルート	8'	-	パンフルート。
	08:シャクハチ	8'	-	息音がナチュラルな尺八。
	● 09:ホイッスル	4'	-	口笛。

2
ボイスセクション

ページ / 音群	ボイス名	プリセット		イメージ
		フィート	エフェクト	
9ページ リード オーボエ	● 01:オーボエ1	8'	-	甘めのオーボエ。
	● 02:オーボエ2	8'	-	タンギングに特徴のある丸い感じの音色。速いフレーズにも合う。
	● 03:イングリッシュホルン	8'	-	イングリッシュホルン。(コーラングレー)
	● 04:バスーン1	U16'/L8'	-	レガート奏向き。(標準)
	● 05:バスーン2	U16'/L8'	-	スタッカート奏向き。
10ページ 上鍵盤/下鍵盤 クラリネット	● 01:クラリネット1	8'	-	標準的なクラリネット。
	● 02:クラリネット2	8'	-	ジャズやポップスに合うクラリネットソノ。
	● 03:バスクラリネット	8'	-	音が太く深みのあるバスクラリネット。
	● 04:シンセクラリネット1	8'	-	広がり感のあるシンセクラリネット。
	● 05:シンセクラリネット2	8'	-	立ち上がりに特長があるシンセリード。
11ページ 上鍵盤/下鍵盤 サクソフォン	● 01:サクソフォン1	U16'/L8'	-	標準的なタイプ。アルトサクソフォニックなサウンド。
	● 02:サクソフォン2	U16'/L8'	-	タンギングの非常に強い個性的なテナーサクソ。
	● 03:ソプラノサクソ	8'	-	ソプラノサクソ。
	04:サクソEns. 1	U16'/L8'	-	やわらかいトーン。クラシック向き。
	05:サクソEns. 2	U16'/L8'	-	ビッグバンド風サクソセクション。
	06:シンセサクソ	8'	-	中低域の厚みが特長のウインドシンセ。
	● 07:シンセリード1	8'	-	ソフトなアナログ風シンセリード。
	08:シンセリード2	8'	-	アタック感のあるクリアなシンセリード。
	09:シンセリード3	4'	-	ハスキーなノイズリード。
	10:シンセリード4	8'	-	デジタル風シンセリード。
	11:シンセリード5	8'	-	4thで重ねた太いシンセリード。
12ページ 上鍵盤/下鍵盤 トウティ	● 01:トウティ1	8'	-	ストリングスユニゾン+木管アンサンブル。
	● 02:トウティ2	8'	-	ストリングスユニゾン+プラス。
	● 03:トウティ3	8'	-	プラス中心。クラシックや吹奏楽にもよい音色。
	● 04:トウティ4	8'	-	ビッグバンド。弱く弾くとサクソのみ、強く弾くと1オクターブ上のプラスが加わる。
	05:トウティ5	8'	-	吹奏楽などにより木管アンサンブル。音域によって楽器が異なる。
	06:トウティ6	8'	-	木管五重奏風。
	07:トウティ7	8'	-	金管アンサンブル。
13ページ 上鍵盤/下鍵盤 コーラス	● 01:コーラス1	8'	-	女性 Ah。
	● 02:コーラス2	8'	-	男性 Wh。シンセ的な音作りになっている。
	● 03:コーラス3	8'	-	混声合唱。
	04:コーラス4	8'	-	美しい響きの混声合唱。Wh。
	05:コーラス5	8'	-	スキャット風のボーカルアンサンブル。
	● 06:ボーカル	8'	-	クセの強いソロボーカル。Ah。
14ページ 上鍵盤 ハーモニカ	● 01:ハーモニカ1	8'	-	標準的なタイプ。
	● 02:ハーモニカ2	8'	-	ソロハーモニカ。プレスなどに合う。
15ページ 上鍵盤/下鍵盤 オルガン	● 01:オルガン1	8'	-	小規模なパイプオルガン。8'。
	02:オルガン2	8'	-	大規模なパイプオルガン。フルカブラー。
	03:オルガン3	8'	-	パイプオルガンナザール音栓ミックス。8' + 2 2/3'。
	04:オルガン4	8'	-	足踏みオルガン風。懐かしいサウンド。
	● 05:ジャズオルガン1	16'	コーラス	(16' + 8' + 5 1/3') ソロ向き。
	06:ジャズオルガン2	16'	トレモロ	(16' + 8' + 2) ブロックコート向き。
	07:ジャズオルガン3	16'	トレモロ	(16' + 1 3/5' + 1 1/3' + 1') 高い倍音入り。クラスター奏法により。
	08:ジャズオルガン4	16'	コーラス	太くノイズなジャズオルガン。
	● 09:ポップオルガン1	8'	コーラス	(8' + 4' + 2 2/3') ジャズオルガンのLK向き。ブライト。
	10:ポップオルガン2	8'	コーラス	マルチユース。LK向き。落ちついた音色。
	11:シアターオルガン1	8'	シンフォニック	(8' + 4') 立ち上がりが遅いのがシアターオルガンの特徴。
	12:シアターオルガン2	8'	-	(16' + 8') 立ち上がりが遅いのがシアターオルガンの特徴。
	● 13:アコーディオン	8'	-	アコーディオン。立ち上がり遅め。
	14:バンドネオン	8'	-	バンドネオン。インシャルタッチで音の立ち上がりの変化がつく。
16ページ ベダル オルガンベース	● 01:オルガンベース1	8'	-	8'系を中心としたコンビネーションオルガンベース。
	● 02:オルガンベース2	16'	-	パイプオルガンベースI。標準タイプ。ORGAN 1と合う。
	● 03:オルガンベース3	16'	-	16'中心。ジャズオルガンに合う。
	● 04:オルガンベース4	16'	-	パイプオルガンベースII。ORGAN 1と合う。フルカブラー。
17ページ 上鍵盤/下鍵盤 ピアノ	● 01:ピアノ1	8'	-	マルチユースのグランドピアノ。
	02:ピアノ2	8'	-	ポップスに合う明るい音色のピアノ。
	03:ホンキートンク	8'	-	ホンキートンクピアノ(調律を狂わせたピアノ)。
	● 04:エレピ1	8'	セレステ	DX7風エレピ。
	● 05:エレピ2	8'	セレステ	ファットなオールドスタイルのエレピ。ハンマー音に特徴。
	06:エレピ3	8'	-	クリスタルな輝きを持ちつつ深みのあるエレピ。
	● 07:ハーブシコード	8'	-	チェンバロ。
	08:クラビ	16'	-	ファンキーなクラビ。
	09:クラビコード	8'	-	おちついた響きのクラビコード。

ページ / 音群	ボイス名	プリセット		イメージ
		フィート	エフェクト	
18ページ 上鍵盤/下鍵盤 ギター	● 01:ギター1	U16'/L8'	-	フォークギター。スチール弦。
	● 02:ギター2	U16'/L8'	-	フルアコースティックジャズギター。
	03:ギター3	U16'/L8'	-	クラシック。ガット弦。ボサノバのバックギンなどにもよい音色。
	04:12ゲンギター	U16'/L8'	-	少し派手な響きがある12弦クラシカルギター。
	05:バンジョー	8'	-	バンジョー。カントリーやディキシーランドに。
	06:マンドリン	8'	セレステ	マンドリン。
	07:シタール	8'	-	シタール。低音の弦と中高音域の響きの違いが特長。
	08:シャミセン	8'	-	三味線。
	● 09:エレキギター1	U16'/L8'	-	バックギン向き。シングルコイルマイクのソリッド。
	10:エレキギター	U16'/L8'	-	ソロ向き。オーバードライブがかかったタイプ。
	11:ミュートギター	U16'/L8'	-	ミュート奏法によるギター。
	12:ディストーションGt	U16'/L8'	-	ディストーションギター。
	● 13:ハーブ	8'	-	ハーブ。グランドハーブ。
	14:スチールギター	8'	-	ハワイアンギター。グライドを使うと効果的。
	15:コト	8'	-	お琴。
	16:タイショウゴト	4'	セレステ	大正琴。
19ページ 上鍵盤/下鍵盤 ビブラフォン	● 01:ビブラフォン	8'	-	ビブラフォン。
	● 02:グロックン	4'	-	グロックンシュピール。
	03:チェレスタ	4'	-	チェレスタ。
	04:オルゴール	4'	-	アンティークなオルゴールサウンド。
	● 05:マリンバ	8'	-	コンサートマリンバ。
	06:シロフォン	4'	-	イニシャルタッチによる変化が大きいシロホン。
	07:チャイム	4'	-	チャイム。
	● 08:シンセチャイム	8'	セレステ	かわいいキラキラした音。
	09:スチールドラム	8'	-	スチールドラム。
20ページ ペダル エレキベース	● 01:エレキベース1	8'	-	マルチユースのフィンガードベース。
	● 02:エレキベース2	16'	-	スラップベース。いわゆるチョッパーベース風。タッチ感強い。
	03:エレキベース3	16'	-	ピックを使って弾いたアタック感の強いベース。
	04:エレキベース4	16'	セレステ	フレットレスベース。ソロとしても使える。
	● 05:シンセベース1	16'	-	シンセベース。持続音。
	● 06:シンセベース2	16'	-	シンセベース。立ち上がりのハッキリした音。
	07:シンセベース3	16'	-	シンセベース。ポヨ〜ンポワン?(タッチによって変化)
21ページ 上鍵盤/下鍵盤 コズミック	● 01:コズミック1	4'	-	マルチユースなディケイタイプ。基本レジストレーション4のUK。
	● 02:コズミック2	8'	-	チェレスタの低音のイメージ。基本レジストレーション4のLK&PK。
	● 03:コズミック3	8'	-	ブラス系。基本レジストレーション5のLK。
	● 04:コズミック4	8'	-	ディケイタイプ。ファンタスティック。
	05:コズミック5	8'	-	フィードバックつき宇宙音のイメージ。
	06:コズミック6	8'	-	シンセブラス風。
	07:コズミック7	8'	-	フィードバックつきボーカル風。
	08:コズミック8	8'	-	フィードバックつきディストーション風。
	09:コズミック9	8'	-	独特のフィードバックつきディケイタイプ。
	10:コズミック10	8'	-	透感のあるシンセパッド。
	11:コズミック11	8'	-	デジタル風シンセパッド。
	12:コズミック12	8'	-	コーラス風シンセパッド。
	13:コズミック13	8'	-	立ち上がりの緩やかなSFXサウンド。音色変化が激しい。
	14:コズミック14	8'	-	幻想的なデジタルオルゴール風サウンド。
	15:コズミック15	8'	-	民族的な香りのするシンセパーカッション。
	16:コズミック16	16'	-	SFXサウンド。様々な音が複雑な織りを織ります。

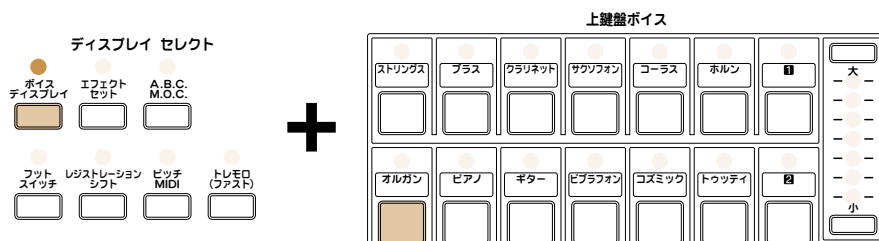
いくつかの音色は、EL-900などの上位機種との音色名と同じでも、響き方や聞こえ方が異なる場合があります。

内蔵音群(上鍵盤ボイス2、下鍵盤ボイス2、ペダルボイス2)の音色を設定する

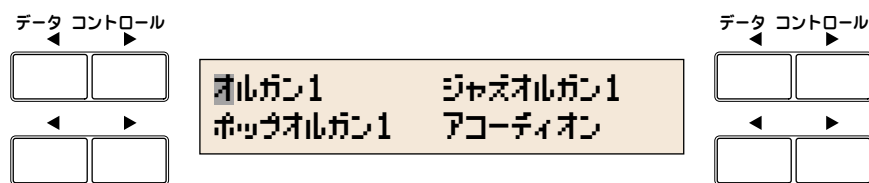
内蔵音群の音色をLCDディスプレイに呼び出して選択することができます。この機能を使うことによって、各鍵盤で音色を重ねて、音に厚みをつけることができます。

ここでは上鍵盤ボイス2の音色を選ぶ例を使って手順を説明します。

1. ディスプレイセレクトセクションのボイスディスプレイボタンを押しながら、上鍵盤ボイスセクションの中のいずれかのボタンを押します。



たとえば、オルガンボタンを押した場合、LCDディスプレイ上に以下の表示が表れます。



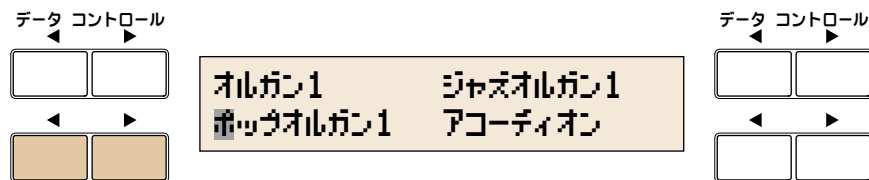
ディスプレイ上には、オルガン音色のボイスメニューが表示されます。



NOTE

このとき、上鍵盤ボイスセクションのランプは変化しません。

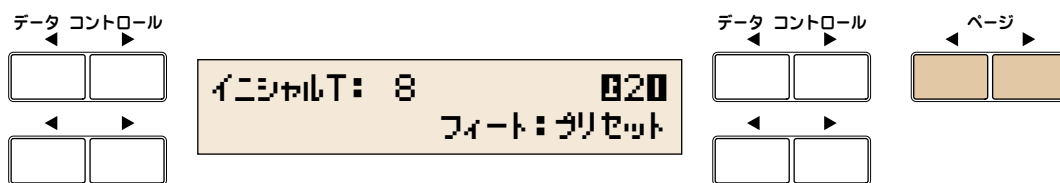
2. ボイスメニューの中から使用したい音色を選択します。
イラストのように、自分の使用したい音色と同じ位置にあるデータコントロールボタンを押します。(この場合ポップオルガン1)



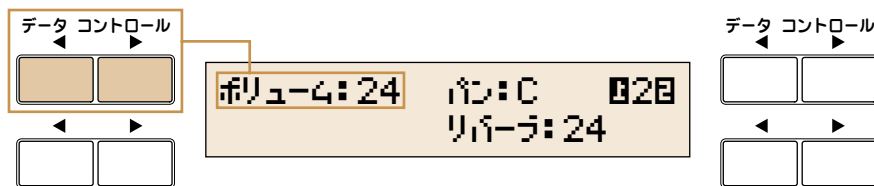
選択された音色名の最初の文字が点滅します。これで上鍵盤ボイス2には、ポップオルガン1が設定されました。

3. 次に、上鍵盤ボイス2の音量を設定します。

手順2で選んだデータコントロールボタンをもう一度押すと、LCDディスプレイ上にはボイスコンディション画面の1ページ目が表示されます。



ページボタンを押して、ボイスコンディション画面の2ページ目を表示させます。LCDディスプレイの左上に、ボリューム値が表示されますので、その左側にある一組のデータコントロールボタンを使って、音量を調節します。



同様に、下鍵盤ボイス2やペダルボイス2の音色を設定することができます。



NOTE

ボイスディスプレイボタンを押しながら、上鍵盤ボイスのボリュームボタンを押すことでも、上鍵盤ボイス2のボリュームを変えることができます。



NOTE

上鍵盤ボイス2の音量を変更しても、パネル上のボリュームランプの位置は変化しません。パネル上のボリュームボタンはパネル上の音群専用になっています。

EL-100では、ボイス コンディション画面やエフェクト セット画面を使用して、選択した音色に色々なコントロールやエフェクトを加えて、多彩に変化させることができます。

また、音色によっては、あらかじめエフェクトがプリセットされているものもありますが、すべてお好みに応じて設定を変えることが可能です。搭載したエフェクトは、すべてデジタルエフェクトです。

下図は個々の音群に設定可能なコントロールやエフェクトのリストです。コントロール/エフェクトは種類によってかかり方が異なり、各音群ごと、鍵盤ごと、そして楽器全体にかかるものがあります。

	イニシャルタッチ	フィット	ボリューム	パン	リバーブ量	トレモロ/コーラス*	シンフォニック/セレステ	ディレイ	フランジャー	ディストーション	ピラート	リードスライド	リードチューン	リバーブ	サステイン	
上鍵盤ボイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	
下鍵盤ボイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	
リードボイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ペダルボイス	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—		○	
関連したLCDディスプレイ	ボイスコンディションページ1	○	○	—	—	—										
	ボイスコンディションページ2			○	○	○					—					
	ボイスコンディションページ3 *2						○	○	○	○						
	ボイスコンディションページ4										○					
	ボイスコンディションページ5<リードボイスのみ>											○	○			
	エフェクトセット画面 *2	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○					
	リバーブ画面													○		
	サステイン画面															○
トレモロコントロール画面						○									—	

*1 トレモロ/コーラスのオン/オフおよび、トレモロ/コーラスの切り替えは、楽器全体で1つです。

*2 ボイスコンディションページ3とエフェクトセット画面は、共通の内容になっています。

またコントロールやエフェクトを加えるには

1. ボイス コンディション画面で設定するもの
2. エフェクト セット画面で設定するもの
3. パネルボタンで呼び出すもの

の3種類に大別されます。

ここでは、この順序に従って、各コントロール/エフェクトを説明していきます。

1 ボイス コンディション画面で設定するもの

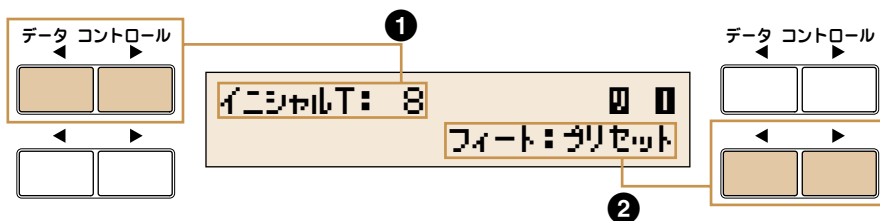
ボイス コンディション画面を呼び出すには

パネル上の音色ボタンを二度続けて押すと(LCDディスプレイ上に使用したい音色【音群】がすでに表示されている場合は一度だけ押すと)、LCDディスプレイ上にボイスコンディション画面の1ページ目が現れます。



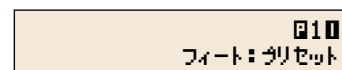
上鍵盤ボイス/下鍵盤ボイス/ペダルボイスの各音群にはそれぞれ4ページのボイスコンディション画面があります。またリードボイスの音群には、これらの4ページに1ページ加えた5ページのボイスコンディション画面があります。

【ページ1】ボイス コンディション画面



ペダル音群とそれ以外の音群によって内容が異なります(ペダル音群にはフィートの設定しかありません)。

ペダル



① イニシャルT(イニシャルタッチ)

鍵盤をたたくスピードによって、音量と音質をコントロールします。

一般的に、鍵盤をより強く弾けばそれだけ音量は大きくなり、音質は明るくなります。個々の楽器特有の微妙な表現が可能です。

レベルを上げるとタッチによる変化が大きくなります。

音群ごとに設定することができます。

設定範囲：0～14



レベルを0にすると、イニシャルタッチはかからなくなります。



オルガンの一部の音色では、イニシャルタッチはかかりません。

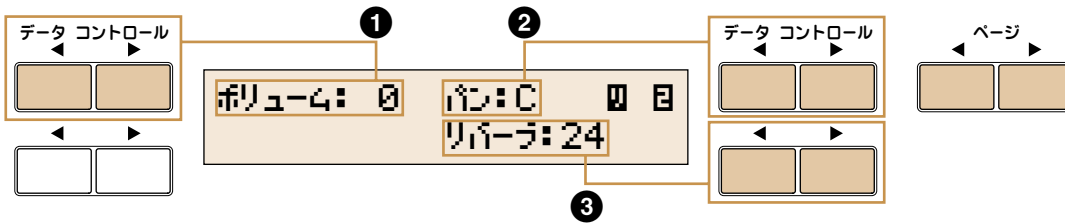
② フィート

各音群ごとに異なったオクターブに設定できます。1つの音色を幅広い音域で使用することもできます。

プリセットが基本設定で、4'、8'、16'の3種類の設定が可能です。なお、ペダル音群の場合さらに2'の設定が追加されます。

[ページ2]ボイス コンディション画面

ページボタンで2ページ目を選びます。



① ボリューム

音量の細かな設定を行ないます。29ページをご参照ください。

設定範囲：0～24

② パン

ステレオ出力によるそれぞれの音群ごとの楽器音の位置を決定します。

パンは、左右に7ヶ所の位置-左端(L3)～L2～L1～まん中(C)～R1～R2～右端(R3)の範囲で設定することができます。

③ リバーブ

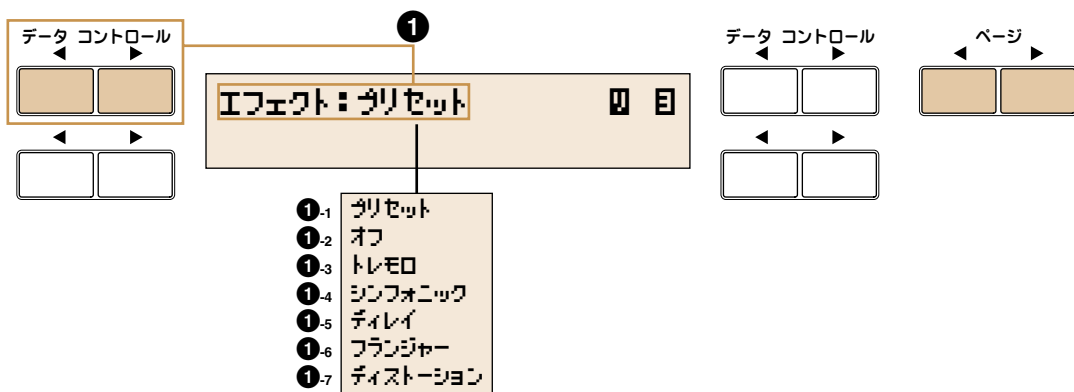
音群ごとにかけるリバーブの量を設定します。このリバーブを最大にしても、パネル上のリバーブ全体のボリュームを上げないと、リバーブ効果は得られません。

詳しくは49ページをご参照ください。

設定範囲：0～24

[ページ3]ボイスコンディション画面

ページボタンで3ページ目を選びます。



① エフェクト

ここで、音群ごとにかかるエフェクトの種類を選択します。

LCDディスプレイ左上のデータコントロールボタンの▶を押すたびに、プリセット→オフ→トレモロ→シンフォニック→ディレイ→フランジャー→ディストーション→プリセットの順番でエフェクトを選ぶことができます。また、データコントロールボタンの◀を押すたびに、逆の順番でエフェクトを選ぶことができます。

①-1 プリセット

プリセットが初期設定になっています。プリセットが選択されていると、音色によっては、あらかじめエフェクトが設定されているものがあります。

①-2 オフ

エフェクトはかかりません。

①-3 トレモロ

音群ごとにトレモロ/コーラス効果を加えるか加けないかを選択します。演奏中のオン/オフやトレモロスピードの設定については、51ページをご参照ください。

①-4 シンフォニック

シンフォニック/セレステをオンにします。シンフォニック/セレステの設定については、エフェクトセット(44ページ)をご参照ください。

①-5 ディレイ

ディレイをオンにします。ディレイの設定については、エフェクトセット(45ページ)をご参照ください。

①-6 フランジャー

フランジャーをオンにします。フランジャーの設定については、エフェクトセット(47ページ)をご参照ください。

①-7 ディストーション

ディストーションをオンにします。ディストーションの設定については、エフェクトセット(48ページ)をご参照ください。

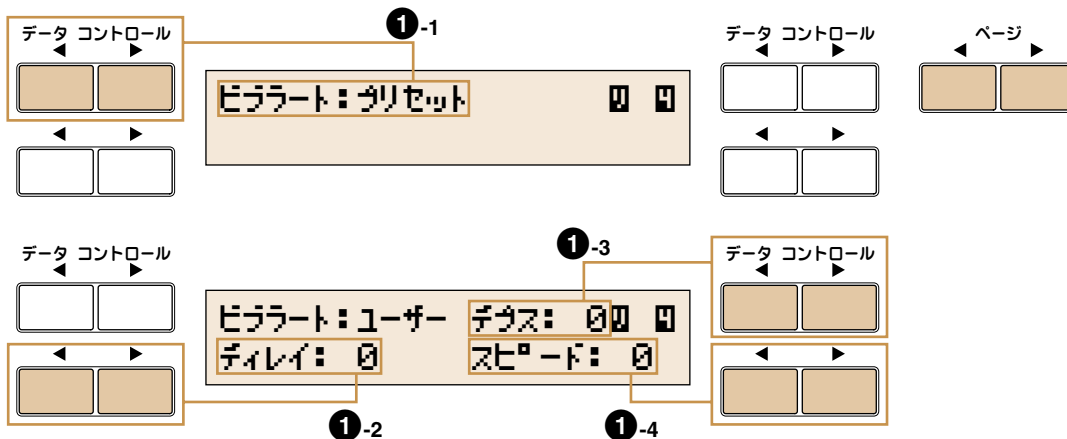


NOTE

エフェクトは、パネルのディスプレイセレクトセクションの中のエフェクトセットボタンで設定することもできます(43ページ)。

【ページ4】ボイスコンディショニング画面

ページボタンで4ページ目を選びます。



① ビブラート

ビブラートは、音色をふるわせてマイルドなイメージにします。音群ごとの設定が可能です。

①-1 プリセット/ユーザー切り替え

プリセットが初期設定になっています。プリセットが選択されていると、音色によっては、あらかじめビブラートが設定されているものがあります。

ユーザーを選択すると、ディスプレイ上にビブラートのパラメーターが現れ、自分でビブラートの設定ができるようになります。

①-2 ディレイ

鍵盤を押してからビブラートがかかるまでの時間の長さを決定します。レベルを上げるとビブラートがかかるまでの時間が長くなります。

設定範囲：0～14

①-3 デプス

ビブラートの深さを設定します。レベルを上げるとより深い効果が得られます。

設定範囲：0～14

①-4 スピード

ビブラートの速さを設定します。

設定範囲：0～14

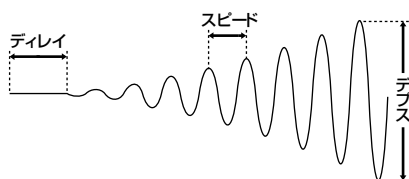


NOTE
音色によっては、ユーザー設定どおりビブラートが得られないものがあります(ハーモニカ2、エレクトリックピアノ1、シンセチャイムなど)。



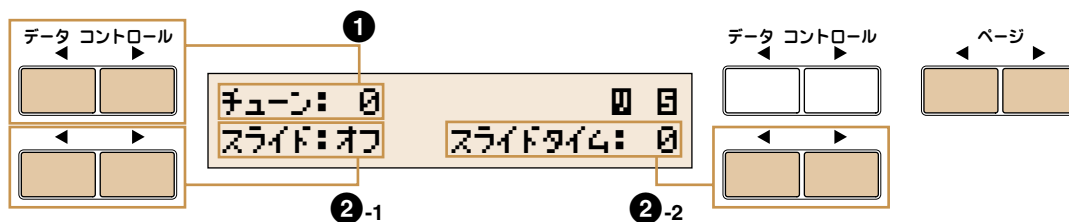
NOTE
プリセットの場合、ディスプレイ上にディレイ、デプス、スピードの各パラメーターは表示されません。

ビブラートコントロール



[ページ5]ボイスコンディション画面(リードボイスのみ)

ページボタンで5ページ目を選びます。



① チューン

より豊かな楽器表現力を得るために、ほかの音色と比べてリードボイスのピッチを少し上げ、音の厚みを増します。レベルを上げるほど、ピッチは高くなります。
設定範囲：0～24(最大28.88セント；設定範囲の1ステップあたり約1.2セント)

② スライド

スライドは、レガート奏法の音色にポルタメント効果を加えます。リードボイス音群に、1オクターブの範囲内でかけることができます。

②-1 オン/オフ

スライドのオン/オフの設定を選択できます。オンに設定するとスライドし、オフに設定するとスライドしません。

②-2 スライドタイム

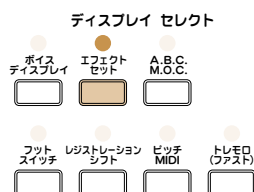
スライド(ポルタメント)の速さを設定します。レベルを上げることで、スライド効果のスピードを遅くします。

設定範囲：0～14

2 エフェクトセット画面で設定するもの

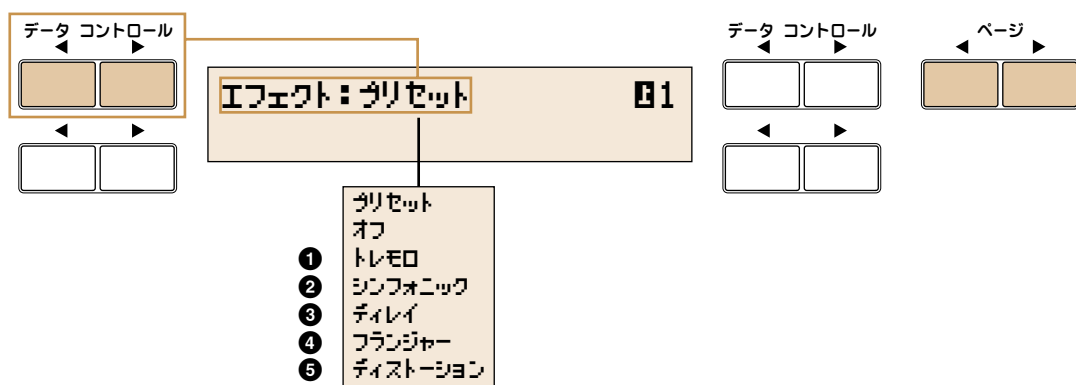
エフェクトセット画面を呼び出すには

ディスプレイセレクトセクションの中のエフェクトセットボタンを押すと、LCDディスプレイ上にエフェクトセット画面が現れます。



このディスプレイの構成は、エフェクトの設定をしたい音群をページボタンで選ぶことを除いて、ボイスコンディション画面の3ページ目とまったく同じです。プリセットとオフについては41ページをご参照ください。

ここでは、各エフェクトについて説明します。



音群選択

ページボタンで、エフェクトを設定したい音群を選択します。各略称が示す音群は次のとおりです。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 01 : 上鍵盤ボイス | 02 : 上鍵盤ボイス2 |
| 11 : 下鍵盤ボイス | 12 : 下鍵盤ボイス2 |
| 0 : リードボイス | 02 : ペダルボイス2 |
| 01 : ペダルボイス | |

① トレモロ/コーラス

トレモロ/コーラスについては、51ページをご参照ください。

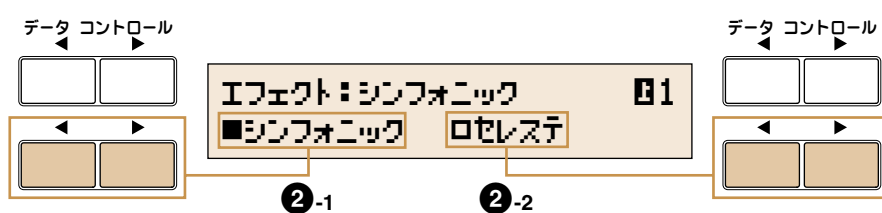
② シンフォニック/セレステ

シンフォニックまたはセレステを選択します。

シンフォニックは、音色に豊かで広がりのある効果を加えます。

セレステは、シンフォニックより、ゆったりとした効果になります。

データコントロールボタンを押して、設定したい効果の名称の左のボックスを■に設定すると、その効果が有効になります。



この図では、現在シンフォニックの効果が有効になっています。

②-1 シンフォニック

選ばれている音群にシンフォニックをかけます。

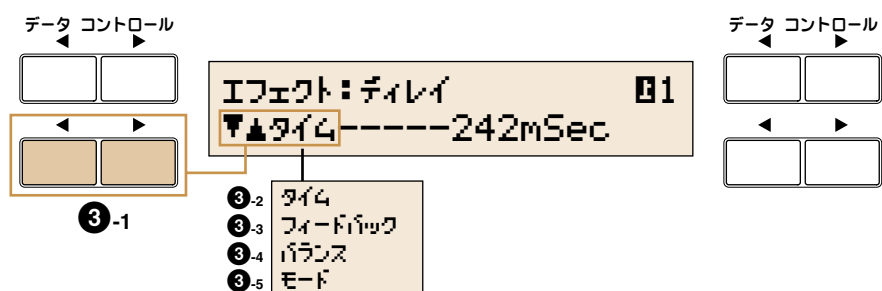
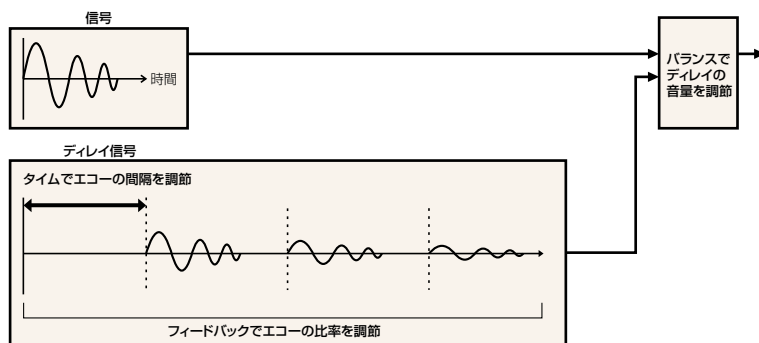
②-2 セレステ

選ばれている音群にセレステをかけます。

③ デイレイ

デイレイとは、音声信号をデイレイさせる(遅らせる)ことで、時間差をおいて繰り返し得られるエコー効果のことです。音群ごとに設定可能です。

デイレイの概念図

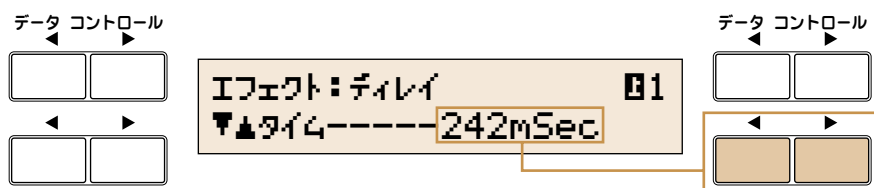


③-1 パラメーター選択

左下のデータコントロールボタンで、デイレイのパラメーターを選択します。設定できるパラメーターは次のとおりです。

③-2 タイム

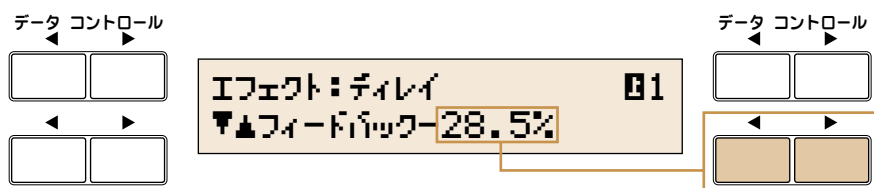
繰り返し得られるエコーの間隔を設定します。



設定範囲：5mSec～956mSec

③-3 フィードバック

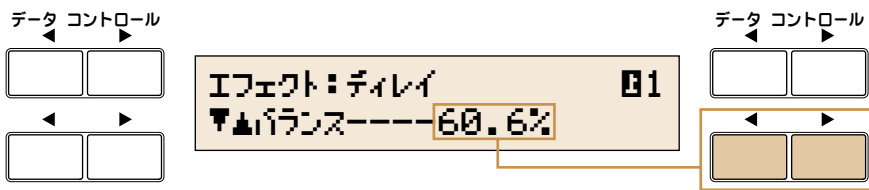
フィードバックの比率を決定します。



設定範囲：0.2%～46.9%

③-4 バランス

演奏した音に対してのディレイ効果の音量を設定します。高い設定にすればする程、ディレイの音量は大きくなります。

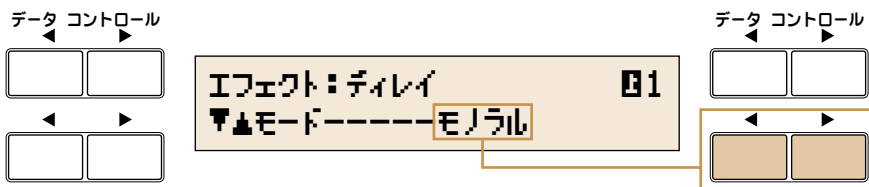


設定範囲：0%~100%

③-5 モード

ディレイ効果のかけ方(モノ/ステレオなど)を設定します。モノラルを選ぶと、モノラルのディレイ効果が得られます。

ステレオ1~ステレオ3を選ぶと、音が左右に飛ぶように繰り返されたり、より広がりのあるステレオディレイ効果が得られます。



設定範囲：モノラル、ステレオ1、ステレオ2、ステレオ3

エフェクトイメージ

モノラル

ノーマルなモノラルディレイです。

ステレオ1

複雑な反射を持つマルチディレイです。最も広がり感があるタイプです。

ステレオ2

シンプルなステレオディレイです。フィードバックが0(初期反射のみ)で特殊な演奏効果にも使用できます。

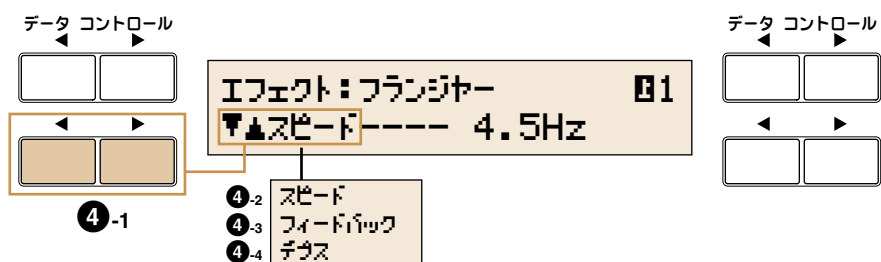
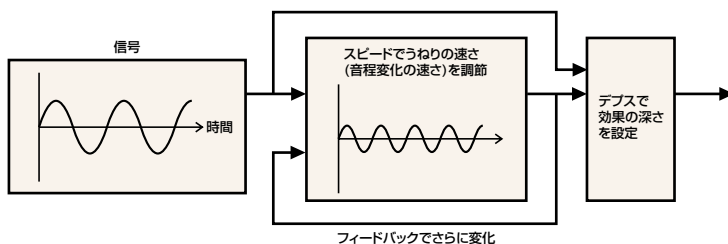
ステレオ3

モノラルディレイ風ですが、音色にツヤと厚みが加わります。

④ フランジャー

フランジャーは、音にうねりを与え、回転しているような効果を演出します。音群ごとに設定可能です。

フランジャーの概念図

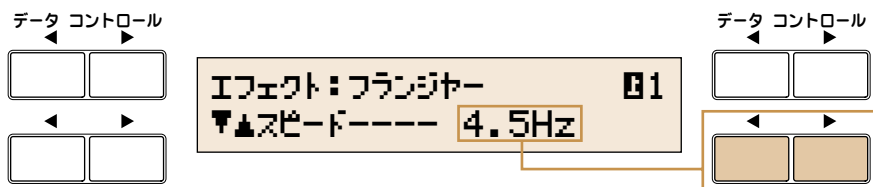


④-1 パラメーター選択

左下のデータコントロールボタンで、フランジャーのパラメーターを選択します。設定できるパラメーターは次のとおりです。

④-2 スピード

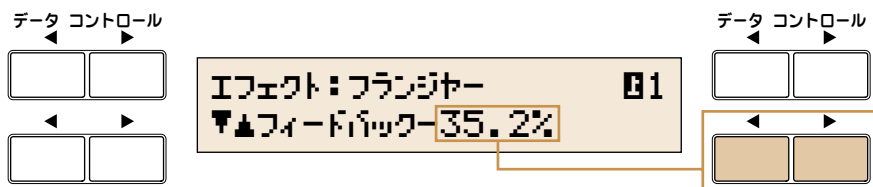
うねりの速さ(音程変化の速さ)を設定します。



設定範囲：0Hz～12.1Hz

④-3 フィードバック

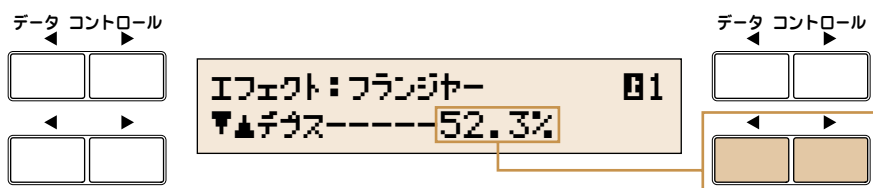
金属的な鋭さを加えたりして、効果を変化させます。



設定範囲：0.6%～94.0%

④-4 デプス

フランジャー効果の深さを設定します。

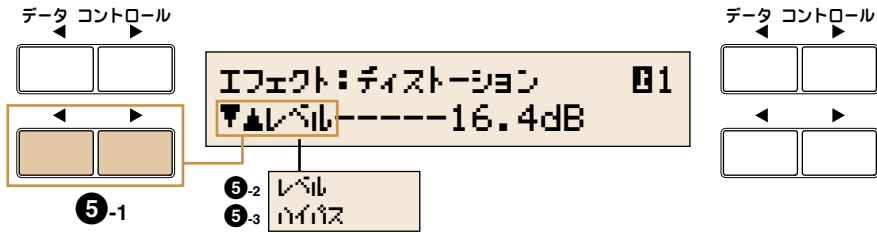
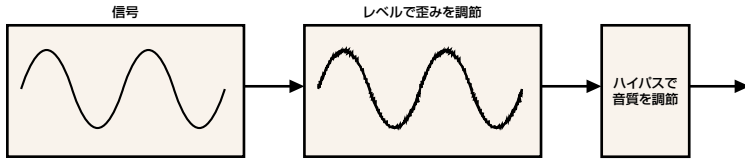


設定範囲：37.8%～87.8%

⑤ ディストーション

ディストーションは音に歪みを与える効果です。音群ごとに設定可能です。

ディストーションの概念図

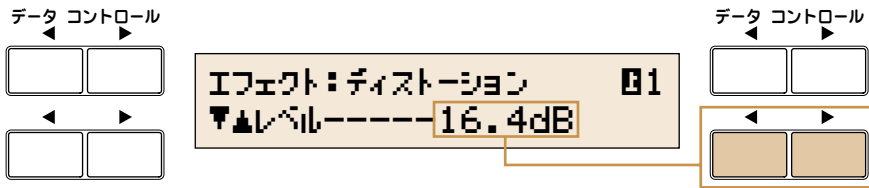


⑤-1 パラメーター選択

左下のデータコントロールボタンで、ディストーションのパラメーターを選択します。設定できるパラメーターは次のとおりです。

⑤-2 レベル

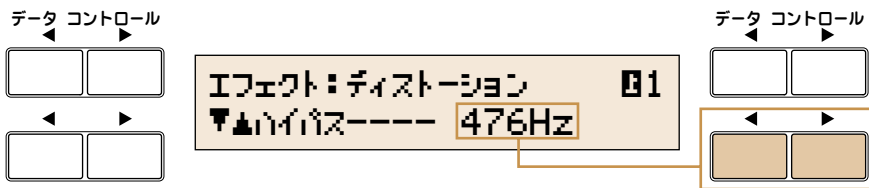
歪みのレベルを設定します。



設定範囲：0dB～21.8dB

⑤-3 ハイパス

歪ませた音の音質を調節します。



設定範囲：20Hz～1036Hz

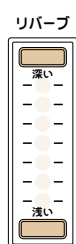
3 パネルボタンで設定するもの

リバーブやサステイン、そしてトレモロ/コーラスは、パネル上のボタンを使って、それぞれのページをLCDディスプレイ上に呼び出して、設定します。

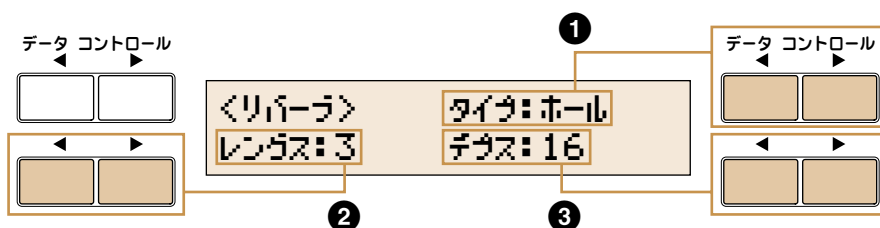
(1) リバーブ

リバーブによって、広い部屋やコンサートホールで演奏しているような、音が響きわたる効果を得ることができます。リバーブを楽器全体に同時にかけることや、それぞれの音群ごとにかける量を設定することができます。さらに、リズムやアカンパニメントに別々にかけることも可能です。

リバーブを設定するには、パネル上の左端にあるリバーブボタンを押します。LCDディスプレイ上にリバーブ画面が現れます。



リバーブ画面



① タイプ

リバーブの種類を選択します。ルーム、ホール、チャーチの3種類があります。リバーブの深さはルームが一番浅く、チャーチが一番深い設定になっています。

② レンクス

リバーブの長さを設定します。レベルを上げるとより長い設定となります。
設定範囲：0～6

③ デプス

リバーブの深さを調節します。パネル面のリバーブボリュームは、このデプスの程度を表示しているものです。パネル面では7段階の調節ができますが、このデプスを使うことでさらにきめ細かな設定が可能です。

設定範囲：0～24



NOTE

デプスの設定が0もしくはそれに近い状態の場合は、音群ごとのボイスコンディション画面の2ページ目にあるリバーブ量を設定しても、リバーブ効果は得られません。

(2) サステイン

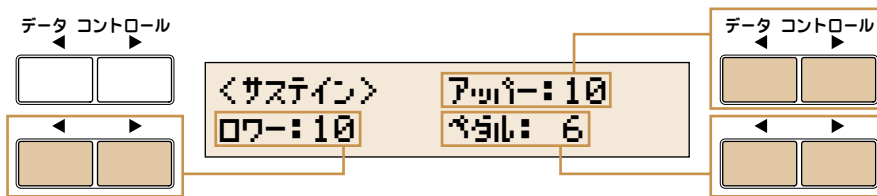
サステインは、鍵盤から指を離した後に音に余韻を与える効果です。上鍵盤/下鍵盤/ペダル鍵盤ごとにオン/オフしたり、サステインの長さを調節することができます。

サステインを設定するには、パネル上の左端にあるサステインボタンを押します。LCDディスプレイにサステイン画面が現れます。

サステインボタンを押すと、ボタンの真上のランプが点灯しサステインがオンの状態であることを示します。もう一度押すことで、サステインはオフになります。



サステイン画面



アップー(上鍵盤)/ロー(下鍵盤)/ペダル

各サステインの真横にあるデータコントロールボタンで長さを調節します。それぞれが個々の鍵盤にかかるサステインの長さを表します。

設定範囲：0～12



NOTE

サステインはリードボイスにはかかりません。



NOTE

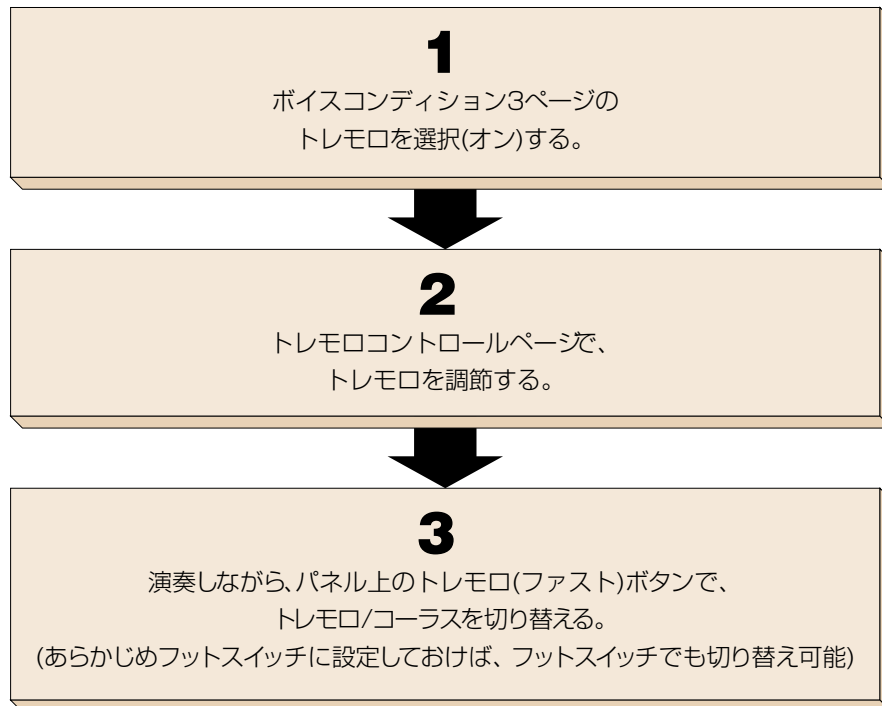
サステインボタンはオン/オフスイッチです。演奏前に、オンの状態になっているか必ず確認しましょう。

(3) トレモロ/コーラス

トレモロは、スピーカーを回転させて得られるような豊かで広がりのある効果をつくり出します。従来のロータリースピーカーと同じように、回転のスピードを切り替えることができ、速さの微調整も可能です。パネル上のトレモロボタンや、左のフットスイッチを使ったりして、演奏中もリアルタイムで効果が得られます。

■ トレモロ設定の手順

ボイスメニューの音色

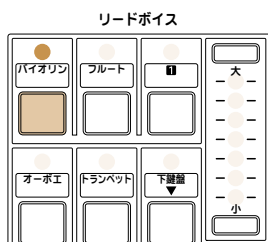


(1)トレモロを設定するには

パネル面のトレモロ(ファスト)ボタンをオンにするだけでは、トレモロ効果は得られません。最初に個々の音群ごとにエフェクトの中からトレモロを選択します。音群ごとに設定することができます。

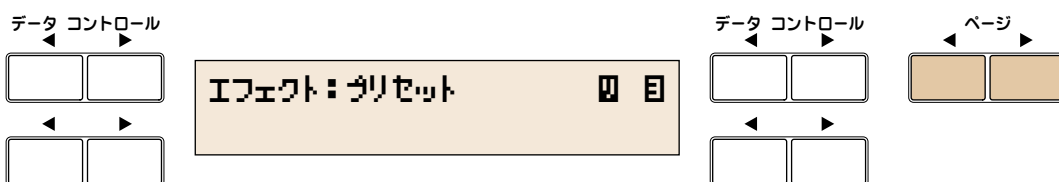
トレモロを選択する

1 パネル上のトレモロ効果を使いたい音色のボタンを二度押します。

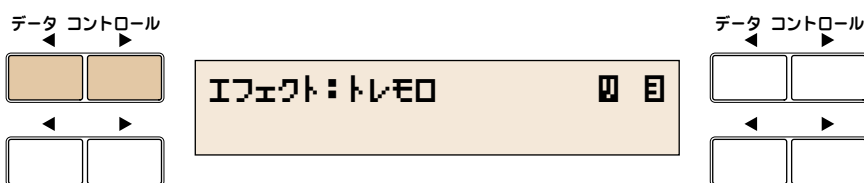


ボイス コンディション画面がLCDディスプレイ上に表示されます。

2 ページボタンを使って、ボイス コンディション画面の3ページ目を選択します。



3 LCDディスプレイのエフェクトの中から、トレモロを選択します。これで、その音色の属する音群に、トレモロが設定されます。



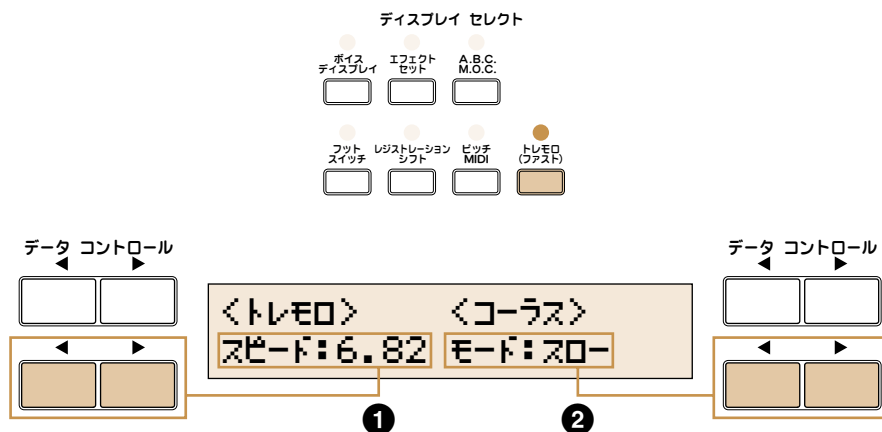
(2) トレモロを調節するには

トレモロコントロール画面でのトレモロの調節は、エレクトーン全体にかかります。

トレモロを調節し具体的な設定をする

パネル上のディスプレイセレクトセクションのトレモロ(ファスト)ボタンを押します。

LCDディスプレイ上にトレモロコントロール画面が表示されます。



ボタンの上のランプが点灯し、トレモロが選択されたことを示します。このボタンを使って演奏中にトレモロとコーラスの切り替えをします。

① <トレモロ>スピード

トレモロの回転するスピードを調節します。

設定範囲：4.75Hz～7.77Hz

② <コーラス>モード

パネル上のトレモロ(ファスト)ボタンがオフの状態でのモードのスローを選択すると、コーラスがかかります。ストップを選択した上で、トレモロ(ファスト)ボタンをオフにすると、スピーカーの回転が止まるような効果が得られます。

(3) 演奏しながらトレモロを使う

これで、トレモロをあらかじめ設定し、演奏しながら簡単にトレモロ/コーラスの切り替えが可能になりました。ディスプレイセレクトセクションの中のトレモロ(ファスト)ボタンを使ったり、フットスイッチを使って、トレモロ効果をコントロールしてください。(トレモロは、あらかじめ設定しておけば、フットスイッチでもコントロールできます。詳しくは、106ページのフットスイッチセクションをご参照ください。)

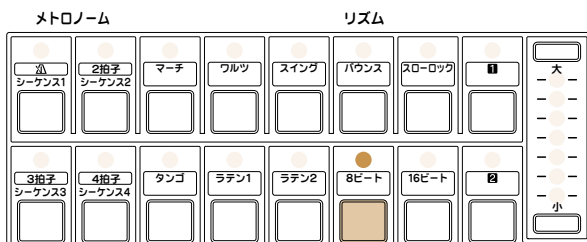
リズムセクションは個々の楽器音をサンプリングしたボイスメニューの音色と同じように、実際のドラムやパーカッションサウンドをサンプリングしたものを内蔵しており、迫真のリズムサウンドが得られます。また、洗練されたアカンパニメント機能で、演奏にナチュラルで多彩な彩りを添えることができます。さらに、下鍵盤やペダル鍵盤を使って、リアルタイムでのパーカッション演奏をお楽しみいただけます(キーボードパーカッション機能)。

1 パネルでリズムを選ぶ

リズムもボイスメニュー音色と同じように、パネル面のリズムボタンを押してLCDディスプレイのリズムメニューを呼び出すことにより、66種類のさまざまなリズムパターンを選択することができます。

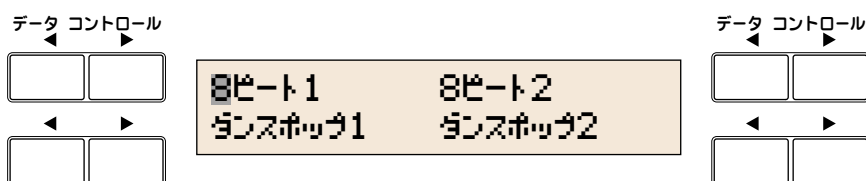
(1) リズムメニューのリズムを選びスタートさせるには

- 1 パネル面左のリズムセクションで、使用したいリズムの属するリズムボタンを押します。



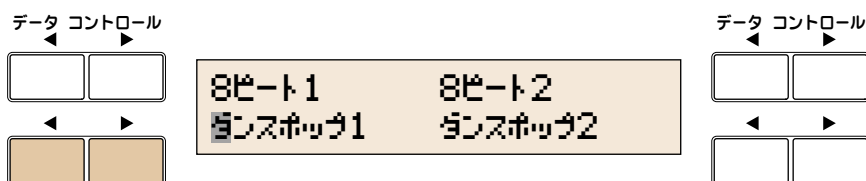
NOTE
初期設定(電源オン時の状態)では、シーケンス1~4ボタンにそれぞれメトロノーム音(アクセントなし、2拍子、3拍子、4拍子)が割り当てられています。

LCDディスプレイ上には、押したリズムボタンのリズムメニューが表示されます。



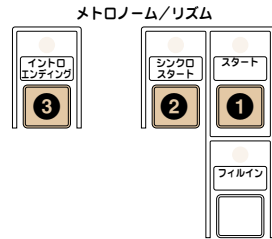
現在選ばれているリズム名の最初の文字が点滅します。

- 2 使用したいリズムの位置にあるデータコントロールボタンを押します。選択されたリズム名の最初の文字が点滅表示になります。これでダンスポップ1が設定されました。



NOTE
オートベースコード(A.B.C.)がオンの場合、コードやベースのパターンは、選ばれたリズムに合ったパターンが自動的に選択されます。(A.B.C.については、61ページをご参照ください。)

- 3 リズムセクションの下のスタートボタンを押します。
3通りのスタート方法があります。



① スタート

通常のスタートボタンです。もう一度押すと、リズムはストップします。

② シンクロスタート

このボタンを押すと、リズムはスタンバイの状態になります。下鍵盤かペダル鍵盤で演奏を始めると同時に、リズムがスタートします。

③ イントロ、エンディング

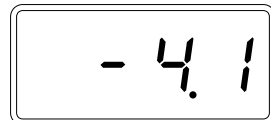
このボタンを使うことで、通常のリズムが始まる前に、自動的に最大8小節までのリズムのイントロを入れることができます。

最初にこのボタンを押して、上記①か②の方法でリズムをスタートさせます。

イントロが演奏されている間、リズムセクションのバー/ビートディスプレイはイラストにあるように選択したリズムの第1小節目まで、マイナスイ表示で逆にカウントします。

また、リズムパターンが演奏されている時にこのボタンを押すと、自動的に最大8小節までのエンディングパターンが入って、リズムは終了します。

バー/ビート



タクト機能について

イントロ/エンディングボタンを押しながら、リズムのスタートボタンを押すと、自動的に1小節の拍打ちをして(タクト機能)、演奏を始めるためのキューを出します。

- 4 リズムセクションの右のボリュームボタンで音量を調節します。
音量は0~6の7段階になっています。(ボイスメニュー音色と同じように、音量の細かな設定をすることもできます。詳しくは、57ページをご参照ください。)



フットスイッチを使って、リズムをスタートさせたりストップさせたりすることができます。(詳しくは、107ページをご参照ください。)

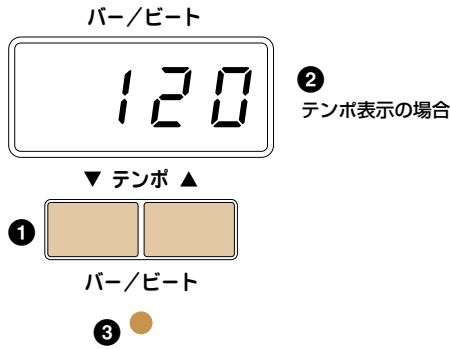


オートベースコード(A.B.C.)を使って、リズムをシンクロスタートで始める場合は、A.B.C.の下鍵盤/ペダル鍵盤のメモリーをオンにしてください。メモリーをオンにしないで使用した場合は、演奏中に下鍵盤から手を離すと、リズムもストップします。(A.B.C.については、61ページをご参照ください。)



エレクトーンの電源を入れたときは、リズムボリュームは0の設定になっています。

5 リズムセクションの下のテンポボタンを押して、リズムの速さを設定します。



① テンポボタン

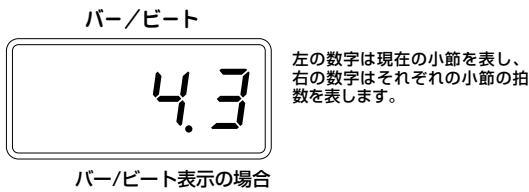
リズムの速さを調節します。右のボタンを押すと速くなり、左のボタンを押すと遅くなります。

② テンポ表示(バー/ビート表示)

設定されているリズムの速さ(テンポ)を表示します。表示されている数字は、メトロノームと同じように1分間の拍数を表します。

設定範囲：40～240

リズムがスタートすると、自動的にテンポ表示からバー/ビート表示に切り替わります。



③ バー/ビートランプ

リズムの演奏中に、小節の1拍目で点灯します。

(2)フィルインを使うには

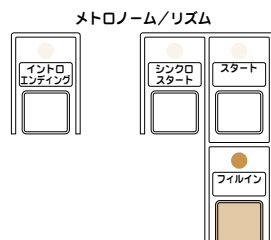
フィルインは、リズムパターンにブレイクを入れたり、リズムにアクセントを付けて変化に富んだ演奏にします。

1

リズムを選択しスタートさせます。

2

リズムを使用してエレクトーンを演奏しながら、フィルインを入れたいリズムの切れ目でスタートボタンの下のフィルインボタンを押します。



NOTE
右と左のテンポボタンを同時に押すと、テンポは120にセットされます。



NOTE
リズムの演奏中でもテンポボタンを押すと、瞬間的にテンポ表示に切り替わります。



NOTE
フィルインをイントロとして使うことができます。まずフィルインボタンを押します。そしてスタートボタンまたはシンクロスタートボタンを押します。これで、フィルインパターンが最初に入って通常のリズムが始まります。



NOTE
フィルインパターンを部分的に使用することもできます。リズムのバリエーションとして、フィルインパターンの1小節未満(最後の1～2拍だけを)演奏させるわけです。フィルインを入れたい拍数のところで、フィルインボタンを押してください。

2 リズムコンディションを設定する

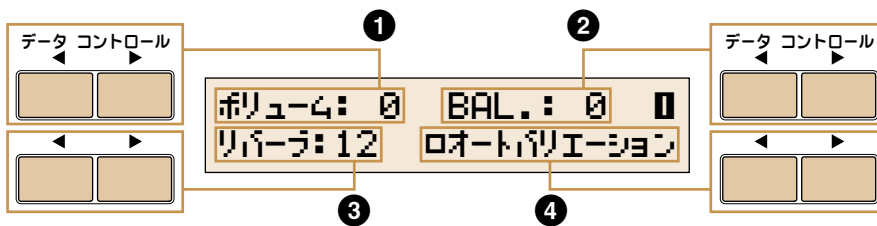
ボイスメニューのボイスコンディション画面と同じように、リズムにもリズムコンディション画面があり、その中にオートバリエーションやパーカッション/アカンパニメントコントロールがあります。

リズム コンディション画面を呼び出すには、リズムを選択しそのリズムのボタンを二度押します。(二度目は、そのリズムのデータコントロールボタンを押しても構いません。すでにリズムメニューがLCDディスプレイ上に表示されている場合は、一度押すだけでリズム コンディション画面が表示されます。)



リズム コンディション画面は2ページで構成されています。

【ページ1】リズム コンディション画面



① ボリューム

リズムやキーボードパーカッションのボリュームを調節します。細かな音量の設定ができます。

設定範囲：0～24

② BAL.(バランス)

リズムのドラム系の音とシンバル系の音との音量のバランスをコントロールします。値を + にするほどシンバル系の音が大きくなり、- にするほどドラム系の音が大きくなります。

設定範囲：-6～0(中央)～+6

③ リバーブ

リズムや打楽器音にかかるリバーブの量を設定します。このリバーブを最大にしても、パネル上のリバーブボリュームを上げないと、リバーブ効果は得られません。

設定範囲：0～24

④ オートバリエーション

オートバリエーション機能のオン/オフスイッチです。オートバリエーション表示の左のボックスを□から■に設定すると、オートバリエーション機能がオンになります。機能がオンのときは、そのリズムのバリエーションが自動的に入り、リズムに変化をつけることができます。

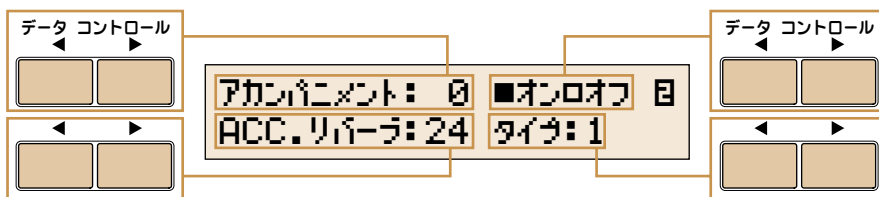


NOTE
この一組のデータコントロールボタンを同時に押せば、バランスはまん中に戻ります。



NOTE
リズムによっては、オートバリエーションが入らないものがあります。

[ページ2]リズム コンディション画面



アカンパニメントに関する設定が用意されています。詳しくは63ページをご参照ください。

3 ドットボタンでリズムを選ぶ

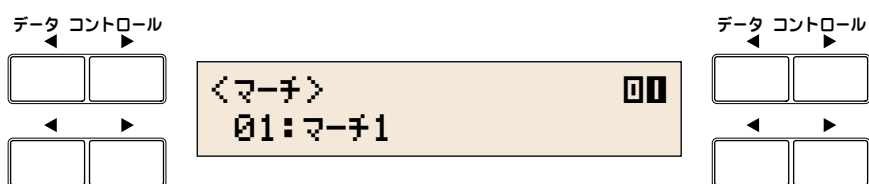
パネルボイスと同じように、リズムもリズムセクションの右側にあるドットボタンで選択することができます。このドットボタンを使うことで、リズムメニューのすべてのリズムや、パターンディスクから読み込んだユーザーリズムを選択することができます。

(1) ドットボタンでリズムを選ぶには

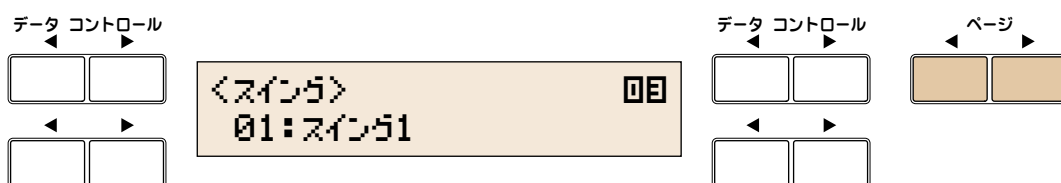
- 1 リズムセクション右側のドットボタンを押します。



LCDディスプレイに、ページ1(マーチ)が表示されます。



- 2 LCDディスプレイの右側にあるページボタンで、11ページ(種類)のリズムメニューの中から、使用したいリズムが属しているページを選択します。



4 リズムメニュー

下表のとおり、リズムは全部で66パターンあります。



マーチグループ(1ページ)のパロックは打楽器音の無いアカンパニメントだけのパターンになっています。

マーチ

マーチ1	ポルカ1
カントリー-1	ブロードウェイ

ワルツ

ワルツ1	ワルツ2
ジャズワルツ1	ポレロ

スウィング

スウィング1	スウィング2
ジャズバラード	ディキシランド1

バウンス

バウンス1	バウンス2
レゲエ1	レゲエ2

スローロック

スローロック1	スローロック2
スローロック3	

タンゴ

タンゴ1	タンゴ2
タンゴ3	

ラテン1

チャチャ	ルンバ
ビギン	マンボ

ラテン2

サンバ1	サンバ2
ボサノバ1	ボサノバ2

8ビート

8ビート1	8ビート2
ダンスポップ1	ダンスポップ2

16ビート

16ビート1	16ビート2
ファンク1	ファンク2

ユーザーリズム

〈ユーザーリズム〉	
01:ユーザー-1-A	

パネルボタンで選べるリズムには●がついています。

ページ	カテゴリー	LCD表記
01	マーチ	● 01:マーチ1
		02:マーチ2
		03:マーチ3
		● 04:ポルカ1
		05:ポルカ2
		● 06:カントリー-1
		07:カントリー-2
		● 08:ブロードウェイ
		09:パロック
02	ワルツ	● 01:ワルツ1
		● 02:ワルツ2
		03:ワルツ3
		04:ワルツ4
		05:ワルツ5
		● 06:ジャズワルツ1
		07:ジャズワルツ2
		08:ジャズワルツ3
		● 09:ポレロ
03	スウィング	● 01:スウィング1
		● 02:スウィング2
		03:スウィング3
		04:スウィング4
		05:スウィング5
		06:スウィング6
		● 07:ジャズバラード
		● 08:ディキシランド1
		09:ディキシランド2
04	バウンス	● 01:バウンス1
		● 02:バウンス2
		03:バウンス3
		● 04:レゲエ1
		● 05:レゲエ2

ページ	カテゴリー	LCD表記
05	スローロック	● 01:スローロック1
		● 02:スローロック2
		● 03:スローロック3
06	タンゴ	● 01:タンゴ1
		● 02:タンゴ2
		● 03:タンゴ3
07	ラテン1	● 01:チャチャ
		● 02:ルンバ
		● 03:ビギン
		● 04:マンボ
		05:サルサ
08	ラテン2	● 01:サンバ1
		● 02:サンバ2
		03:サンバ3
		● 04:ボサノバ1
		● 05:ボサノバ2
		06:ボサノバ3
09	8ビート	● 01:8ビート1
		● 02:8ビート2
		03:8ビート3
		04:8ビート4
		05:8ビート5
		● 06:ダンスポップ1
		● 07:ダンスポップ2
		08:ダンスポップ3
		09:ダンスポップ4
10	16ビート	● 01:16ビート1
		● 02:16ビート2
		03:16ビート3
		04:16ビート4
		05:16ビート5
		● 06:ファンク1
		● 07:ファンク2
		08:ファンク3

ページ	カテゴリー	LCD表記
11	ユーザーリズム	01:ユーザー-1-A
		02:ユーザー-1-B
		03:ユーザー-1-C
		04:ユーザー-1-D
		05:ユーザー-2-A
		06:ユーザー-2-B
		07:ユーザー-2-C
		08:ユーザー-2-D
		09:ユーザー-3-A
		10:ユーザー-3-B
		11:ユーザー-3-C
		12:ユーザー-3-D
		13:ユーザー-4-A
		14:ユーザー-4-B
		15:ユーザー-4-C
		16:ユーザー-4-D
		17:ユーザー-5-A
		18:ユーザー-5-B
		19:ユーザー-5-C
		20:ユーザー-5-D
		21:ユーザー-6-A
		22:ユーザー-6-B
		23:ユーザー-6-C
		24:ユーザー-6-D
		25:ユーザー-7-A
		26:ユーザー-7-B
		27:ユーザー-7-C
		28:ユーザー-7-D
		29:ユーザー-8-A
		30:ユーザー-8-B
		31:ユーザー-8-C
		32:ユーザー-8-D

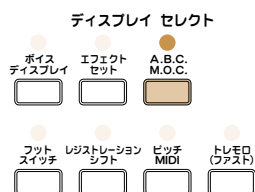
5 オートベースコード(A.B.C.)

オートベースコード(A.B.C.)は、リズムと連動し、演奏にあわせて自動的にコードとベース伴奏を付ける機能です。A.B.C.には、3種類のモードがあります。

A.B.C.に関する設定は、A.B.C.(オートベースコード)画面の1ページ目で行ないます。

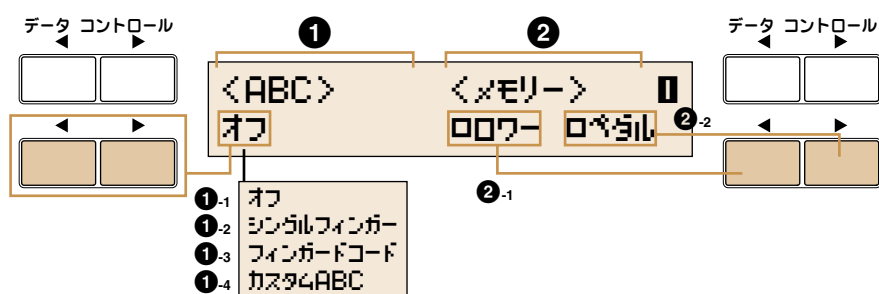
(1)A.B.C.画面を呼び出すには

パネルのディスプレイセレクトセクションの中のA.B.C./M.O.C.ボタンを押します。



A.B.C.画面が表示されます。

【ページ1】A.B.C.画面



① <ABC>セクション

ここで、A.B.C.機能を使った演奏のしかたを選択します。

LCDディスプレイ左下のデータコントロールボタンの▶を押すたびに、オフ→シングルフィンガー→フィンガードコード→カスタムA.B.C.の順番でモードを選ぶことができます。また、データコントロールボタンの◀を押すたびに、逆の順番でモードを選ぶことができます。

①-1 オフ

A.B.C.機能をキャンセルします。

①-2 シングルフィンガー

下鍵盤を1音押さえるだけで、自動的にコードとベースの伴奏が得られます。

①-3 フィンガードコード

下鍵盤でコードを押さえるだけで、自動的にコードとベースの伴奏が得られます。フィンガードコードのベース伴奏では、メジャーやマイナーなどのコード以外にもさまざまなコードが検出できるので、下鍵盤で弾いたコードにふさわしいベース伴奏が得られます。

①-4 カスタムA.B.C.

下鍵盤で弾くコードとは別に、ペダル鍵盤を1音押さえるだけでベース伴奏が得られます。この機能を使うことで、演奏に幅を持たせることができます。

② <メモリー>セクション

メモリー機能は、A.B.C.機能を使った演奏をスムーズに行なうための機能です。メモリー機能をオンにしてリズムをスタートすると、鍵盤から指を離れた後も、A.B.C.は同じコードのまま自動伴奏を続けます。コードを変えたいところで、新しいコードを弾けば、再び手を離しても新しいコードで自動伴奏を続けます。メモリー機能は下鍵盤、ペダル鍵盤ごとにオン/オフすることができます。

②-1 ロー(下鍵盤)

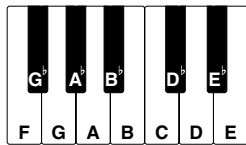
ロー(下鍵盤)表示の左のボックスを□から■にすると、下鍵盤のメモリー機能がオンになります。下鍵盤のメモリー機能をオンにしてリズムをスタートすると、下鍵盤から指を離れた後も下鍵盤の音が鳴り続けます。

②-2 ペダル

ペダル表示の左のボックスを□から■にすると、ペダル鍵盤のメモリー機能がオンになります。(シングルフィンガーやフィンガードコードの場合)ペダル鍵盤のメモリー機能をオンにしてリズムをスタートすると、下鍵盤から指を離れた後もペダル鍵盤の音が鳴り続けます。

(2)シングルフィンガーで識別されるコード

シングルフィンガーでは、メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスのすべてが演奏できます。



NOTE
シングルフィンガーの場合は、どの音域を押さえても、一定のオクターブでのみ音がでます。

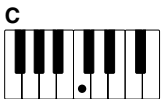


NOTE
A.B.C.はリズムと連動してコードとベースの伴奏を得る機能ですが、リズムを止めた状態でも使えます。この場合、和音の持続音が得られません。A.B.C.をキャンセルし忘れた場合に下鍵盤で演奏すると、和音の持続音だけが出ます。ご注意ください。



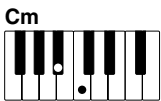
NOTE
根音が黒鍵の場合のマイナー、セブンス、マイナーセブンスコードも、同じ方法で得られます。

コードCの場合



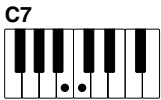
メジャーコード:

コードの根音(コード名と同じキー)を押して得られます。



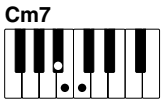
マイナーコード:

コードの根音と、それより左のいずれかの黒鍵を同時に押します。



セブンスコード:

コードの根音と、それより左のいずれかの白鍵を同時に押します。

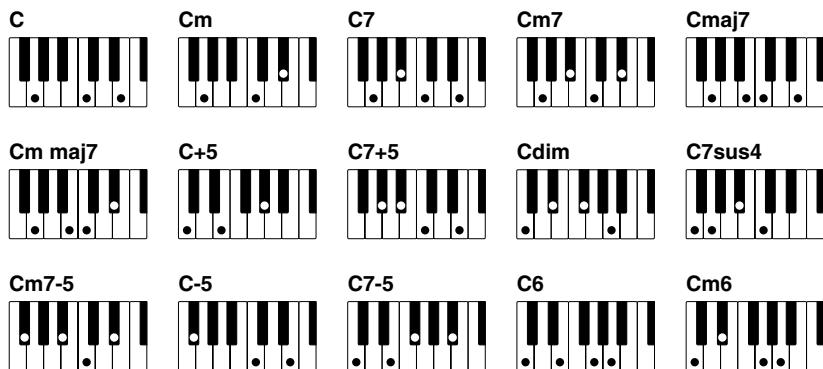


マイナーセブンスコード:

コードの根音と、それより左の白鍵と黒鍵を同時に押します。

(3)フィンガードコードで識別されるコード

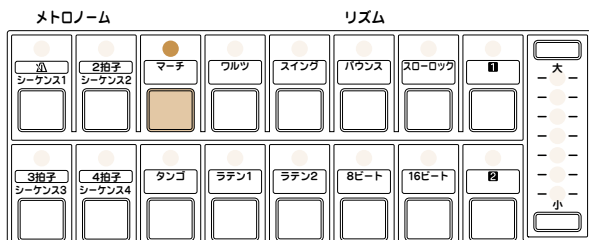
コードCの場合



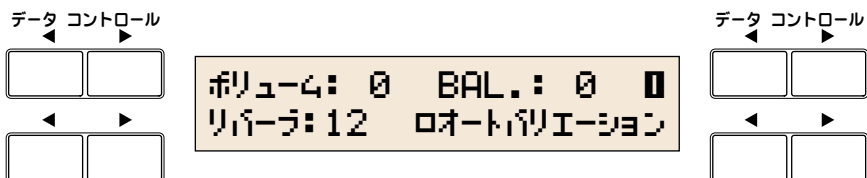
6 アカンパニメント

このアカンパニメントは、リズムと連動して、多彩な装飾音を施した伴奏パターンが得られる機能です。A.B.C.機能を使って、自動的にコードやベース伴奏をプラスしたり、A.B.C.機能をオフにしてアカンパニメントだけを演奏することもできます。アカンパニメントは、リズムボタンとリズム コンディション画面の2ページ目を使って設定します。

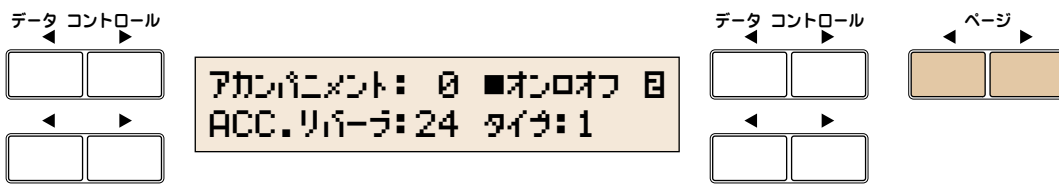
1 パネル上の使用したいリズムのボタンを二度続けて押します。



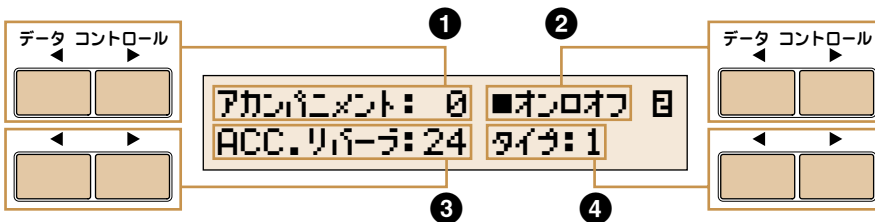
LCDディスプレイに、リズム コンディション画面の1ページ目が表示されます。



2 ページボタンを押して2ページ目を選択します。



【ページ2】リズム コンディション画面



① アカンパニメント

アカンパニメントの音量を設定します。
設定範囲：0～24

② オン/オフ

アカンパニメントのオン/オフスイッチです。オンの左のボックスを■にすると、アカンパニメント機能がオンになります。逆にオフの左のボックスを■にすると、アカンパニメント機能がオフになります。

③ ACC.(アカンパニメント)リバーブ

アカンパニメントのリバーブの量を設定します。このリバーブを最大にしても、パネル上のリバーブボリュームを上げないと、リバーブ効果は得られません。
設定範囲：0～24

④ タイプ

4つのアカンパニメントタイプが用意されています。タイプによってリズムミックなものや、メロディックなものがあります。基本的に、タイプ1が最もシンプルで、タイプ4が最も華やかになっています。

3 スタートボタンを押してリズムをスタートさせ、下鍵盤を演奏します。 これで、リズムパターンや下鍵盤のコードに合った伴奏パターンが自動演奏されます。



アカンパニメントのタイプを変えても、イントロ、エンディング、フィルインパターンは変わりません。



エレクトーンの電源を入れた時、アカンパニメントの音量は0になっています(初期設定)。アカンパニメント機能を使用する場合は、必ず、アカンパニメントボリュームを上げてください。

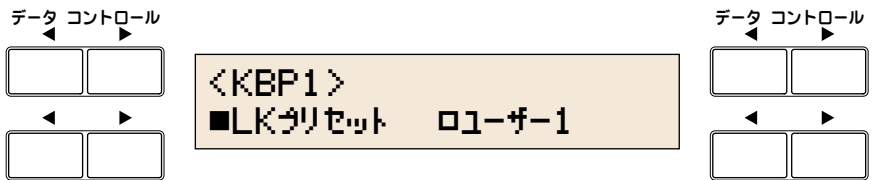
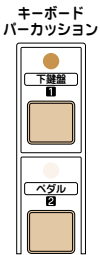
7 プリセット/ユーザーキーボードパーカッション

全部で120種類のドラム系やラテンパーカッション系、そして和太鼓などのバラエティあふれる打楽器音がリアルタイムで楽しめます。

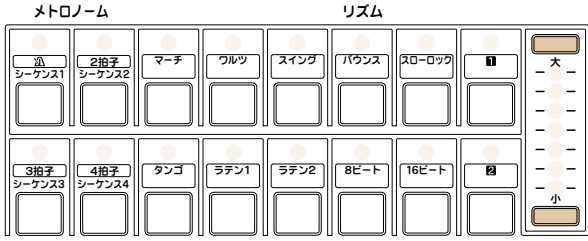
このキーボードパーカッションには、43種類の打楽器音による下鍵盤とペダル鍵盤のプリセットキーボードパーカッションと、すべての打楽器音をどの鍵盤にでもアサインする(割り当てる)ことができるユーザーキーボードパーカッションの2通りがあります。

(1)プリセットキーボードパーカッションを使うには

- 1 まず、下鍵盤/ペダル鍵盤のボイスメニュー音色の音量を0にします。
- 2 パネル左端のキーボードパーカッションセクションの下鍵盤/1かペダル/2のボタンを押します。



- 3 次に音量を設定します。
キーボードパーカッションの音量はリズムと共通になっています。



- 4 下鍵盤/ペダル鍵盤の鍵盤をたたいて、キーボードパーカッションを試してみましょう。プリセットキーボードパーカッションのアサインについては、次ページの表をご参照ください。

NOTE

このとき、LCDにはキーボードパーカッションのメニューが表示されます。ここで現在のプリセット、またはユーザー1~8のどのキーボードパーカッションが選ばれているかを確認/変更することができます。通常はプリセットのLK(ロー)/PK(ペダル)が選ばれた状態になっています。もしユーザー1~8が選ばれている場合は、プリセットを選択してください。

(2) ユーザーキーボードパーカッションを設定するには

この機能によって、上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤のどのキー(鍵)にでも、120種類の打楽器を設定することができます。ユーザー1～ユーザー8までの8つのオリジナルセッティングが可能です。(ここでは、ユーザー1を例として使用します。)

- 1 パネル左端のキーボードパーカッションセクションの下鍵盤/1のボタンを押します。LCDディスプレイ上にキーボードパーカッションのメニューが表示されます。



LCDディスプレイ上では、LKプリセットが選ばれており、現在、下鍵盤のプリセットキーボードパーカッションが選択されていることを示しています。

LKプリセットとユーザー1～8の切り替えになっています。

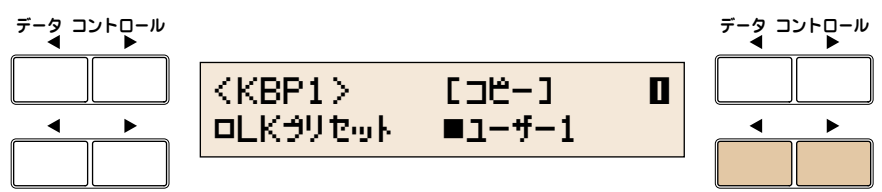
キーボードパーカッションのペダル/2のボタンの場合は、以下のとおりです。



この場合は、PK(ペダル鍵盤)プリセットとユーザー1～8の切り替えになっています。

- 2 LCDディスプレイ右下のデータコントロールボタンを使って、ユーザー1を選択します。つまり、パネル上のキーボードパーカッションボタンを(プリセットとユーザーで兼用している)ここでユーザー1に切り替えるわけです。これで下鍵盤/1のボタンにユーザー1が設定されました。

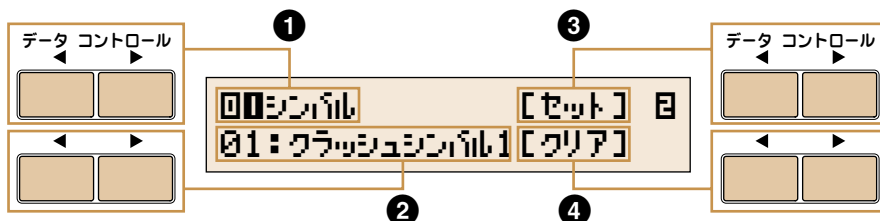
ユーザーキーボードパーカッションを選択すると、LCDディスプレイの右上にページ番号が表示されます。



NOTE

ユーザー1にはLKプリセットが、ユーザー2にはPKプリセットがあらかじめアサインされています。

- 3 ページボタンで、キーボードパーカッションの2ページ目を選択します。このLCDディスプレイを使って、それぞれの打楽器を各鍵盤にアサインすることができます。



① カテゴリー

割り当てたい打楽器が属するカテゴリーを選択します。打楽器のカテゴリーは、1から12まで12カテゴリーあります。(詳しくは、次ページのカテゴリーをご参照ください。)

② 打楽器名

選んだカテゴリーに属する打楽器名を選択します。(詳しくは、次ページのカテゴリーをご参照ください。)

③ セット

選んだ打楽器を指定した鍵盤にアサインします(この後の説明をご参照ください)。

④ クリア

現在選ばれているユーザー(この場合はユーザー1)にアサインされている打楽器音を消去します。

クリアには、1音だけ消去と、全音消去の2通りがあります(このあとの説明をご参照ください)。



EL-900m/900/700/500で設定した各打楽器のコンディションは、MDRの再生でEL-100でも設定されます。

ユーザーキーボードパーカッションカテゴリー

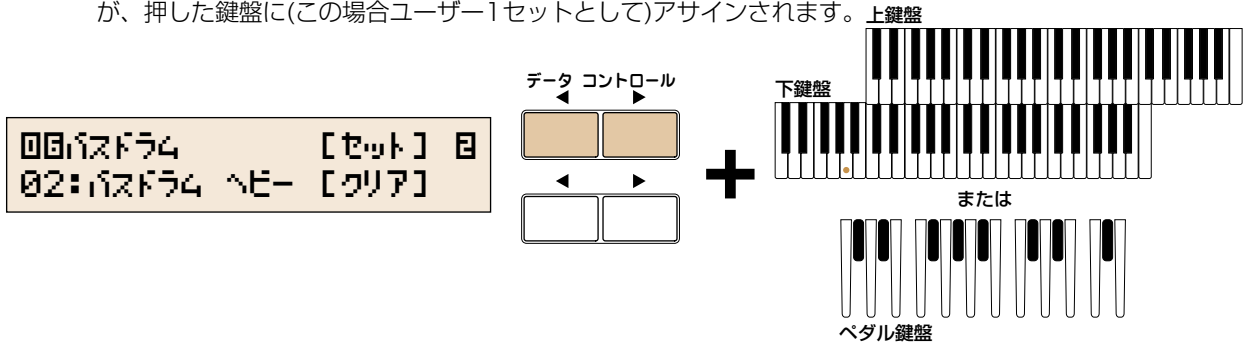
カテゴリー	LCD表記	楽器名
01 シンバル	01:クラッシュシンバル1	クラッシュシンバル1
	02:クラッシュシンバル2	クラッシュシンバル2
	03:クラッシュシンバルM	クラッシュシンバルミュート
	04:ライドシンバル1	ライドシンバル1
	05:ライドシンバル2	ライドシンバル2
	06:ライドシンバルカップ	ライドシンバルカップ
	07:オーケストラCym1	オーケストラシンバル1
	08:オーケストラCym2	オーケストラシンバル2
	09:オーケストラCymM	オーケストラシンバルミュート
	10:シンバル マーチ	シンバルマーチ
	11:シンバルブラッシュ	シンバルブラッシュショット
	12:タムタム	タムタム
02 ハイハット	01:ハイハット オープン	ハイハットオープン
	02:ハイハット クローズ	ハイハットクローズ
	03:ハイハット ペダル1	ハイハットクローズ(ペダル)1
	04:ハイハット ペダル2	ハイハットクローズ(ペダル)2
	05:アナログHHオープン	アナログハイハットオープン
	06:アナログHHクローズ	アナログハイハットクローズ
03 スネアドラム	01:スネアドラム ライト	スネアドラムライト
	02:スネアドラム ヘビー	スネアドラムヘビー
	03:スネアドラム リム1	スネアドラムリム1
	04:スネアドラム リム2	スネアドラムリム2
	05:スネア アクセント1	スネアドラムアクセント1
	06:スネア アクセント2	スネアドラムアクセント2
	07:スネア リバーブ1	スネアドラムリバーブ1
	08:スネア リバーブ2	スネアドラムリバーブ2
	09:シンセ スネアドラム	シンセスネアドラム
	10:オーケストラスネア	オーケストラスネアドラム
	11:スネアドラム ロール	スネアドラムロール
	12:アナログスネアドラム	アナログスネアドラム
04 スネアブラッシュ	01:スネアブラッシュ1	スネアブラッシュショット1
	02:スネアブラッシュ2	スネアブラッシュショット2
	03:SDブラッシュロール	スネアブラッシュロール
05 タム	01:タム1	タム1
	02:タム2	タム2
	03:タム3	タム3
	04:タム4	タム4
	05:タムブラッシュ1	タムブラッシュショット1
	06:タムブラッシュ2	タムブラッシュショット2
	07:タムブラッシュ3	タムブラッシュショット3
	08:タムブラッシュ4	タムブラッシュショット4
	09:シンセ タム1	シンセタム1
	10:シンセ タム2	シンセタム2
	11:シンセ タム3	シンセタム3
06 バスドラム	01:バスドラム ライト	バスドラムライト
	02:バスドラム ヘビー	バスドラムヘビー
	03:バスドラム アタック	バスドラムアタック
	04:シンセバス ドラム	シンセバスドラム
	05:バスドラム マーチ	バスドラムフォアマーチ
	06:コンサートバスドラム	コンサートバスドラム
	07:アナログバスドラム1	アナログバスドラム1
	08:アナログバスドラム2	アナログバスドラム2
07 コンガ/ボンゴ	01:コンガ ハイ	コンガハイ
	02:コンガ ロー	コンガロー
	03:コンガ スラップ	コンガスラップ
	04:コンガ マフルド	コンガマフルド
	05:コンガ スライド	コンガスライド
	06:ボンゴ ハイ	ボンゴハイ
	07:ボンゴ ロー	ボンゴロー
	08:ボンゴ スラップ	ボンゴスラップ
	09:ボンゴ ミュート	ボンゴミュート

カテゴリー	LCD表記	楽器名
08 クイール/スルド	01:クイール ハイ	クイールハイ
	02:クイール ミディアム	クイールミディアム
	03:クイール ロー	クイールロー
	04:タンポリン オープン	タンポリンオープン
	05:タンポリン ミュート	タンポリンミュート
	06:スルド オープン	スルドオープン
	07:スルド ミュート	スルドミュート
	08:スルド リム	スルドリム
	09:スルド マフルド	スルドマフルド
09 ティンパレス/カウベル	01:ティンパレス1 ハイ	ティンパレス1ハイ
	02:ティンパレス1 ロー	ティンパレス1ロー
	03:ティンパレス2 ハイ	ティンパレス2ハイ
	04:ティンパレス2 ロー	ティンパレス2ロー
	05:ティンパレス3 ハイ	ティンパレス3ハイ
	06:ティンパレス3 ロー	ティンパレス3ロー
	07:ティンパレス4 ハイ	ティンパレス4ハイ
	08:ティンパレス4 ロー	ティンパレス4ロー
	09:カウベル1	カウベル1
	10:カウベル2	カウベル2
	11:カウベル3	カウベル3
	12:カウベル4	カウベル4
10 パーカッション1	01:カバサ	カバサ
	02:シェーカー	シェーカー
	03:マラカス ハイ	マラカスハイ
	04:マラカス ロー	マラカスロー
	05:ギロ ショート	ギロショート
	06:ギロ ロング	ギロロング
	07:ウッドブロック ハイ	ウッドブロックハイ
	08:ウッドブロックMed	ウッドブロックミディアム
	09:ウッドブロック ロー	ウッドブロックロー
	10:クラベス	クラベス
	11:カスタネット	カスタネット
	12:ビブラスラップ	ビブラスラップ
11 パーカッション2	01:アゴゴ ハイ	アゴゴハイ
	02:アゴゴ ロー	アゴゴロー
	03:トライアングル O	トライアングルオープン
	04:トライアングル C	トライアングルクローズ
	05:ウインドベル1	ウインドベル1
	06:ウインドベル2	ウインドベル2
	07:タンバリン	タンバリン
	08:パンティロ	パンティロ
	09:ベル	ベル
	10:ハンドクラップ	ハンドクラップ
	11:フィンガースナップ	フィンガースナップ
	12:スクラッチ	スクラッチ
	13:ノイズパーカッション	ノイズパーカッション
12 パーカッション3	01:コッツミ1	小鼓1
	02:コッツミ2	小鼓2
	03:コッツミ3	小鼓3
	04:コッツミ4	小鼓4
	05:オオツツミ1	大鼓1
	06:オオツツミ2	大鼓2
	07:タイコ1	太鼓1
	08:タイコ2	太鼓2
	09:オオタイコ1	大太鼓1
	10:オオタイコ2	大太鼓2
	11:カケゴE1	かけ声1
	12:カケゴE2	かけ声2
	13:カケゴE3	かけ声3

4

打楽器を任意の鍵盤にアサインします。

[セット]と同じ位置にあるデータコントロールボタンを押しながら、アサインしたい鍵盤を押します。LCDディスプレイ上で選ばれている打楽器音が、押した鍵盤に(この場合ユーザー1セットとして)アサインされます。



この操作を繰り返して、必要な打楽器を任意の鍵盤にアサインします。

5

間違ったときは、次の要領で打楽器音を消去することができます。

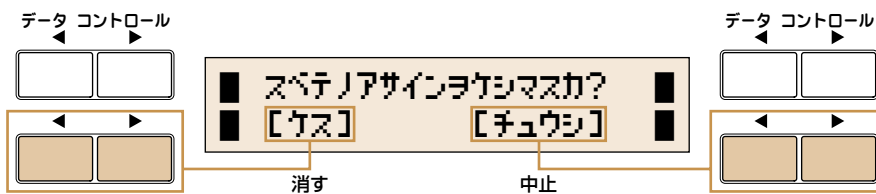
1音だけ消去するには

[クリア]と同じ位置にあるデータコントロールボタンを押しながら、消去したい打楽器が割り当てられている鍵盤を押します。

"ピッ"という短い音がして、その打楽器音が消去されたことを知らせます。

全音消去するには

1. [クリア]と同じ位置のデータコントロールボタンを押して、すぐにそのボタンから手を離します。LCDディスプレイ上に以下の画面が表示され、すべての打楽器のアサインを消去するかどうか確認を求めてきます。



2. [ケス]を選択すると、すべてのアサインの消去を実行し、LCDディスプレイ上に"スベテノアサインヲケシマシタ!"という操作完了のメッセージが一時的に表示されます。
[チュウシ]を選択すると、操作をキャンセルし、前の画面に戻ります。

NOTE

ユーザーキーボードパーカッションは、ユーザー[1]~[8]に(合計で8セット)設定できます。ただし、レジストレーションごとには設定できません。レジストレーションに設定できるのは、キーボードパーカッションのオン/オフとメニュー(プリセット/ユーザー)情報のみです。

NOTE

ユーザーキーボードパーカッションボタンの[1]と[2]が両方ともオンの場合、[1]と[2]両方を同時に使用することができます。

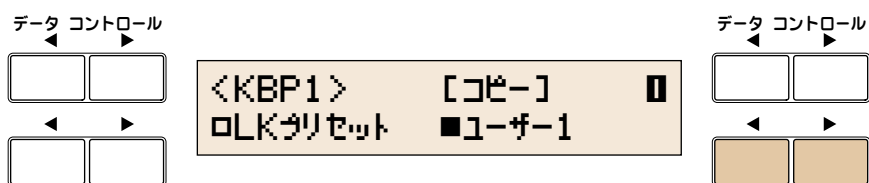
(3) ユーザーキーボードパーカッションのその他の機能

ユーザーキーボードパーカッションには、プリセットの設定に戻したり、1つのユーザーの設定を別のユーザーにコピーすることができます。

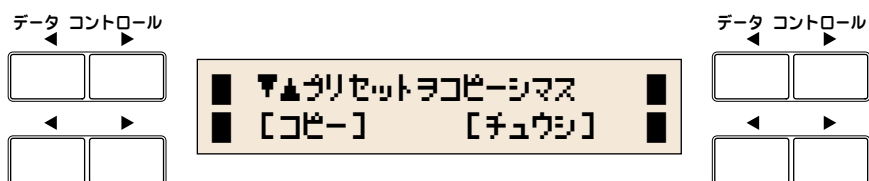
下鍵盤プリセットをコピーするには

以下の手順で、下鍵盤のプリセットキーボードパーカッションをユーザーにコピーすることができます。プリセットを少しだけ変更して使いたい場合に便利です。

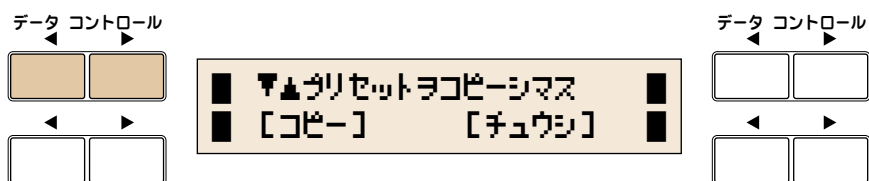
1. キーボードパーカッションセクションの下鍵盤/1のボタンを押して、キーボードパーカッションのメニューを表示させます。
2. 右下のデータコントロールボタンを使い、コピー先のユーザー1~8を選びます。



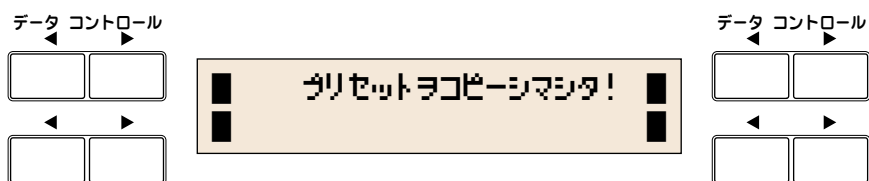
3. [コピー]と同じ位置のデータコントロールボタンを押すと、LCDディスプレイにコピーダイアログが表示されます。



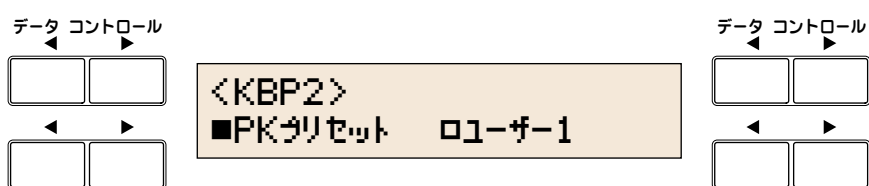
4. 左上のデータコントロールボタンを使って、コピー元となるプリセット（この場合、下鍵盤プリセットキーボードパーカッション）を選びます。



5. [コピー]と同じ位置のデータコントロールボタンを押すと、下鍵盤プリセットのコピーを実行し、LCDディスプレイ上に"プリセットヲコピーシマシタ!"という操作完了のメッセージが一時的に表示されます。
[チュウシ]を選択すると、操作をキャンセルし、前の画面に戻ります。

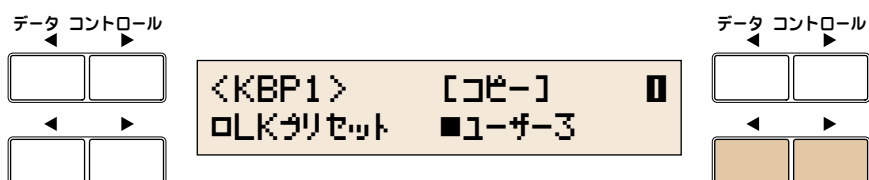


キーボードパーカッションのペダル/2ボタンから、同様の操作を行なった場合は、ペダル鍵盤プリセットをコピーすることができます。

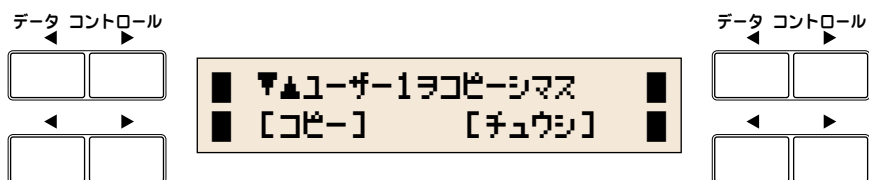


ユーザーを別のユーザーにコピーするには

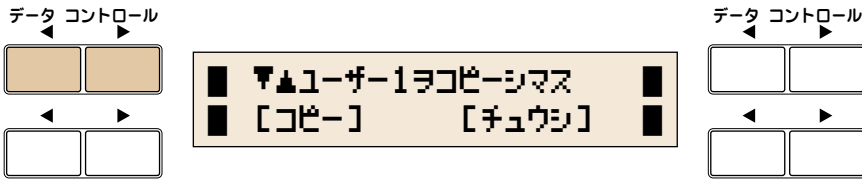
1. キーボードパーカッションセクションの下鍵盤/1またはペダル/2のボタンを押して、キーボードパーカッションのメニューを表示させます。
2. 右下のデータコントロールボタンを使い、コピー先のユーザー1~8を選びます。



3. [コピー]と同じ位置のデータコントロールボタンを押すと、LCDディスプレイにコピーダイアログが表示されます。

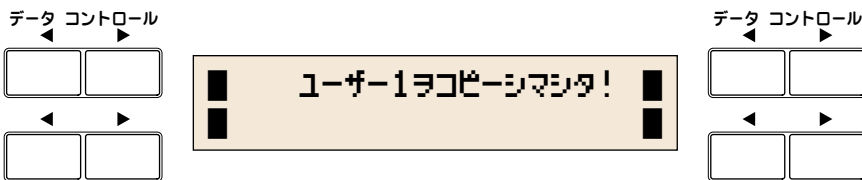


4. 左上のデータコントロールボタンを使って、コピー元となるユーザー1～8を選びます。



この場合、コピー先として選ばれているユーザーキーボードパーカッションナンバーは、コピー元として表示されません。

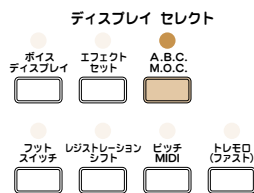
5. [コピー]と同じ位置のデータコントロールボタンを押すと、ユーザーのコピーを実行し、LCDディスプレイ上に“ユーザー1ヲコピーシマシタ!”という操作完了のメッセージが一時的に表示されます。
[チュウシ]を選択すると、操作をキャンセルし、前の画面に戻ります。

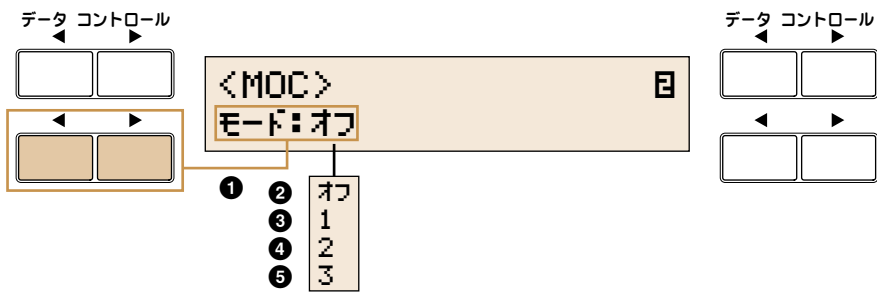


8 メロディオンコード(M.O.C.)

下鍵盤で弾いたコードによって、上鍵盤で弾くメロディラインに自動的にハーモニーを付ける機能です。メロディオンコードには、3つのモードがあり、それぞれのモードはA.B.C./M.O.C.のページで選択することができます。

M.O.C.画面を呼び出すには、パネルのディスプレイセレクトセクションの中のA.B.C./M.O.C.ボタンを押し、A.B.C.画面が表示されたら、続けてページボタンで2ページ目を表示させます。





① モード

ここで、M.O.C.機能を使った演奏のしかたを選択します。
 LCDディスプレイ左下のデータコントロールボタンの▶を押すたびに、オフ→1→2→3の順番でモードを選ぶことができます。また、データコントロールボタンの◀を押すたびに、逆の順番でモードを選ぶことができます。

② オフ

M.O.C.機能をキャンセルします。

③ 1

メロディに近い音域で最高2音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

④ 2

メロディに近い音域で最高3音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

⑤ 3

メロディから比較的離れた音域で最高4音までの付加音がハーモニーとなって得られます。

NOTE

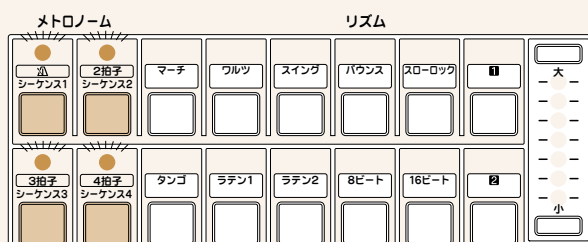
M.O.C.のモードが選択されていても、上鍵盤ボイスの音量が0の場合はM.O.C.の効果は得られません。

リズムシーケンスについて

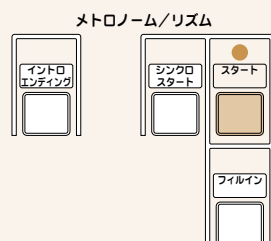
EL-900mなどのリズム シーケンス プログラム機能を持つエレクトーンを使って、ユーザーパターンやプリセットパターンの再生順序(シーケンス)を1小節単位でプログラムしたものを、リズムシーケンスと呼びます。

EL-100にはリズムシーケンスのプログラム機能はありませんが、フロッピーディスクに記録されたリズムシーケンスを、次の手順でリズムセクション左端のシーケンス1~4ボタンに読み込み、再生することができます。

1. EL-100のMDRに、リズムシーケンスのデータが記録されたフロッピーディスクを挿入します。リズムシーケンスのデータはレジストレーションデータ(87ページ)の一部として記録されています。
2. 任意のソングナンバーを指定して、MDRの再生ボタンを押し、目的のレジストレーションデータを読み込みます。これで、リズムシーケンスのデータがリズムセクションのシーケンス1~4ボタンにセットされました。
3. シーケンス1~4ボタンを押します。押したシーケンスボタンのランプが点灯します。



4. リズムセクションのスタートボタンを押して、リズムを再生します。



リズムシーケンス再生中は、LCDディスプレイ上に再生しているリズム名が表示されます。



NOTE

シーケンス1~4ボタンは同時に複数押しておくことができ、押されたシーケンスボタンのシーケンスは自動的に連続再生されます。



NOTE

初期設定(電源オン時の状態)では、シーケンス1~4ボタンにはメロノーム音が割り当てられています。



NOTE

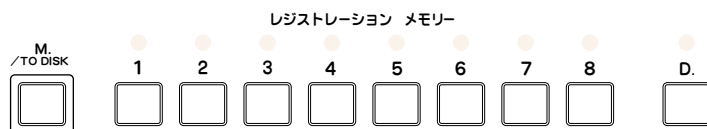
MDRを使ってリズムシーケンスを読み込むと、初期設定で割り当てられていたリズムシーケンスの設定は書き換えられます。一度電源を切って、再度電源を入れると、初期設定の状態に戻ります。



NOTE

基本レジストレーションの1~5のいずれかのボタンを押すと“ピッ”という音が鳴り、メロノームに戻ります。

レジストレーションメモリーは、パネルやLCDディスプレイで設定したセッティングを記録しておき、演奏中にボタンを押すだけでセッティングを呼び出すことができる機能です。
ほとんどの機能の設定をメモリーすることが可能です。



メモリーできない機能

- リバーブのタイプ
- 打楽器のパン、リバーブ、ボリューム、チューン設定
- ユーザーキーボードパーカッションの設定(ロワー/ペダルボタンにアサインされているユーザーのナンバーを除く)
- レジストレーションシフトの設定
- ピッチ/トランスポーズの設定
- パターンディスクのユーザーリズムパターン(ドットボタンにアサインされているユーザーリズムのナンバーを除く)
- リズムシーケンス
- MIDIの設定

電源オン時には、1～8のナンバーボタンにはあらかじめ用意された基本的なレジストレーションがセットされています。

No.	レジストイメージ	No.	レジストイメージ
1	マーチングバンド	5	ラテン
2	合奏	6	2ビート
3	8ビートバラード	7	オルガンバラード
4	ストリングワルツ	8	ダンスポップ

自分で設定したレジストレーションをナンバーボタンに記録すると、そのナンバーボタンに入っていたレジストレーションは上書きされて消えてしまいます。



NOTE

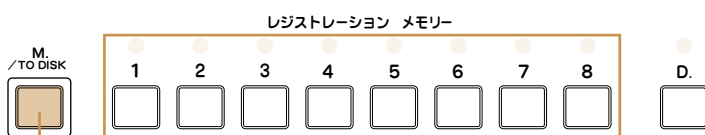
エレクトーンの電源を切ると、レジストレーションメモリーに記録したセッティングは消えてしまいます。もう一度電源を入れると、あらかじめ用意されたレジストレーションに戻ります。
自分で作ったレジストレーションを残しておきたい場合は、フロッピーディスクに記録する必要があります。フロッピーディスクへの記録方法については77ページをご参照ください。

1 レジストレーションを記録する

新しくつくったレジストレーションを、レジストレーションメモリーのボタンに記録します。レジストレーションメモリーに記録されたレジストレーションは、フロッピーディスクに保存することもできます。

1 まず、記録したいレジストレーションをつくります。

2 レジストレーションメモリーセクションの左端にあるM./TO DISK(メモリー)ボタンを押しながら、記録したいナンバーのボタンを押します。



1. M./TO DISKボタンを押しながら

2. ナンバーのボタンを押します

レジストレーションが記録されると、押したナンバーのボタンの上のランプが一時的に点滅します。



エレクトーンの電源を切ると、すべてのデータが消去されてしまいますのでご注意ください。大切なデータは、あらかじめMDRを使用してフロッピーディスクに保存されることをおすすめします。



1～8のナンバーのボタンに記録と呼び出しが可能です。ただし、MDRの再生やレジストレーションシフトによる呼び出しは、1～16まで可能です。

2 レジストレーションを呼び出す

呼び出したいナンバーのボタンを押すだけで、記録したレジストレーションをパネル上に呼び出せます。



EL-100のレジストレーションメモリーは1～8の8つですが、上位機種で作ったメモリーボタン9～16のレジストレーションを、以下の方法で呼び出すことができます。
9～16のレジストレーションを選択するには、ボイスディスプレイボタンを押しながら1～8(この場合、それぞれ9～16に対応)のレジストレーションボタンを押します。
なお、レジストレーション9～16が選ばれているときは、レジストレーションメモリーのランプは点灯しません。

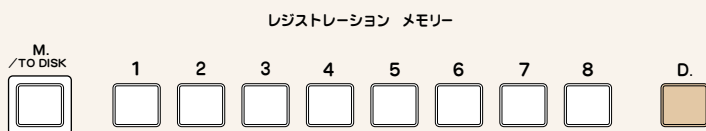
ディスエーブルボタンについて

レジストレーションのナンバーボタンを押すと、リズムやアカンパニメントのパターンも同時に変わります。しかし、レジストレーションメモリー右端のD.(ディスエーブル)ボタンをオンにすることで、テンポなどをはじめとするリズムの設定(リズムの種類やアカンパニメント)は変えずに、レジストレーションメモリー機能を使って演奏することができます。



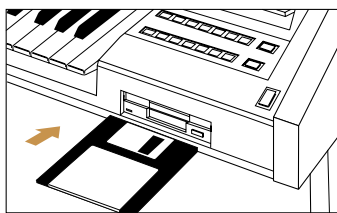
ディスエーブルボタンで変化しないようにできる設定は、以下のとおりです。

- リズムパターン
- リズムコンディション
- テンポ
- A.B.C./M.O.C.の設定



3 記録したレジストレーションをフロッピーディスクに保存する

1 MDR(ミュージックディスクレコーダー)セクションのディスク挿入口に、フォーマット済みのフロッピーディスクを差し込みます。(ディスクのフォーマットについては、84ページをご参照ください。)

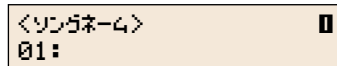
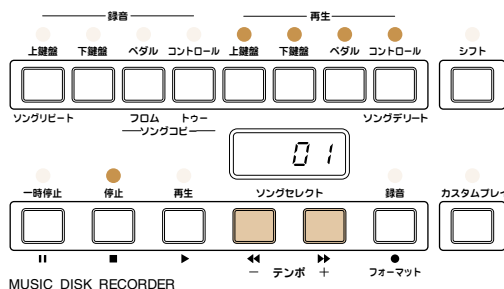


フロッピーディスクへの保存/呼び出しの詳細については、第6章ミュージックディスクレコーダーの91、92ページをご参照ください。

2 ソングセレクトボタンを押して、記録するソングナンバーを選択します。また、LCDディスプレイ上にソングナンバー/ネームが表示されますので、データコントロールボタンとページボタンを使って、記録するソングナンバーを選択することもできます。すでに何らかのデータが記録されているソングナンバーには、何らかのソングネームが表示されます。

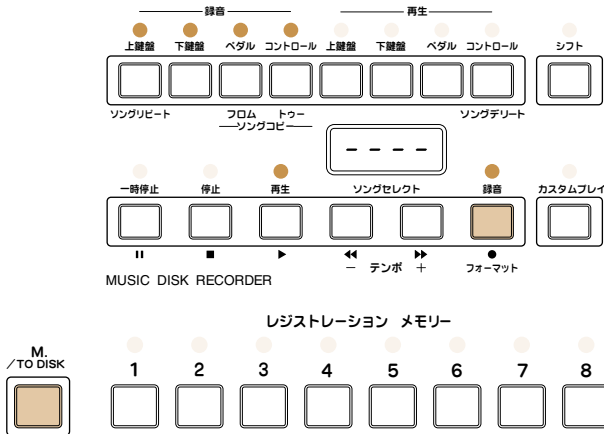


他のELシリーズで録音したソングの場合、ソングネームが表示されないものもあります。



1枚のディスクで、40ソング(2DDタイプのディスクでも2HDタイプのディスクでも同様)まで使用することができます。

3 MDRの録音ボタンを押しながら、レジストレーションメモリーのM./TO DISK(メモリー)ボタンを押します。

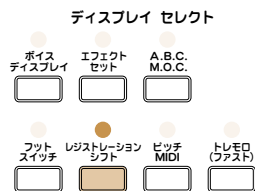


この操作で、フロッピーディスクの1つのソングナンバーに、レジストレーションメモリーでつくった8レジストレーションが保存されます。

4 レジストレーションシフト

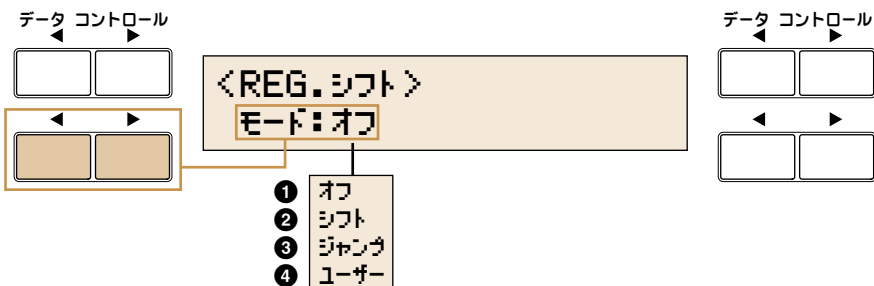
レジストレーションシフト機能を使うことによって、演奏中に手を使わずにレジストレーションの変更ができ、パネル操作をせずに演奏に専念することができます。エクスプレッションペダルの右側についているフットスイッチで、ある特定のレジストレーションを選択したり、ナンバー順に、または自分で設定した順序でレジストレーションを選択することができます。

ディスプレイセレクトセクションの中のレジストレーションシフトボタンを押します。LCDディスプレイ上には、レジストレーションシフト画面が表示されます。



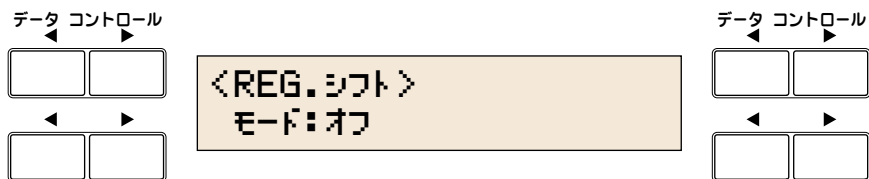
レジストレーションシフト画面

LCDディスプレイの左下にあるデータコントロールボタンを使って、モードを選びます。モードをオフにする機能とシフト、ジャンプ、ユーザーの3つのモードがあります。それぞれのモードの内容は以下のとおりです。



① オフ

レジストレーションシフトの機能をキャンセルします。



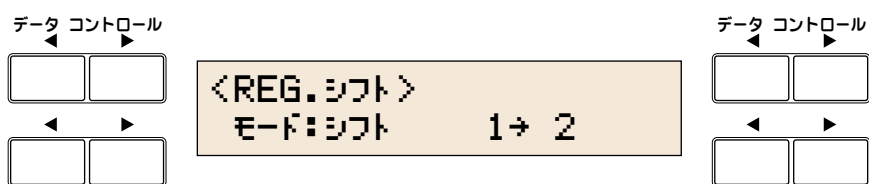
② シフト

シフトモードを使うと、右のフットスイッチを押すたびにレジストレーションナンバーがひとつずつ右に移動し、1から16までのナンバー順にレジストレーションが選択されていきます。選択されたナンバーボタンは点灯します。



NOTE

- ・ ボタンは1～8までしかありませんが、上位機種でつくった9～16のレジストレーションまでシフトするようになっています。
- ・ 16の次は1にシフトします。
- ・ 現在のレジストレーションナンバーと次のナンバーが表示されます。

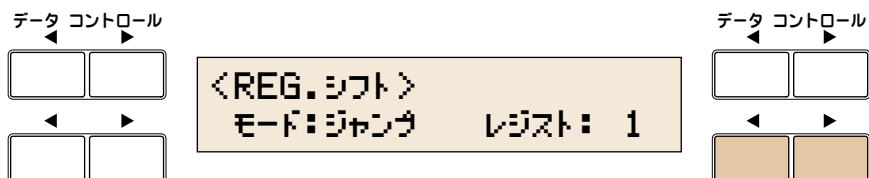


③ ジャンプ

ジャンプモードを使うと、指定したナンバーのレジストレーションにジャンプします(直接選ぶことができます)。

ジャンプモードの使い方

1. ジャンプモードを選ぶと、LCDディスプレイの右側にジャンプ先のナンバーが表示されます。



2. 右下の一組のデータコントロールボタンを使って、ジャンプしたいナンバーを選択します。押すたびに、ジャンプ先のレジストレーションのナンバー表示が変わります。
3. 右のフットスイッチを押すと、指定したレジストレーションにジャンプします。



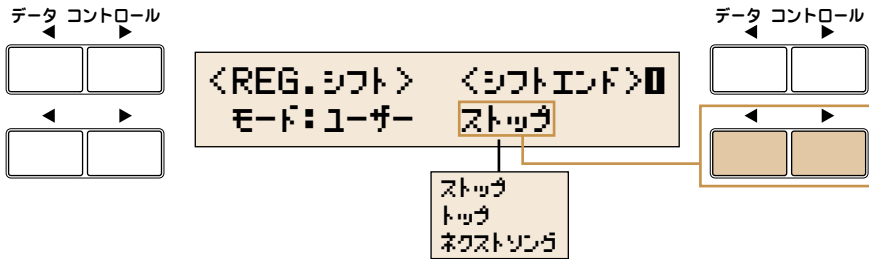
NOTE

EL-100では、ボタンは1～8までしかありませんが、上位機種でつくった9～16のレジストレーションへジャンプすることもできます。

④ ユーザー

ユーザーモードを使って自分でシフトする順序を設定すると、オリジナルのレジストレーションシフトが作れます。右のフットスイッチでコントロールします。

1. ユーザーモードを選ぶと、LCDディスプレイの右側にシフトエンドのモード(レジストレーションシフトの最後の動作)が表示されます。また、右上にページ番号が表示されます。



2. 右下の一組のデータコントロールボタンを使って、シフトエンドを設定します。次のように3つのモードがあります。

ストップ:最後のレジストレーションを選択して、レジストレーションシフトは終了します(次にシフトしません)。

トップ:最後のレジストレーションを選択したあと、トップに戻って繰り返しシフトします。

ネクストソング:最後のレジストレーションを選択したあと、次のソングナンバーのレジストレーションデータを自動的に読み込みます。1曲で16種類以上のレジストレーションを使用する場合などに便利です。

この機能を使って演奏をMDRで録音すると、複数のソングを連続して自動的に再生することができます。

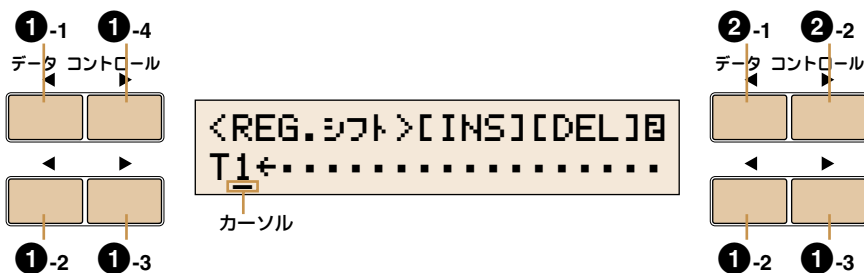


NOTE
ネクストソングを使用してMDRを再生するためには、必ず再生ボタンを押してMDRをスタートさせてください。カスタムプレイボタンでは機能しません。



NOTE
ネクストソングではユーザー音色は読み込みません。また、リズムの再生中は、ユーザーリズムパターンやシーケンスも読み込みません。

3. ページボタンで2ページ目に切り換えます。エディット画面が表示されます。ここで、レジストレーションシフトを設定します。



① ポジション(カーソルコントロール)

LCDディスプレイ上のカーソルは、挿入/編集するレジストレーションのポジションを選ぶために使用します。

- ①-1 カーソルを最初の位置に戻します。
- ①-2 ボタンを押すごとに1つだけカーソルを左に移動します。
- ①-3 ボタンを押すごとに1つだけカーソルを右に移動します。
- ①-4 カーソルを、現在設定されているレジストレーションシフトの最後の位置に移動させます。



NOTE
カーソルは、設定されたレジストレーションの範囲内でのみ移動します。



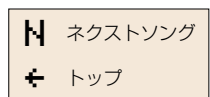
NOTE
カーソルを移動すると、カーソルが置かれたポジションにあるレジストレーションがセットされます。ただし、カーソル移動で、シフトエンドを動作させることはできません。



NOTE
ユーザーレジストレーションは、最高80まで設定できます。1ページに表示されるレジストレーション数を越えて入力していくと、画面は右にスクロールしていきます。



NOTE
レジストレーションを入力していくと、自動的に最後のレジストレーションの後にシフトエンドを示すマークが置かれます。



② データエディット

これらのボタンを使って、ユーザーレジストレーションシフトの設定、編集作業をします。

②-1 [INS] (INSERT : インサート)

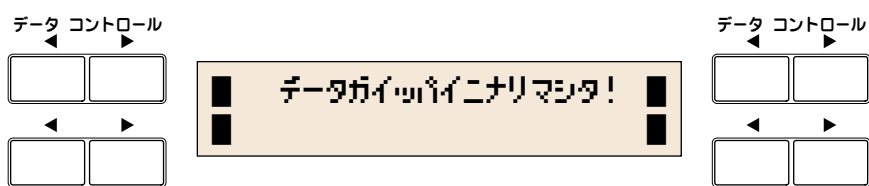
初めてレジストレーションシフトを設定する場合や、レジストレーションシフトを組んだ後や途中で、別のレジストレーションを挿入する場合に使います。

カーソルを、挿入したいポジションに合わせます。挿入したいレジストレーションをナンバーボタンで選択した後、[INS]に対応したデータコントロールボタンを押します。カーソルの位置以降のレジストレーションが右に1つつずつずれ、カーソルの位置に、選んだレジストレーションが挿入されます。

②-2 [DEL] (DELETE : デリート)

カーソルの位置のレジストレーションを削除(デリート)する場合に使います。削除したいレジストレーションにカーソルをあわせて、[DEL]に対応したデータコントロールボタンを押します。

ユーザーレジストレーションシフトの限度である80レジストレーションを越えて入力することはできません。最後にE(エンド)マークが表示されます。挿入操作(INS)で80以上設定しようとする、以下の画面が一時的にLCDディスプレイに表示されます。



ミュージックディスクレコーダーMDRは、演奏データを録音/再生するだけでなく、ボイスデータなどを含めたレジストレーションデータを保存したり読み込んだりすることができます。ディスクコピー機能を使ってデータのバックアップを取ったり、その他、市販のXG曲集を再生したりすることもできます。

1 MDRのご使用の前に

MDRをご愛用いただくために、ご使用時には以下のことをお守りください。

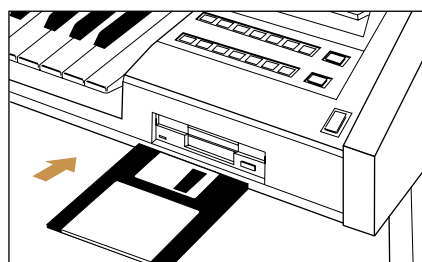
フロッピーディスクの種類

3.5インチの2DDまたは2HDフロッピーディスクがご使用になれます。

フロッピーディスクの挿入/取り出し

■フロッピーディスクの入れかた

フロッピーディスクのシャッターに文字が書かれている方(表面)を上にして、MDRセクション下部のディスク挿入口にカチッと音がするまでいねいに差し込みます。



フロッピーディスク挿入口



ユーズランプ

イジェクトボタン



NOTE

EL-100の電源を入れると、ディスク挿入口左下のユーズランプは常に点灯して、MDRが使用可能であることを示します。

フロッピーディスクをディスク挿入口から取り出すときのご注意

❗ フロッピーディスクを取り出すときは、あらかじめ、MDRの停止ボタンのランプが点灯していることを確認してください。(録音を行っていた場合は、停止ボタンを押して、デジタルディスプレイのストップ処理中を示す点線表示が止まったことや停止ボタンのランプが点灯したことを確認した上で、ディスクを取り出すよう心がけてください。)

停止ボタンのランプ点灯を確認後、ディスク挿入口の右下にあるイジェクトボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出たことを確認してから、ディスクを取り出してください。

⊘ 録音中や再生中などは絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスク内容がこわれるだけでなく、MDRの故障の原因になります。

❗ イジェクトボタンを中途半端に押したり、あわてて押すと、取り出し機構が正常に作動せず、フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなる場合があります。この場合、無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたり、MDRが故障したりする原因になります。

このような場合は、もう一度イジェクトボタンを押しなおすか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、もう一度イジェクトボタンをしっかりと正確に押しなおして取り出してください。

❗ 電源を切るときは、フロッピーディスクはあらかじめMDRから取り出してください。電源を切ったあと、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- MDRは高精度の磁気ヘッドを使用しています。MDRを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れてきます。磁気ヘッドが汚れると、録音や再生にエラーが生じることがあります。
- MDRを良好な状態でご使用いただくために、磁気ヘッドを定期的に(1ヵ月に1回程度)クリーニングしていただくことをおすすめします。



NOTE

磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、取扱説明書巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点で、弊社推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただくこともできます。



NOTE

ディスク挿入口にクリーニングディスクを入れると、磁気ヘッドのクリーニングが自動的に始まります。この場合、「Fort」と表示されることがありますが、そのままお待ちください。クリーニングディスクの取扱説明書に記載されているクリーニング時間が経過したらクリーニングは終了です。(弊社推奨クリーニングディスクの場合は約10秒です。) 終了後に、停止ボタンを押してディスクを取り出してください。

フロッピーディスクについてのご注意

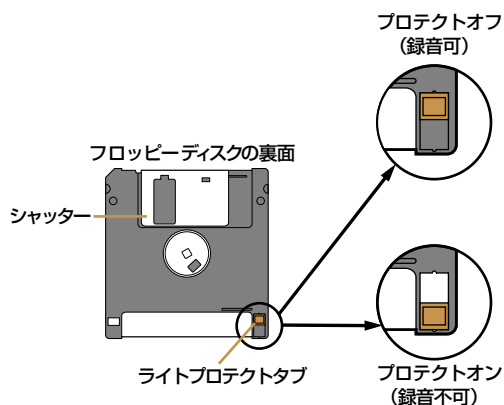
■ フロッピーディスクの取り扱いと保管

- ⊘ (持ち運び場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物をのせたり、折り曲げたりしないでください。
- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところに置かないでください。また、ディスク内部に水やほこりなどが入らないようご注意ください。
- ⊘ ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。
- ⊘ 磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- ⊘ シャッターやディスク自体が変形しているようなディスクは、使用しないでください。
- ⊘ フロッピーディスクにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

■ 誤消去防止

フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまわないようにライトプロテクトタブ(書き込み禁止タブ)が付いています。大切なデータが入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン(タブの窓が開いた状態)にして、書き込みができないようにしてください。

逆に、録音する場合などは、ご使用の前にディスクのライトプロテクトタブがオフになっていることをご確認ください。



■ データのバックアップ

フロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータはバックアップとして予備のディスクに保存しておかれることをおすすめします。バックアップディスク作成のためのディスクコピーについては、101ページをご参照ください。



NOTE

市販フロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をご確認の上、お求めください。

新しいタイプのMDR

EL-100のMDRは、フロッピーディスクをディスク挿入口に挿入すると、ディスクの内容をすぐに自動的に読み込んでいく仕様になっています。したがって、ディスクを挿入すると、すぐにデータ読み込みのための動作音が始まります。この機能によって、再生をすぐにスタートさせることができます。また、データ再生中の動作音が無くなるということや複数のソングを使用した演奏(ネクストソング機能)の録音が可能になるというメリットが生まれました。



NOTE

ディスクを抜くと、現在再生しているソング以外のデータは(エレクトーンから)失われてしまいます。



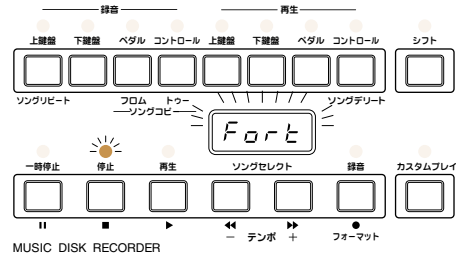
NOTE

データ読み込みのための動作音が生じる時間は、フロッピーディスクに入っているデータの量に比例します。MDRを使用していないときにMDRの動作音が気になる場合は、そのままディスクを取り出しても問題ありません。

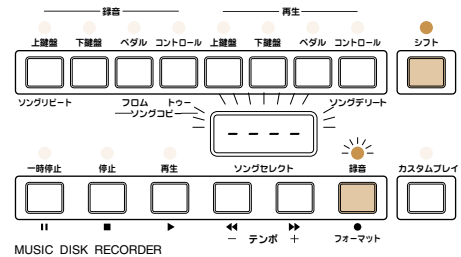
2 ディスクをフォーマットする

ディスクを使用するためには、最初にディスクをフォーマット(初期化)する必要があります。フォーマットとは、ディスクをMDRの書式に合わせる作業です。

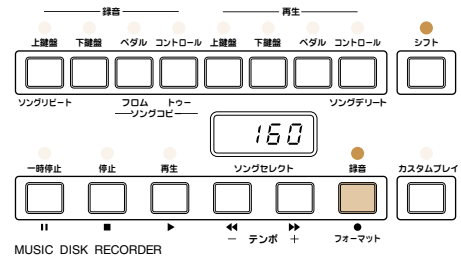
1 ディスクの表側を上にして、MDRのディスク挿入口にしっかりと挿入します。
デジタルディスプレイに"Fort"が現れ、挿入したディスクがフォーマットする必要があることを示します。



2 MDRセクションのシフトボタンを押しながら、フォーマットボタンを押します。
MDR中央部のデジタルディスプレイ上に小さなバー表示が現れ点滅を始めます。同時にフォーマットボタンの真上のランプも点滅し、フォーマットの準備ができたことを示します。



3 もう一度フォーマットボタンを押します。
フォーマットが開始されます。
MDRのデジタルディスプレイには数字の160が表示され、160から001まで減少していきます。フォーマットが完了したら、MDRはストップの状態に戻ります。
フォーマットが完了すると以下のようなソングナンバー(ネーム)がLCDディスプレイに表示されます。



<ソングネーム> 01

ソングセレクトボタンやLCDディスプレイの右下/左下のデータコントロールボタンを使って、ソングナンバー(ネーム)を切り換えることができます。一つのページで10ソングまで切り換えて選ぶことができます。右上にはページ1、2、3、4が表示され、ソングナンバー(ネーム)のページが4ページあることを示します(計40ソング)。フォーマット直後は何も録音されていないので、ソングネームはブランクになっています。

シフトボタンについて

MDRパネルのそれぞれのボタンの真上に表示されている機能を選択する場合は、単に該当するボタンを押すだけです。ボタンの真下に表示されている機能や表示の無い機能を選択する場合には、シフトボタンを押しながら、その該当するボタンを押します。

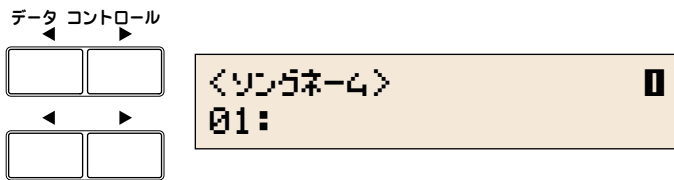


フォーマットを実行すると、ディスクの中のすべてのデータは消去され、新たにデータが記録できる状態になります。消去されたデータは永久に失われてしまいます。フォーマットを実行する前に、重要なデータが入っていないかどうかよくご確認ください。

3 録音する

(1)録音するには

- 1 まずレジストレーションメモリーの設定など、録音したい曲の演奏の準備をします。
- 2 フォーマットされたディスクを、ディスク挿入口に挿入します。
- 3 録音したいソングナンバーを、ソングセレクトボタンを使って選択します。また LCDディスプレイ上にもソングナンバーが表示されますので、データコントロールボタンを使って、ソングを選ぶことができます。

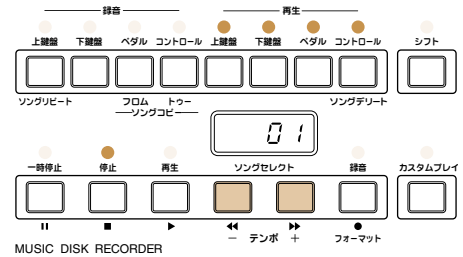


- 4 録音ボタンを押します。録音のランプが点灯し、再生ランプと、カスタムプレイランプが点滅を始め、MDRが録音待機状態になったことを示します。

- 5 再生ボタンを押します。再生のランプが点灯し、MDRのデジタルディスプレイ上を小さなバーが左から右に走ります。これは、エレクトーンが設定されたレジストレーションなどのデータの読み込みをしていることを表します。

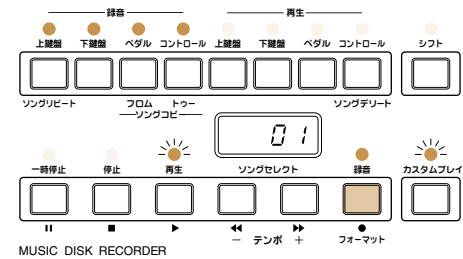
NOTE

最高で40ソングまで録音できますが、演奏データの場合は使用するメモリーの量が多いので、1枚のディスクに録音できる曲数は実際にはもっと少なくなります。(メモリーの残量については、103ページをご参照ください。)



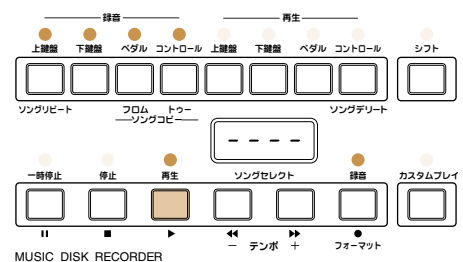
NOTE

MDR停止中に停止ボタンを押すと、LCDディスプレイ上にソングナンバーを表示させることができます。



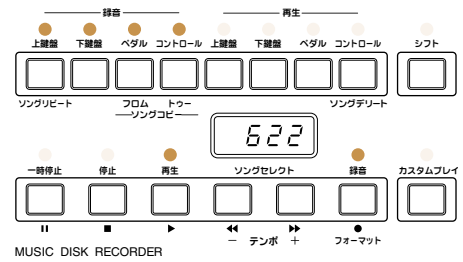
NOTE

すでに該当するソングナンバーにデータが録音されている場合は、中央のデジタルディスプレイのソングナンバーの左側に2本の小さなバー(-)が表示され、デジタルディスプレイと録音ランプが点滅を始め、該当するソングナンバーにデータが入っていることを知らせます。そのまま録音を実行したい場合は、もう一度録音ボタンを押すと4の録音待機状態になります。キャンセルしたい場合は、停止ボタンを押します。



6

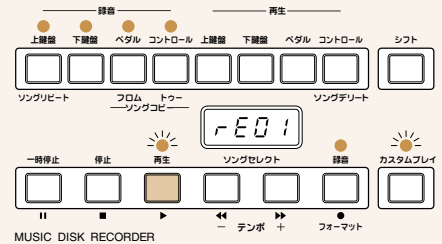
デジタルディスプレイに数字が表示されたのを確認してから、演奏を開始します。
 エレクトーンがデータの読み込みを終了し、演奏可能な状態になると、デジタルディスプレイは小さなバーの表示から数字表示に変わります。この数字は、ディスクのメモリーの残量を表しています。



数字表示後の演奏前のわずかな時間の経過も記録され、再生時に反映されます。

レコーディング中にミスをした場合は

- レコーディングの状態のままで、再生ボタンを押します。
 これで録音が中止され、曲の頭に戻ることができます。
 デジタルディスプレイの左側に「rE」(RETRY：リトライ：再試行)の文字が表示され、再生とカスタムプレイのランプが点滅を始め、再度録音が可能になったことを知らせます。
- もう一度再生ボタンを押すことで、再度録音を開始できます。
 前もって録音されたデータは、すべて新しいデータに置き換わります。

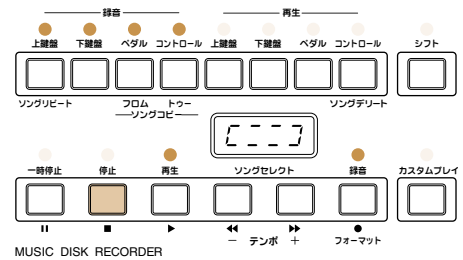
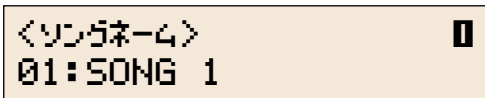


6

ミニディスクディスクレコーダー(MDR)

7

演奏が終わったら、停止ボタンを押します。
 デジタルディスプレイにストップ処理中の表示が出たあと、停止ランプが点灯し、MDRはストップの状態に戻ります。
 LCDディスプレイには、「SONG(ナンバー)」が表示され、そのソングナンバーにデータが録音されたことを示します。



ストップ処理中であることを示します



フロッピーディスクを取り出す場合は、デジタルディスプレイのストップ処理中を示す点線表示が止まったことや停止ボタンのランプが点灯したことを確認した上で取り出すよう心がけてください。



デジタルディスプレイのメモリー残量が「008」またはそれ以下になったら、数字は点滅を始め、残量が0に近くなったことを知らせます。

8

再生ボタンを押して、録音した演奏を聞いてみます。
 再生を開始するまでには、レジストレーションなどの読み込みのため1〜2秒かかります。(再生については、93ページをご参照ください。)



録音/再生中は、絶対に電源を切ったり、イジェクトボタンを押したりしないでください。またエレクトーンの電源を切る際には、あらかじめフロッピーディスクを取り出しておいてください。故障の原因になります。

MDRの概要

MDRは通常のカセットテープレコーダーと同じように操作がシンプルで簡単ですが、内容的にはカセットテープレコーダーよりもはるかに優れています。MDRは、演奏データだけではなくパネル面のレジストレーションデータや音量の加減などのコントロールデータをデジタル信号として記録します。MDRが記録するデータは、大きく分けて以下の3種類に分類できます。

1. レジストレーションデータ

パネル上のレジストレーションだけでなく、前もってレジストレーションメモリーボタンに記録されているデータも、演奏を録音する前に記録します。またレジストレーションシフトの設定や前もって読み込んだリズムシーケンスデータ/パターンなどを含めたデータも記録します。

2. 演奏データ

演奏データを、フォルティシモからピアノシモまで、演奏の微妙な変化も逃さず録音します。上鍵盤、下鍵盤、ペダル、(リード)、(キーボードパーカッション)をそれぞれ別々に記録しますので、ほかのパートに影響を与えることなく変更できます。

3. コントロールデータ

LCDディスプレイ上での各種設定の変更操作やエクスプレッションペダル、フットスイッチの情報など、演奏中のエレクトーン上の設定変更をすべて記録します。

(2)パート録音するには

上鍵盤、下鍵盤、ペダル、リード、それぞれのパートを個別に録音することができます。また、この機能で、キーボードパーカッションや、レジストレーションの変更、エクスプレッションペダル操作といったコントロールデータも個別に記録することができます。

1 まずMDRでの録音の準備をします。(この操作は、85ページの録音の手順1~4と同じです。)

1. 演奏に必要なすべてのレジストレーションを、レジストレーションメモリーボタンに設定します。
2. フォーマットされたディスクをMDRに挿入します。
3. MDRのソングナンバーを選択します。
4. 録音ボタンを押して、録音の待機状態にします。

2 録音したいパートを選択します。
この場合、1-4.で録音ボタンを押すと、録音側の各パートが自動的に選択されて、各パートのランプが点灯します。

録音側の録音しないパートのボタンを(この場合、上鍵盤を)押すと、そのパートのランプが消え、逆に再生側のそのパートのランプが点灯します。

■ 録音/上鍵盤

点灯の状態、上鍵盤パートの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。

■ 録音/下鍵盤

点灯の状態、下鍵盤パートの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。

■ 録音/ペダル

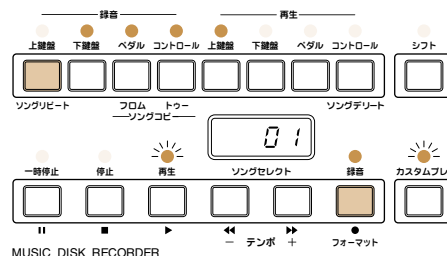
点灯の状態、ペダルパートの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。

■ 録音/コントロール

点灯の状態、コントロールデータの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。

(コントロールデータについては、「MDRの概要」をご参照ください。)

上記のイラストの場合、上鍵盤パートの録音だけをキャンセルしていることとなります。



リードボイスとキーボードパーカッションのパート録音

MDRのパネル上には表示されていませんが、リードボイスとキーボードパーカッションもパートごとの録音/再生ができます。

リードとキーボードパーカッションのパート録音をするには

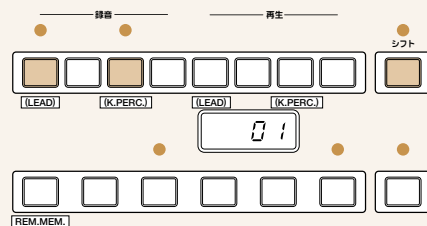
録音待機状態でシフトボタンを押しながら、イラストに示された録音側のリード/キーボードパーカッションのパートボタンを押します。

■ 録音/リード

点灯の状態では、リードパートの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。

■ 録音/キーボードパーカッション

点灯の状態では、キーボードパーカッションのパートの録音を選択。オフで録音キャンセルとなります。(キーボードパーカッションは、リズムと分離して録音/再生ができます。)



NOTE

このように、リードとキーボードパーカッションも、ほかのパートと別に独立して録音/再生ができます。またパート録音の指定をしない場合は、リードとキーボードパーカッションのパートは、それぞれリード→上鍵盤やキーボードパーカッション→下鍵盤/ペダルの情報として録音/再生されます。

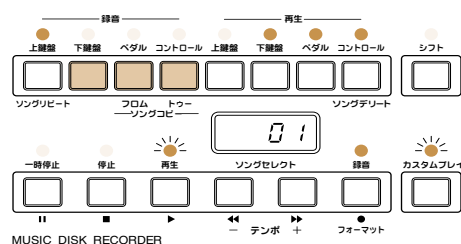
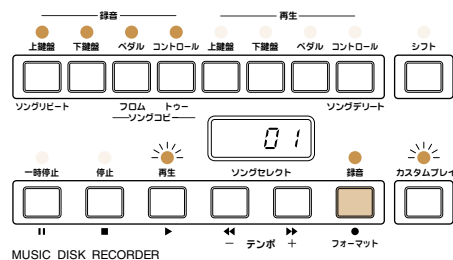
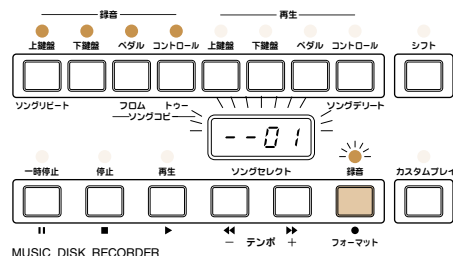
3 再生ボタンを押し、数字表示(メモリー残量表示)がMDRのデジタルディスプレイ上に現れたら、演奏を始めます。

4 (下鍵盤とペダル鍵盤の)演奏が終了したら、停止ボタンを押します。これで(下鍵盤とペダル鍵盤の)パート録音ができました。次に、録音しなかった(上鍵盤)パートの録音を行ないます。

5 MDRの録音ボタンを押します。この場合、すでにこのソングナンバーには(下鍵盤とペダル鍵盤の)演奏データが入っています。MDRのデジタルディスプレイには、イラストにあるようにソングナンバーとその左側の小さな2本のバーが表示され点滅を繰り返して、このソングナンバーにすでにデータが入っていることを示します。

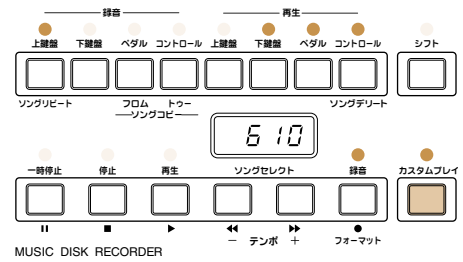
6 別のパートを重ねるために、もう一度録音ボタンを押します。再生とカスタムプレイのランプが点滅を始め、録音待機状態になったことを示します。

7 上記2で録音した録音側のパートボタンを押して録音をキャンセルし、再生のパートボタンのランプを点灯させます。ここでは、2で録音しなかったパート(上鍵盤)だけ録音側のパートボタンのランプを点灯させます。



8

新しいパートを録音するために、カスタムプレイボタンを押します。既に録音したパート(下鍵盤とペダル鍵盤)の再生が始まりますので、それに合わせて新規のパート(上鍵盤)の演奏を始めます。レジストレーションデータは上記3のステップで記録されていますので、すぐに録音できる状態になります。曲の最後まで行くと、MDRIは自動的にストップします。



NOTE

カスタムプレイは、レジストレーションデータ以外のデータを録音/再生する場合に使います。

NOTE

重ねて録音するパートの長さは、その前に録音したパートの長さ以上にはなりません。前に録音していた曲の上に別の曲を録音する場合も、前に録音していた曲の長さを超えることはできません。長さを変更したい場合は、あらかじめソングデリート(削除)を行なって、前の曲を削除してから録音してください。(ソングデリートについては、101ページをご参照ください。)

6

ミュージックディスクレコーダー(MDRI)

パンチイン録音

録音したソングの一部だけを録音し直すことができます。パートを選択することによって、特定のパートだけをパンチイン録音することもできます。

1. 再生ボタンを押してソングを再生します。
2. パンチイン録音したい位置で、一時停止ボタンを押します。ソングが一時停止状態になります。
3. 録音ボタンを押します。再生とカスタムプレイのランプが点滅を始め、録音待機状態になったことを示します。
4. 録音側のパートボタンを押して、パンチイン録音しないパートのランプを消します(パンチイン録音したいパートのランプだけを点灯させます)。
5. 再生ボタンを押して録音を開始します。変更したい部分だけを演奏します。
6. 速やかに停止ボタンを押して、録音を終了します。

4 レジストレーションなどのデータだけを記録する

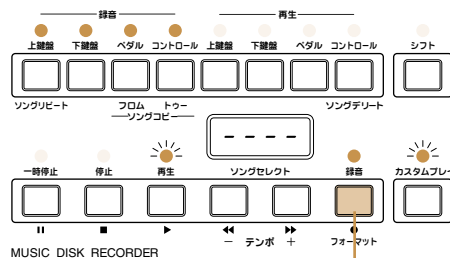
演奏データを録音せずに、レジストレーションなどのデータだけを記録することもできます。記録されるデータには、レジストレーションメモリーの設定や、レジストレーションシフト、リズムパターン(ユーザーリズム)、そしてリズムシーケンスデータが含まれます。記録する方法としては、以下の2通りがあります。

[方法1]

- 1 記録したいレジストレーションデータを設定します。
- 2 ソングセレクトボタンやデータコントロールボタンを使って、MDRの(フロッピーディスクの)記録したいソングナンバーを選択します。
- 3 MDRの録音ボタンを押しながら、レジストレーションメモリーセクションのM./TO DISK(メモリー)ボタンを押します。MDRのデジタルディスプレイ上を、小さなバーが左から右に走りレジストレーションを記録していることを示します。終了すると、自動的にストップの状態に戻ります。

[方法2]

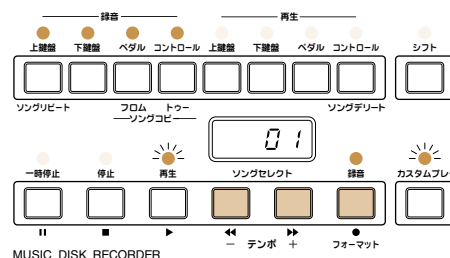
- 1 上記1、2と同じ手順で、記録したいレジストレーション/データを設定し、記録させたいソングナンバーを選択します。
- 2 録音ボタンを押して、録音を待機状態にします。
- 3 再生ボタンを押して、小さなバーがデジタルディスプレイ上を左から右に走るのを確認したら、すぐに停止ボタンを押します。この操作は演奏を録音するときと同じです。MDRが演奏データの録音を始める前に、レジストレーションなどのデータを読み込んだところで、録音を中断して、レジストレーションなどのデータだけを記録するものです。



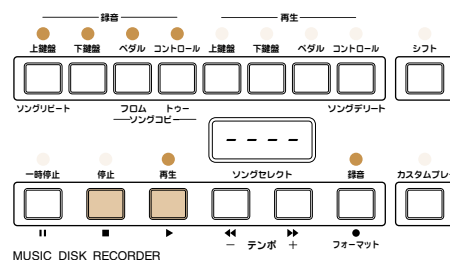
1. 録音ボタンを押しながら



2. M./TO DISKボタンを押します



MUSIC DISK RECORDER



MUSIC DISK RECORDER

5 レジストレーションなどのデータを読み込む

ソングナンバーに記録されたレジストレーションなどのデータは、簡単にエレクトーンに読み込むことができます。

- 1 ディスクを挿入し、読み込みたいデータの入っているソングナンバーを選択します。
- 2 MDRの再生ボタンを押します。
これで、レジストレーションなどのデータを読み込むことができます。

レジストレーションだけの記録/読み込みについて

MDRとレジストレーションメモリーを併用することで、演奏中にパネル設定を変更することなく、1曲で8種類以上のレジストレーションを使用する曲にも充分対応することができます。(1枚のディスクで40ソングナンバーがあり、また、1ソングナンバーにはレジストレーションメモリーボタンの数だけ[8種類]記録できます。)

16種類以上のレジストレーションを使って1つの曲を

演奏する場合は：

- 1 演奏する前に、レジストレーションを順序良くパネル上のレジストレーションメモリーボタンに記録して、それをいくつかのソングナンバーに記録します。この際、演奏する順序でソングナンバーを整理しておくとう便利です。
- 2 演奏中に、1つのソングナンバーの中の8レジストレーションを使用したら、次のソングナンバーをソングセレクトで選択し、再生ボタンを押します。これで、パネル上のレジストレーションメモリーボタンにアサインされているレジストレーションは、次のものと入れ替わります。
- 3 この操作を繰り返すことで、どんなに長い曲でも簡単にレジストレーションチェンジができます。



NOTE

レジストレーションシフト(ユーザー)を設定しておくことにより、次のソングナンバーのレジストレーションを自動的に読み込むこともできます。詳しくは80ページのネクストソングをご参照ください。

6 レジストレーションだけを 入れ替える

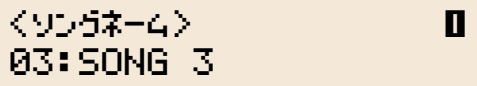
演奏データを変えることなく、録音されている曲のレジストレーションのみを変えることもできます。操作方法は、前述の『4 レジストレーションなどのデータだけを記録する』と同じです。

7 再生する

再生ボタンを押すだけで、自動的にレジストレーションなどのデータを読み込み、再生することができます。

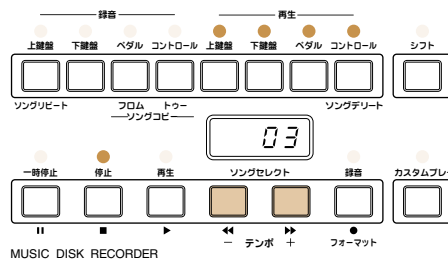
(1)再生するには

- 1 ソングセレクトボタンを使って、再生させたいソングナンバーを選択します。また、LCDディスプレイ上にもソングナンバー/ネームが表示されますので、データコントロールボタンを使ってソングを選ぶこともできます。



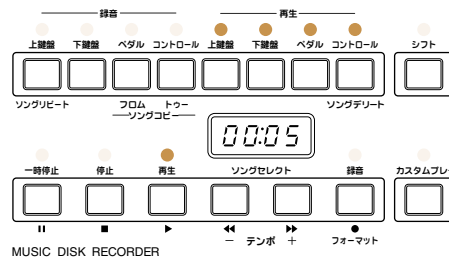
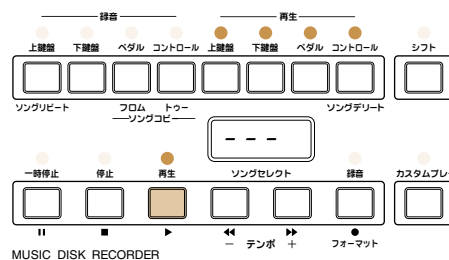
- 2 再生ボタンを押します。再生ランプが点灯し、デジタルディスプレイ上に小さなバーが走り、MDRがその曲のレジストレーションを読み込んでいることを示します。

- 3 レジストレーションデータの読み込みが終了すると、再生が自動的に始まります。デジタルディスプレイ上には、時間の経過を表す数字が表示されます。曲の最後まで行くと自動的にストップしますが、停止ボタンを使って曲の途中で再生を中止することもできます。



NOTE

MDR停止中に停止ボタンを押すと、LCDディスプレイ上にソングナンバーを表示させることができます。



リードボイス/キーボードパーカッションをパート録音していた場合

リード/キーボードパーカッションを分離して録音した場合は、リードとキーボードパーカッションの再生ボタンがオンになります。EL-100では分離録音したパートが自動的にオンになります。

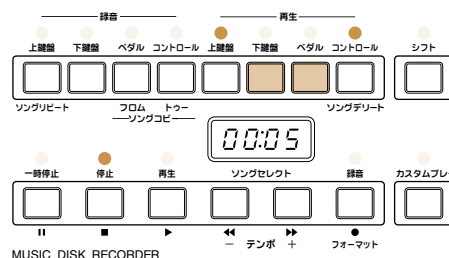
NOTE

MDRは、録音したときの状態をそのまま再現しますが、EL-87/90などで作成されたデータを再生する場合は、リードはオフ、キーボードパーカッションはオンになります。(リードパートをオンにするには、シフトボタンを押しながら再生側の上鍵盤ボタンを押します。)

(2)パート再生するには

MDRでは、演奏データの特定のパートだけを再生することもできます。特定のパートの練習をする場合などに便利です。

- 1 再生したいソングナンバーを選択します。
- 2 再生側の消したいパートのボタンを押して、そのパートのランプをオフにします。また、パート再生させたいパートのランプが点灯していることを確認します。



3 再生ボタンを押します。
MDRがレジストレーションなどのデータを読み込んだところで、再生が始まります。

4 再生されているパートにあわせて演奏します。
曲の最後まできたら、自動的にストップの状態に戻ります。

(3) リピート再生するには

特定の曲だけを繰り返し再生したり、ディスクに録音されている全部の曲を繰り返し再生することができます。

1 再生したいソングナンバーを選択します。
ディスクの全曲をリピート再生したい場合には、再生したい最初の曲を選択します。

2 シフトボタンを押しながら、ソングリピートボタンを押します。
MDRのデジタルディスプレイ上には、"ALL"(オール：全曲)の表示が現れます。

3 選択した曲から全曲リピート再生したい場合
再生ボタンを押します。
これで、全曲のリピート再生がスタートします。

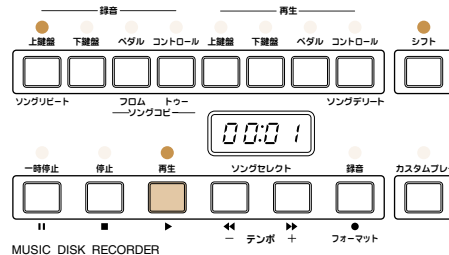
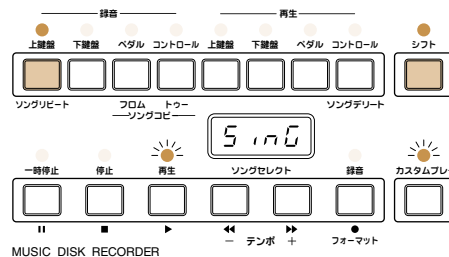
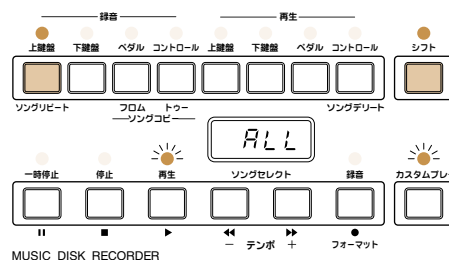
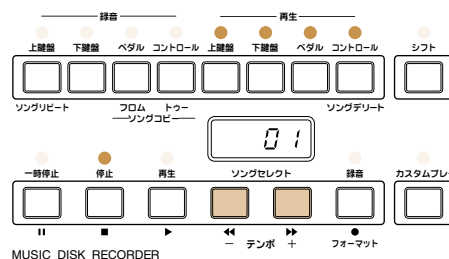
特定の曲1曲だけをリピート再生したい場合

1. もう一度シフトボタンを押しながら、ソングリピートボタンを押します。

MDRのデジタルディスプレイが、"SinG"(SINGLE：1曲)の表示に変わり、1曲だけの繰り返しを選んだことを示します。

2. 再生ボタンを押します。
これで、1曲だけのリピート再生がスタートします。

停止ボタンを押すと、リピート再生はストップします。



XGについて

EL-100では、MDRを使って市販のXGソングデータを再生することができます。また、EL-100でつくったソングをXGデータに変えるXG簡易変換機能もあります。

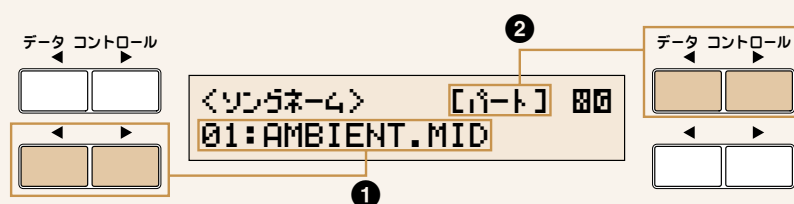
XGソングデータの再生

再生専用の機能です。XGソングのパートをミュート(消音)させて、そのミュートさせたパートを弾くことにより、特定のパートの練習をすることもできます。

1. XGソングデータのディスクをMDRのディスク挿入口に差し込みます。

以下のようなディスプレイが表示されます。

ソングネーム表示画面



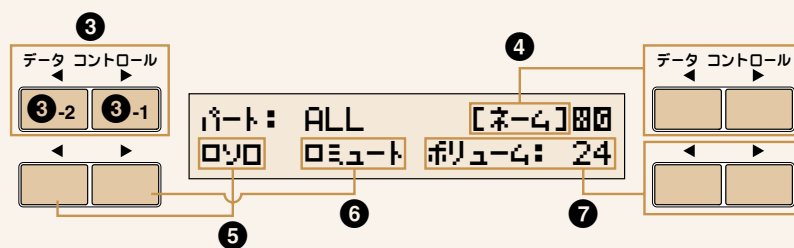
XGソングは[XG]のページに表示されます。同一ディスクに、EL-100のデータとXGソングを入れることもできますが、ディスク内のページはそれぞれ異なります。

2. ①のデータコントロールボタンを押して再生したいソングを選びます。

3. MDRの再生ボタンを押して再生を開始します。

4. ②のデータコントロールボタンを押してパート表示画面に切り換えます。

パート表示画面



③のボタンを使ってパートを選択し、選んだパートをソロ⑤/ミュート⑥したり、パートごとのボリューム⑦を調節したりします。



EL-100が対応しているXGソングデータは、SMFフォーマット0または1です。



XGソングデータの再生中は、EL-100本体で設定したリバーブと異なる場合があります。



ディスクによっては、ディスクを挿入してもXGソングのソングネームが表示されないことがあります。この場合は、ページボタンで[XG]のページを選べるとソングネームが表示されます。

① ソングを選択します。

② パート表示画面に切り換えます。

LCDディスプレイ右上に[XG]のページが追加されます。

③ パート選択(1-16、ALL[オール])

③-1 次のパートを選択します。

③-2 前のパートを選択します。

④ ソングネーム表示画面に切り換えます。

⑤ ソロ:ボックスを■に設定すると、選んでいるパートがソロ状態になります。他のパートはすべてミュートされた状態になります。

⑥ ミュート:ボックスを■に設定すると、選んでいるパートがミュート(音が鳴らない)状態になります。

⑦ ボリューム:XGソングのパートごとのボリュームを0~24の範囲で調節します。ALLを選択した場合は、ソング全体のボリュームを調節します。

XG簡易変換機能

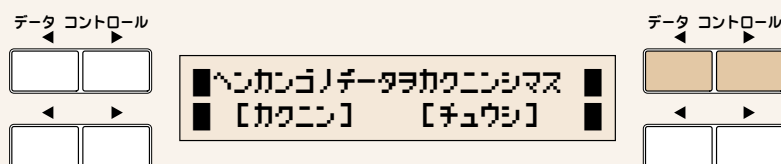
XG簡易変換機能は、EL-100で演奏したデータ(録音したソング)をXG機器で再生したり、コンピューターで使用できるように変換する機能です。音源システムの違いにより実際の演奏とは聞こえかたが異なります。

変換される内容：

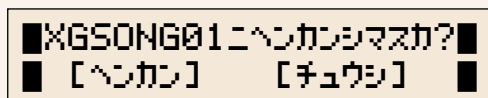
音色番号、音量、フィート、パン、ピブラート、スライド、イニシャルタッチ、エフェクト(トレモロ、ディレイ)、リバーブ(リングス除く)、サステイン、リズムパターン(アカンパニメント除く)、エクスプレッション、レジストレーション、レジストレーションシフト(ネクストソング除く)

EL-100のソングデータをXGソングに変換するには

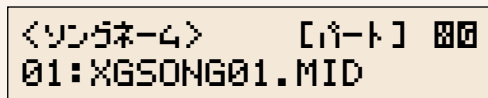
1. ソングデータの入ったディスクをMDRのディスク挿入口に差し込みます。
2. XGに変換したいソングのナンバーを選択します。
3. 右上のデータコントロールボタンを押しながらMDRの録音ボタンを押します。
以下のような確認のメッセージが表示されます。



4. [カクニン]を選択します。
ソングの再生が始まります。最後まで再生すると、以下のようなメッセージが表示されます。



5. [ヘンカン]を選択します。
XGの変換が終了し、元の画面に戻ります。

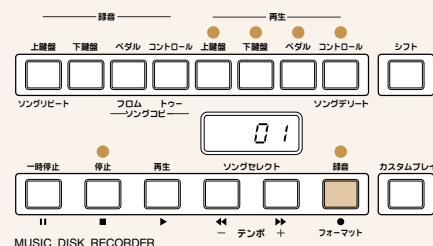


(ディスク内にXGソングが新たに作成された場合は、画面右上に[XG]ページが追加され)変換後のソングは、[XG]ページに保存されます。変換元のソングはそのまま残ります。



NOTE

変換する場合は、前もってメモリー残量が十分あることをご確認ください。



NOTE

この場合XG音源を使って再生します。



NOTE

[チュウシ]を選択すると作業を中止し、元の画面に戻ります。



NOTE

XGソングに変換した場合、音が元のデータと異なって聞こえることがあります。



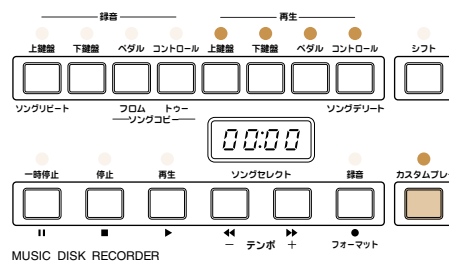
NOTE

変換したソングはデリートすることはできません。

8 その他の機能

(1) カスタムプレイ

レジストレーションやほかのデータを読み込まないで再生したい場合は、再生ボタンの代わりにカスタムプレイボタンを押します。すぐに再生がスタートします。



NOTE

シフトボタンを押しながらカスタムプレイボタンを押すか、次のリード&オートインクリメントを実行すると、キーボードパーカッションのアサイン、ユーザーリズム/リズムシーケンスのデータの設定を除いたレジストレーションデータを読み出して、再生がスタートします。レジストレーションだけを呼び出すときに使用すると便利です。

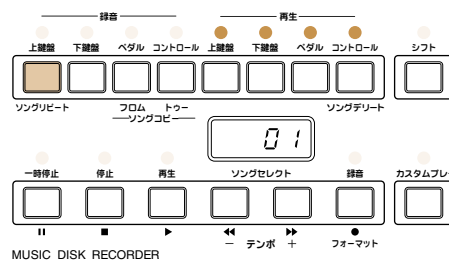
(2) リード&オートインクリメント

レジストレーションだけを呼び出すには、シフトボタン+カスタムプレイボタンの方法のほかに、リード&オートインクリメント機能を使う方法もあります。

リード&オートインクリメント機能について

MDRのストップ状態で、録音側の上鍵盤ボタンを押すと、MDRはレジストレーションデータを読み出して、その後自動的に次のソングナンバーを選択します。

シフトボタン+カスタムプレイボタンの方法よりも、次のソングナンバーまで自動的に選択できるので便利です。

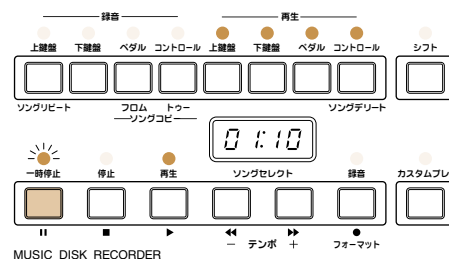


NOTE

レジストレーションデータが入っていないソングの場合は、この機能は動きません。

(3) ポーズ(一時停止)

再生中に一時停止ボタンを押すと、ソングを一時停止します。一時停止ボタンをもう一度押すと、一時停止したところから再生がスタートします。



(4) 早送り/巻戻し

再生中に、カセットテープレコーダーのように、早送りと巻戻しができます。

MDRパネル上の▶▶で早送り、◀◀で巻戻しとなります。このボタンを押すと再生は中断され、デジタルディスプレイの数字表示も早送り/巻戻しに従って変化します。

ボタンを押さえるのをやめても、再生は中断されたままです。中断したところから再生を再開する場合は、再生ボタンを押してください。

NOTE

巻き戻しの場合、位置を確認するために少し時間がかかります。

NOTE

早送り/巻戻しのスピードは、再生スピードの5倍の速さです。

(5)再生テンポの変更

再生するソングのテンポを変えることができます。

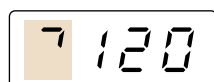
シフトボタンを押しながら、テンポ+またはテンポ-を押します。

1回押すごとに少しずつ変化していきませんが、ピッチが変わるわけではありません。

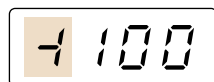
テンポ+を押すとテンポが速くなり、テンポ-を押すとテンポが遅くなります。

(MDRによる再生の場合は、エレクトーンのリズムセクションのテンポボタンではコントロールできません。)

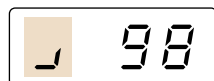
オリジナルのテンポに戻すには、シフトボタンを押しながら、+と-両方のテンポボタンを同時に押します。



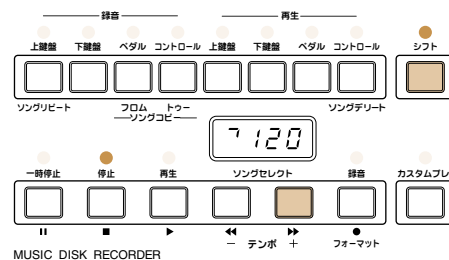
テンポを速くした場合



オリジナルテンポ

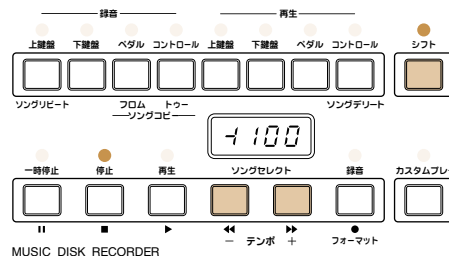


テンポを遅くした場合



NOTE

テンポが変わったら、その変化の程度がMDRのデジタルディスプレイにパーセントで表示されます。オリジナルのテンポは100(パーセント)で表示され、100より大きい数値の場合はテンポが速くなったことを、100より小さな数値の場合はテンポが遅くなったことを表します。



NOTE

1つのソングでテンポの変更をした場合、ほかのソングナンバーのソングも変更したテンポになります。テンポを変えた場合は、ほかのソングに移る前に必ずテンポの設定を元の位置(100)に戻してください。エレクトーンの電源を切るか、ディスクを入れなおすと、元の状態に戻ります。

(6)ソングコピー

1つのソングナンバーのデータを、別のソングナンバーにコピーする機能です。1つのディスク内でも、異なったディスク間でもコピーすることができます。

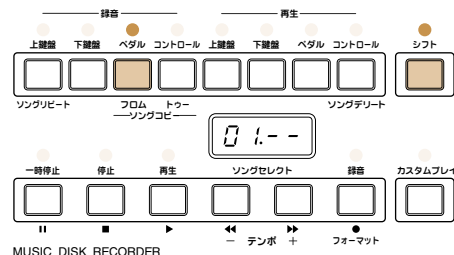
同一ディスク内でソングコピーをするには

- 1 コピーしたいソングナンバーを選択します。
- 2 シフトボタンを押しながら、ソングコピー：フロムボタンを押します。コピーしたいソングナンバーが、デジタルディスプレイの左側に表示されます。
- 3 コピー先のソングナンバーを指定するために、シフトボタンを押しながら、ソングコピー：トゥーボタンを押します。MDRは、自動的にコピー先のソングナンバー(未使用のソングナンバー)を探し出し、そのナンバーをデジタルディスプレイの右側に表示します。録音ボタンの上のランプが点滅を始め、ソングコピーが待機状態になったことを示します。もし、すべてのソングナンバーがすでに使用されている場合は、デジタルディスプレイに"FULL"(フル)と表示されます。この場合には、コピーを中止するか、ソングデリート機能で不要なソングナンバーのデータを削除してから、もう一度実行してください。(ソングデリート機能については、101ページをご参照ください。)
- 4 表示されたナンバーではなく、別のソングナンバーにコピーしたい場合は、コピー先のソングナンバーをソングセレクトボタンで選択します。この場合、MDRでは未使用のソングナンバーしか選択できません。
- 5 コピー先の指定が終わったら、録音ボタンを押してソングコピーを行ないます。録音ボタンのランプが点滅から点灯状態に変わり、ソングコピーが開始されたことを表します。デジタルディスプレイ上にはコピーするソングの(データ)サイズが数値で表示され、コピーが進むにつれて数値が減少していき、最後に"000"が表示されてコピーが終了します。



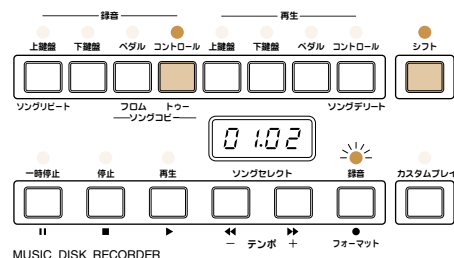
NOTE

ソングコピーができるのはエレクトーンのデータだけです。XGソングデータではできません。



NOTE

選択したソングナンバーにデータが入っていない場合は、MDRは自動的に次のデータが入っているソングナンバーを選び出して表示します。



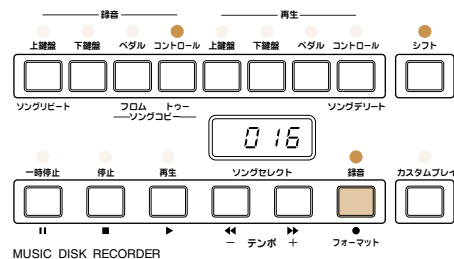
NOTE

空きメモリーが足りなくなった場合も、"FULL"と表示されます。



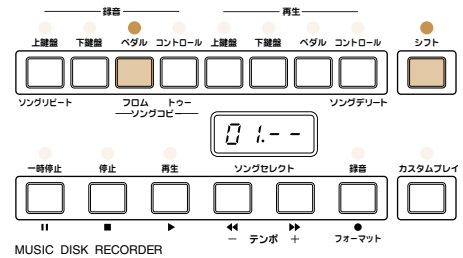
NOTE

コピーを中止したい場合は、停止ボタンを押します。



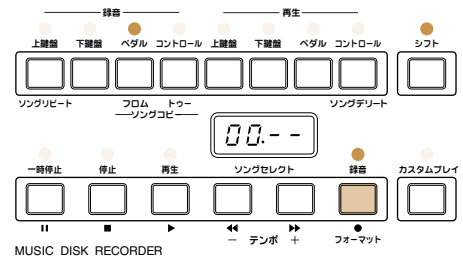
異なったディスク間でソングコピーをするには

- 1 コピー元のソングが入っているディスクをディスク挿入口に差し込みます。
- 2 シフトボタンを押しながら、ソングコピー：フロムボタンを押します。コピーするソングナンバーが、デジタルディスプレイの左側に表示されます。
- 3 コピーしたいソングナンバーを選択します。
- 4 録音ボタンを押します。デジタルディスプレイは右のように"00.-"で点灯します。また録音ボタンのランプは点灯したままになります。
- 5 イジェクトボタンを押して、コピー元のディスクを抜きます。
- 6 コピー先のディスクをディスク挿入口に差し込みます。
- 7 シフトボタンを押しながら、ソングコピー：トゥーボタンを押します。デジタルディスプレイの右側に、コピー先のディスクのソングナンバーが表示されます。MDRは自動的にコピー先の未使用のソングナンバーを探し出し、表示します。
- 8 コピーしたいソングナンバーを選択します。
- 9 録音ボタンを押します。デジタルディスプレイにはコピーするソングの(データ)サイズが数値で表示され、コピーが進むにつれて数値が減少します。最後に"0000"が表示されて、コピーが終了します。



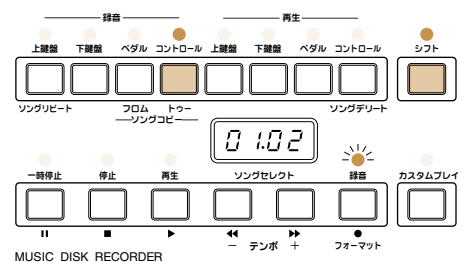
NOTE

この場合、LCDディスプレイのデータコントロールボタンを使ってソングナンバーを選択することもできます。



NOTE

このとき、録音ボタンのランプは点灯したままです。通常、録音ボタンのランプが点灯中はディスクを抜いたりしてはいけませんが、ここでは抜いても問題ありません。



NOTE

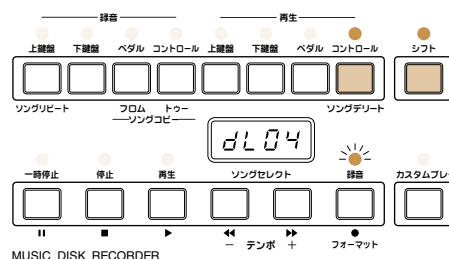
コピー元のソングと区別するために、コピーしたソングのネームの最後には * がつきます。

(7)ソングデリート

1つのソングナンバーに入っているデータをデリート(削除)する機能です。

- 1 まずデリートしたいソングナンバーを選択します。
- 2 シフトボタンを押しながら、ソングデリートボタンを押します。
デジタルディスプレイのソングナンバー表示の左側に"d L"(DELETE:デリート)が表示され、録音ボタンのランプが点滅を始め、デリートが待機状態になったことを表します。
もし、この時点でデリートしたいソングナンバーを変更したい場合は、ソングセレクトボタンを使って変更することができます。

- 3 録音ボタンを押して、デリートを実行します。
録音ボタンが点滅から点灯の状態に変わり、ソングデリートが実行されます。



NOTE

デリートを中止したい場合は、停止ボタンを押してください。



NOTE

XGソングはデリートすることはできません。

(8)ディスクコピー

1つのディスクの内容を別のディスクにコピーすることができます。フロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータはバックアップとして予備のディスクに保存しておかれることをおすすめします。

- 1 コピー元のディスクと、コピー先にするフォーマット済みのディスクを用意します。

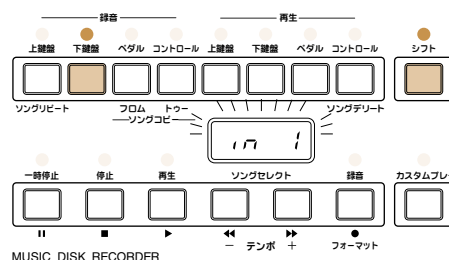
- 2 シフトボタンを押しながら、録音パート側の下鍵盤を押します。
デジタルディスプレイに"ln 1"(Insert Disk 1: インサートディスク1)が表示され、ディスクコピー機能が待機状態になったことを示します。



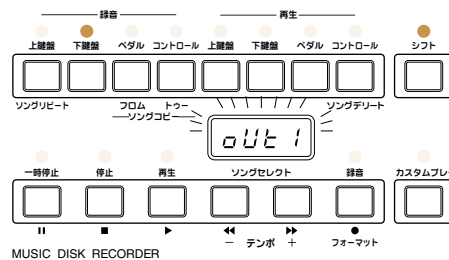
コピー元とコピー先のディスクは同じタイプのものである必要があります。コピー元が2DDであれば、コピー先も2DDを用意してください。



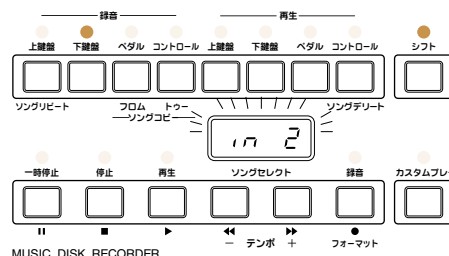
コピー元のディスクはライトプロテクト(83ページ)をオンしておきます。ライトプロテクトをオフにしたままでコピー元のディスクを入れると、"Prot"が点滅し、プロテクトをオンにするよう促します。また、逆に、コピー先のディスクはライトプロテクトをオフしておきます。ライトプロテクトがオンになったままでコピー先のディスクをMDRに挿入すると、デジタルディスプレイに"Prot"(Protect: プロテクト)が表示されます。コピープロテクト(104ページ)のかかったディスクには、コピーできません。



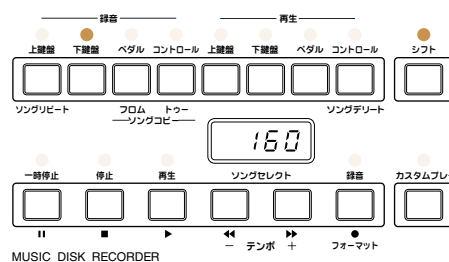
- 3 コピー元のディスクを挿入します。
MDRがコピー元ディスクの読み取りを行いません。
"oUt 1"(アウトディスク1)が表示されます。



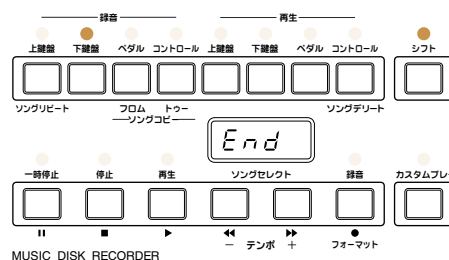
- 4 イジェクトボタンを押してコピー元ディスクを取り出します。
デジタルディスプレイに"ln 2"(Insert Disk 2 : インサートディスク2)が表示され、コピー先ディスクを挿入するように促します。



- 5 コピー先ディスクを挿入します。
数字の160がデジタルディスプレイに表示され、コピーの進行に伴って数字が減少していきます。



コピーが終了すると、デジタルディスプレイに"End"が2~3秒表示されます。



NOTE

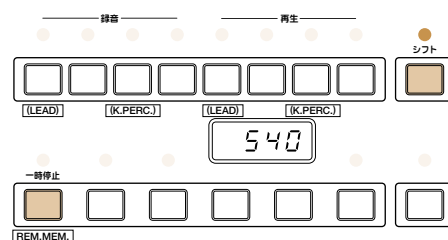
ディスクのコピー中にエラーが発生すると、デジタルディスプレイに"Fort"または"bAd"が表示されます。コピー先のディスクをフォーマットし直して、もう一度ディスクコピーを実行してください。



ディスクコピーの途中に、MDRの指示以外にディスクを抜き差ししないでください。ディスクがこわれるだけでなく、MDRが故障する原因になります。

(9) メモリー残量の確認

シフトボタンを押しながら、一時停止ボタンを押すと、フロッピーディスクのメモリー残量の確認をすることができます。
デジタルディスプレイ上にメモリーの残量が数字で表示されます。
メモリー容量は、2DDディスクで約700、2HDディスクで約1400です。



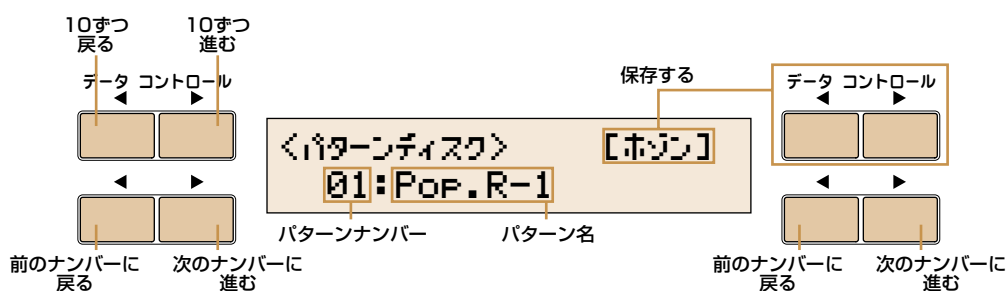
(10) リズムパターンディスク

MDRでは、別売のリズムパターンディスクを使ってリズムを拡張することができます。

パターンディスクのパターンを読み込むには

- 1 ミュージックディスクレコーダー(MDR)に、パターンディスクを挿入します。
LCDディスプレイ上に、パターンディスクのパターンナンバーと名称が表示されます。

- 2 データコントロールボタンを使って、読み込みたいパターンを選択します。

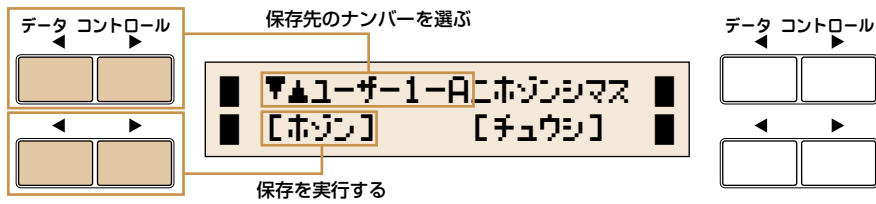


NOTE

各パターンについては、パターンディスクに付属のパターンリストをご参照ください。

- 3 リズムをスタートさせて、読み込むパターンをチェックします。

- 4 読み込みたいパターンが決まったら、[ホゾン]を選択します。
次の画面が表示されます。



- 5 左上のデータコントロールボタンを使って、保存先のユーザーナンバーを選びます。

- 6 [ホゾン]を選択します。
保存が実行され、選んだパターンが保存先のユーザーナンバーに読み込まれます。最初の画面(パターン選択)に戻ります。



NOTE

[チュウシ]を選択すると作業を中止し、元の画面に戻ります。



NOTE

保存したユーザーパターンを選択する方法については59ページをご参照ください。

(11)コピープロテクト

市販のエレクトーン用ディスクには、著作権保護や誤消去防止のために、コピープロテクトがかかっているものがあります。ほかのディスクに、このディスクのデータをセーブすることはできません。
コピープロテクトされたディスクをMDRに挿入すると、デジタルディスプレイに"PrXX"という表示が現れます。
XXはソングナンバー(01~40)です。

デジタルディスプレイ上のその他のメッセージ

LED 画面	メッセージの意味
<i>Inst</i>	ディスクが挿入されていないので、ディスクを挿入してください。
<i>Prot</i>	(1)挿入したディスクのライトプロテクトタブが、オンの状態になっています。ライトプロテクトタブを、オフにしてください。 (2)コピープロテクトされた再生専用ディスクである場合に、録音やコピーやデリートを実行しようとする则表示されます。作業を中止してください。 (3)ディスクコピーの場合、コピー元のディスクのプロテクトをオンにしてください。
<i>Formt</i>	ディスクがフォーマットされていないので、フォーマットしてください。
<i>FULL</i>	(1)メモリー残量が無いので、録音やコピーができません。別のディスクを使用するか、不要なソングデータを削除してください。 (2)すべてのソングナンバーに、データが入っています。(1)と同様に対処してください。
<i>Empty</i>	すべてのソングナンバーにデータが入っていないので、ソングコピーができません。停止ボタンを押して、操作を中止してください。
<i>Abort</i>	録音/再生中にフロッピーディスクを取り出したため、エラーが発生しました。停止ボタンを押して操作を中断し、ディスクを入れなおしたあと、最初から操作をやりなおしてください。
<i>disc</i>	異なったディスクが挿入されました。正しいディスクを入れなおしてください。
<i>lots</i>	一度にあまりに多くのデータを受けたため、録音できませんでした。停止ボタンを押してから、もう一度録音してください。
<i>bad</i>	ディスク不良のため、使用できません。別のディスクをご使用ください。
<i>Error</i>	データの受信/通信中にエラーが発生しました。停止ボタンを押してもう一度始めから操作してください。
<i>--XX</i>	既にデータが録音されているソングナンバーに録音しようとしています。停止ボタンを押して録音を中止して、他のソングナンバーを選びなおしてください。 XXはソングナンバー(01 ~ 40)です。
<i>PrXX</i>	コピープロテクトされたディスクをMDRに挿入すると、表示されます。保存したり、書き込んだりすることはできません。 XXはソングナンバー(01 ~ 40)です。
<i>oooo</i>	パターンディスク、レジストレーションメニューディスクの場合、互換性の無いディスクが挿入されたことを表します。正しいディスクを入れなおしてください。
<i>_XX*</i>	XGソングファイルのとき、ソングナンバーの前にアンダーバーが表示されます。 *XXはソングナンバー(01 ~ 40)です。
<i>2hd</i> (または <i>2dd</i>)	ディスクコピーのとき、異なったタイプのディスクを入れる则表示されます。コピー元とコピー先のディスクは同じタイプをご使用ください。

フットスイッチ/ エクスプレッションペダル

FOOTSWITCH AND EXPRESSION PEDAL

フットスイッチやエクスプレッションペダルを使用すると、演奏中に演奏を妨げずに、いろいろなエフェクトや機能をオン/オフすることができます。

1 フットスイッチ

EL-100には、エクスプレッションペダルの左右にひとつずつフットスイッチがあります。右フットスイッチは、レジストレーションシフトをコントロールすることができます。(右フットスイッチの設定については、レジストレーションシフト=78ページをご参照ください。)

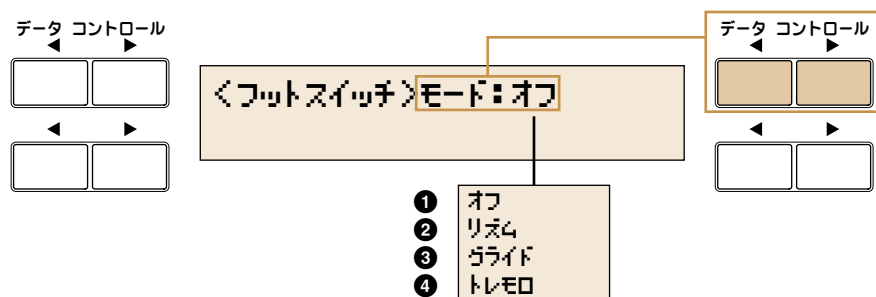
左フットスイッチは、グライド、トレモロ、そしてリズムのコントロールに使用します。左フットスイッチの設定は、LCDディスプレイのフットスイッチ画面で行ないます。

ディスプレイセレクトセクションのフットスイッチボタンを押します。



LCDディスプレイに以下の画面が表示されます。

フットスイッチ画面

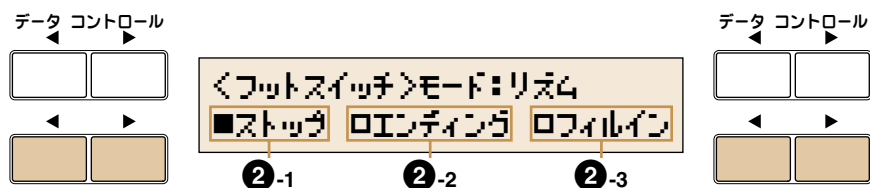


① オフ

オフに設定すると左フットスイッチを押しても、何も効果がかかりません。

② リズム

左フットスイッチにリズムのコントロールをアサインします。リズムを選択すると、LCDディスプレイの下段にリズムコントロールの種類が表示されます。



②-1 ストップ

パネルのスタートボタンを押さずに、フットスイッチでリズム(シーケンス)をスタート/ストップさせることができます。

②-2 エンディング

この機能を選択し、演奏中にフットスイッチを押すと、エンディングが入り、リズムがストップします。

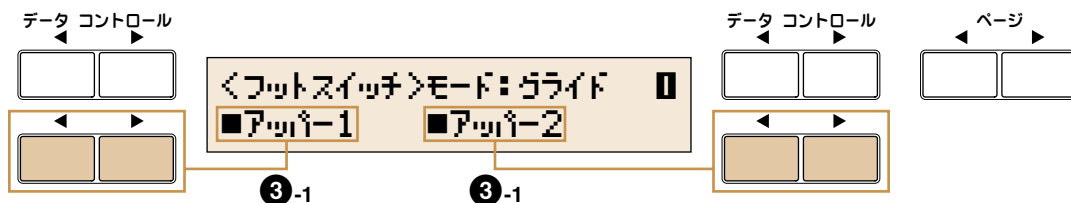
②-3 フィルイン

この機能を選択すると、演奏中に、フットスイッチでリズムにフィルインをかけることができます。

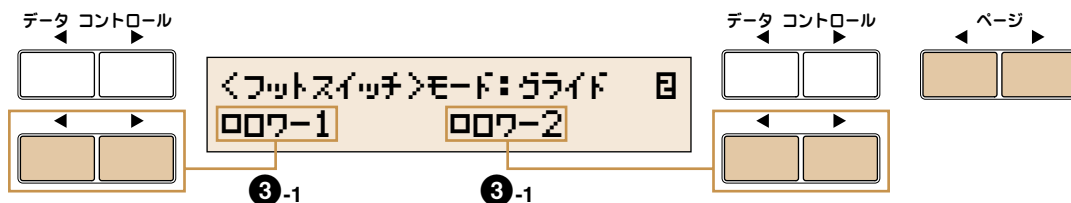
③ グライド

左フットスイッチでグライド効果をコントロールします。フットスイッチを押すと、上鍵盤/下鍵盤の音群ごとに音色のピッチを半音下げます。フットスイッチから足を離すと、ゆるやかに元の音程に戻ります。グライドを選択すると、LCDディスプレイの下段にグライドをアサインする音群の種類が表示されます。また、右上にページ番号が表示されます。グライドの画面は3ページで構成されています。

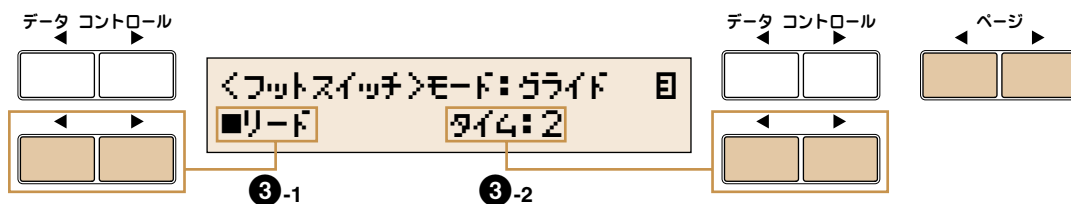
フットスイッチ画面(グライド1ページ目)



フットスイッチ画面(グライド2ページ目)



フットスイッチ画面(グライド3ページ目)



③-1 アッパー1/2、ロー1/2、リード

グライドをかけたい音群を選択します。

アッパー1：上鍵盤ボイス アッパー2：上鍵盤ボイス2

ロー1：下鍵盤ボイス ロー2：下鍵盤ボイス2

リード：リードボイス



NOTE

グライドをかけている間は、ビブラートはかかりません。

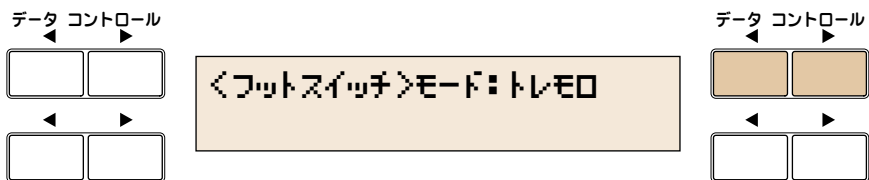
③-2 タイム

グライドをかけた時、音程が戻る速さを設定します。高い設定にするほど、音程の戻りは遅くなります。

設定範囲：1～5

④ トレモロ

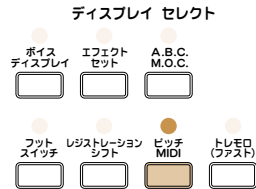
左フットスイッチで、トレモロ/コーラスの切り替えをコントロールします。このコントロール機能は、パネル上のディスプレイセレクトセクションのトレモロ(ファスト)ボタンと同じ働きをします。(この機能を使うためには、あらかじめ、それぞれの音群で、トレモロが正しく設定されている必要があります。詳しくは、51ページをご参照ください。)



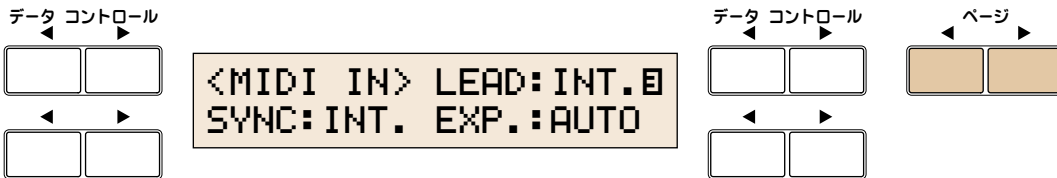
2 エクスプレッションペダル

エクスプレッションペダルは、演奏中に音の強弱をコントロールするために使いますが(13ページ)、機能のさせかたを選ぶことができます。

- 1 ディスプレイセレクトセクションのピッチ/MIDIボタンを押します。
LCDディスプレイには、最初のページであるトランスポーズ/ピッチ画面が表示されます。

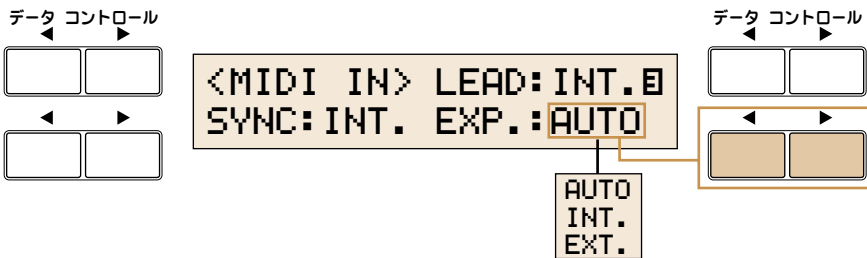


- 2 ディスプレイ右横のページボタンを使って、3ページ目を選択します。
LCDディスプレイ上にはMIDI IN画面が表示されます。



EXP.(エクスプレッション)

エクスプレッションペダル機能をコントロールします。



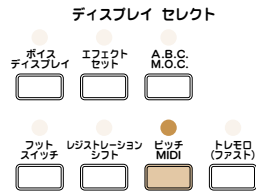
通常はAUTO(オート)の設定です。

INT.を選択すると、MDRの再生中やMIDIの再生中に、エクスプレッションペダルを使って音量を調整することができます。

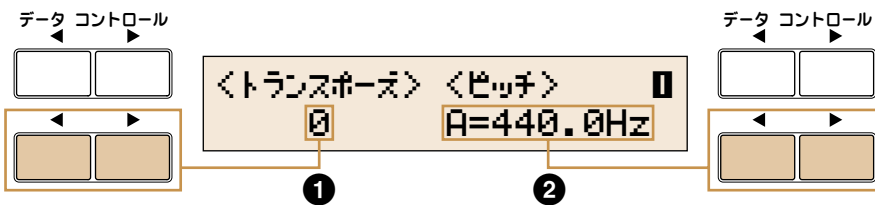
EXT.を選択すると、ほかのエレクトーンのエクスプレッションペダルで音量をコントロールすることができます。

トランスポーズを使って移調したり、ピッチコントロールを使って音程を細かく調整したりすることができます。

- ディスプレイセレクトセクションのピッチ/MIDIボタンを押します。LCDディスプレイには、最初のページであるトランスポーズ/ピッチ画面が表示されます。



トランスポーズ/ピッチ画面



① トランスポーズ

1オクターブの範囲で、半音ずつ移調することができます。
設定範囲：-6 ~ +6

② ピッチ

ピッチを微調整できます。変化幅は、半音の約4分の1程度です。
設定範囲：438.8Hz~444.5Hz



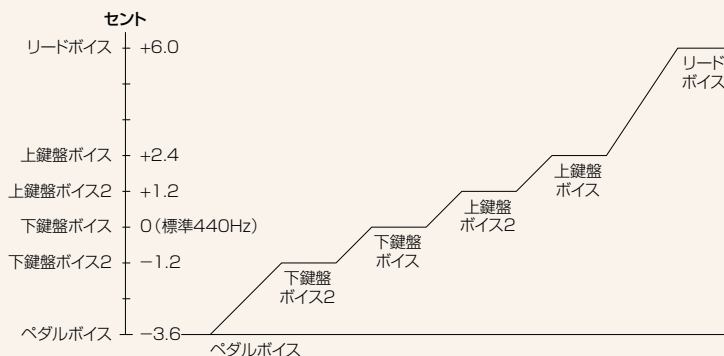
ピッチの初期設定の440.0Hzは、A3の音の周波数です。



ピッチ情報は、MDRで記録することはできません。

ピッチについて

各ボイスは平均律で調整されています。



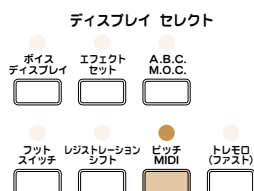
他の楽器とピッチを合わせる場合は、下鍵盤のクラリネットなどを使用します。

MIDIコントロール機能を使って、外部機器をコントロールしたり、または、外部機器でエレキトーンをコントロールしたりすることができます。

あらかじめ、MIDIケーブルでEL-100と外部MIDI機器を接続します。接続については、114ページをご参照ください。

MIDI機能を使用するには

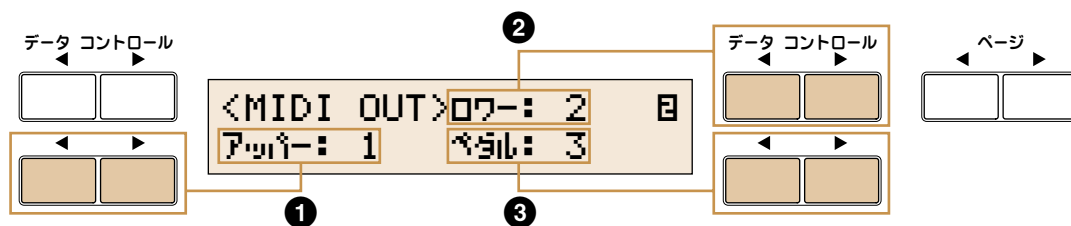
- 1 ディスプレイセレクトセクションのピッチ/MIDIボタンを押します。



LCDディスプレイには、最初のページであるトランスポーズ/ピッチ画面が表示されます。2ページ目と3ページ目がMIDIに関するページです。

- 2 ページボタンを使って、2ページ目のMIDI OUT画面や3ページ目のMIDI IN画面を選択します。

MIDI OUT画面



MIDIの送信チャンネルを変えることができます。アッパー(上鍵盤)、ロワー(下鍵盤)、ペダル鍵盤ごとにそれぞれチャンネル1～16のいずれかのチャンネルを設定することができます。ここで設定したチャンネルで各鍵盤の演奏情報を送信することができます。

① アッパー

上鍵盤の送信チャンネルをチャンネル1～16の中から設定します。

② ロワー

下鍵盤の送信チャンネルをチャンネル1～16の中から設定します。

③ ペダル

ペダル鍵盤の送信チャンネルをチャンネル1～16の中から設定します。

外部MIDI機器の受信チャンネルは、各鍵盤に設定したチャンネルに合わせてください。

受信の場合

ほかのMIDI機器を演奏してエレクトーンを鳴らすときは、接続するMIDI機器の送信チャンネルをエレクトーンを受信チャンネルに合わせてください。

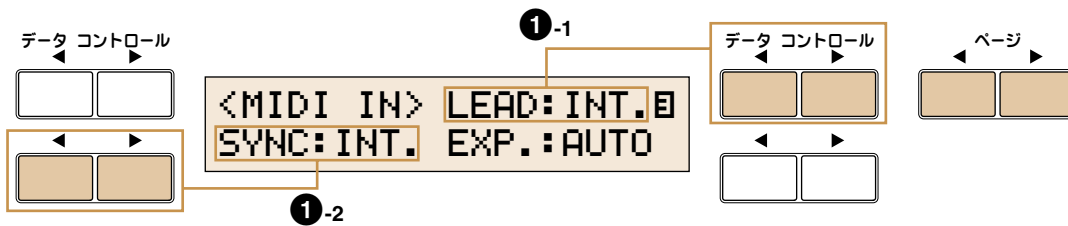
エレクトーンを受信チャンネルは、以下のチャンネルに固定されています：

アッパー(上鍵盤)=1

ロー(下鍵盤)=2

ペダル鍵盤=3

MIDI IN画面



① インターナル/エクスターナル切り替え

表示された各項目のコントロールをエレクトーン(INT.)で行なうか、外部機器(EXT.)で行なうかの切り替えです。

①-1 LEAD(リード)

通常はINT.(インターナル)の設定で、上鍵盤の情報としてエレクトーンで発音されますが(トゥーローの場合は下鍵盤の情報として)、EXT.(エクスターナル)を選択すると、LEAD(リード)ボイスはMIDIチャンネル4の外部MIDI機器の演奏情報を受けて発音します。

①-2 SYNC.(シンクロ)

リズムを同期させるためのタイミング決定を、どの機器で行なうかを設定します。通常はINT.の設定で、エレクトーン内部のタイミング信号が外部機器のリズムをコントロールします。エレクトーンのリズムスタートボタンで、外部の接続機器をスタートさせることができます。

EXT.を選択すると、接続した外部機器からのタイミング信号でEL-100のリズムがコントロールされます。

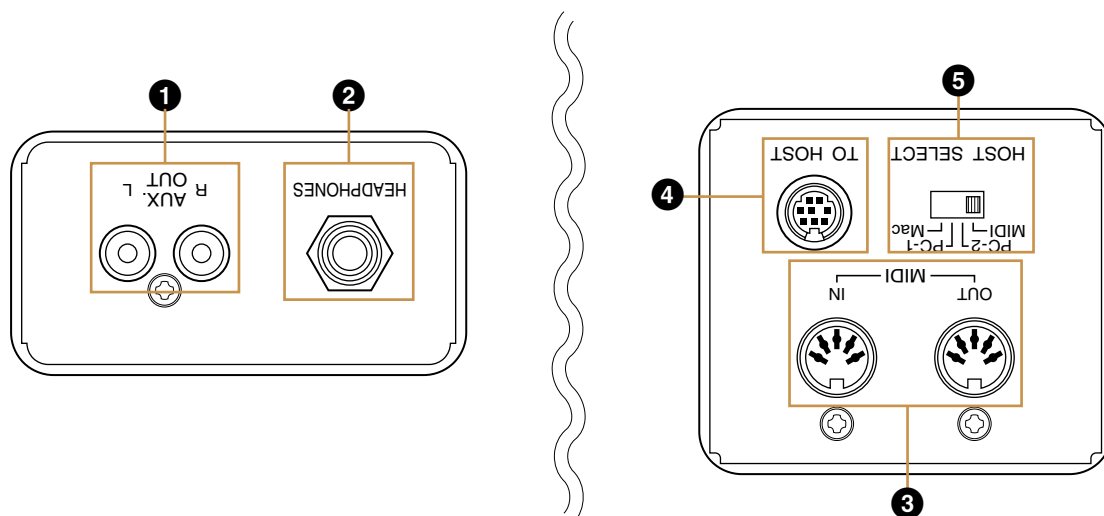


アカンパニメントパターンをMIDIでコントロールすることはできません。



LCDディスプレイの右下にあるEXP.(エクスプレッション)については、109ページをご参照ください。

EL-100にはいろいろな入/出力端子があります。鍵盤の下側の左側には出力端子が、右側にはMIDI端子があります。



① AUX. OUT(ライン出力端子 : RCAピン L/R)

エレキトーンの音声信号をステレオなどにステレオ出力する端子です。

② HEADPHONES(ヘッドフォン端子)

ヘッドフォン専用の接続端子です。

③ MIDI端子

他のMIDI(Musical Instrument Digital Interface)規格の機器とデータのやり取りをしたり、EL-100でその機器をコントロールする場合に使用します。専用のMIDIケーブルが必要です(115ページ)。

④ TO HOST(トゥーホスト)端子

コンピューターのシリアルポートと、直接、MIDI接続することができます。



NOTE

TO HOST端子を使ったコンピューターとの接続については、次ページをご参照ください。

⑤ HOST SELECT(ホストセレクト)

MIDIケーブルを使用してコンピューターと接続する場合は、MIDIを選び、TO HOST端子を使ってコンピューターと接続する場合は、コンピューターの種類に合わせてPC-2、PC-1、Macのいずれかを選びます。(114ページ)

MIDIについて

EL-100の鍵盤の右下には、MIDI(ミディ)端子やTO HOST(トゥーホスト)端子が付いています。

MIDI(ミディ)とはMusical Instrument Digital Interfaceの略で、電子楽器同士をつないで音楽情報や演奏データの交換をするための世界共通の規格です。たとえばEL-100をXG音源として使用したり、EL-100の上鍵盤で演奏したメロディを別のシンセサイザーで発音させたり、EL-100のリズムをスタートさせて、リズムマシンやコンピューターを同じテンポで演奏したりすることもできます。

MIDI(ミディ)機能を使用するためには、データのやり取りをするためのMIDI機器と接続するためのMIDIケーブルが必要です。MIDI端子の代わりに、TO HOST端子を使ってコンピューターと接続する場合は、シリアルケーブルが必要です。

また、MIDI機器間でデータのやり取りを行なうためには、両方のMIDI機器の送信/受信チャンネルを合わせる必要があります。ただし、EL-100の受信チャンネルはほぼ固定になっています。したがって、外部MIDI機器でEL-100をMIDIコントロールする場合は、外部MIDI機器のチャンネルをEL-100に合わせることになります。なお、EL-100の送信チャンネルは、鍵盤ごとにチャンネル1~16の中から設定することができます。MIDIチャンネルの設定については111ページをご参照ください。



NOTE

MIDIメッセージについては、116ページをご参照ください。

MIDIの接続

TO HOST端子を使った接続例

EL-100のTO HOST端子とコンピューターのシリアルポートを、シリアルケーブルを使って図のように接続します。また、お使いのコンピューターの種類に合わせて、HOST SELECTを切り替えます。

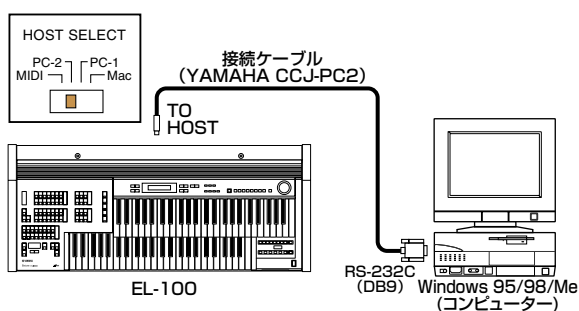
この接続で、MIDI IN/OUT端子を使用しなくてもEL-100とコンピューター間で直接MIDI信号を送受信することができます。



NOTE

TO HOST端子を使用する場合は、MIDI端子は使用できません。

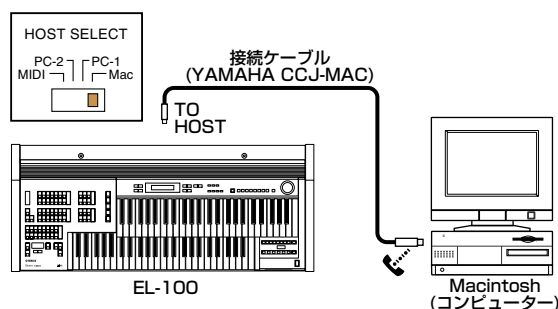
Windows 95/98/Meをご使用の場合



NOTE

DOS/Vシリーズを使って、この接続で実際にMIDI信号をやり取りするためには、お使いのコンピューターに合ったMIDIドライバーが必要になります。MIDIドライバーについては、インターネットのヤマハXGホームページ<<http://www.yamaha.co.jp/xg/>>でダウンロードして、直接入手することもできます。

Macintoshをご使用の場合



NOTE

PC-9801、PC-9821シリーズなどでWindows3.1以前のバージョンをご使用の場合は、HOST SELECTをPC-1にセットしてご利用ください。

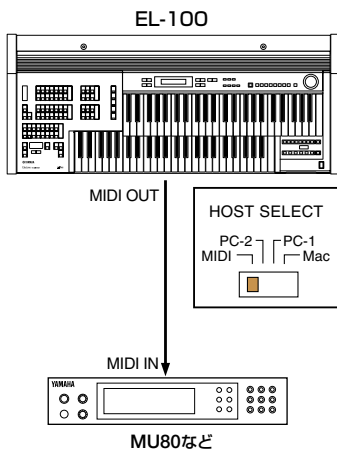


NOTE

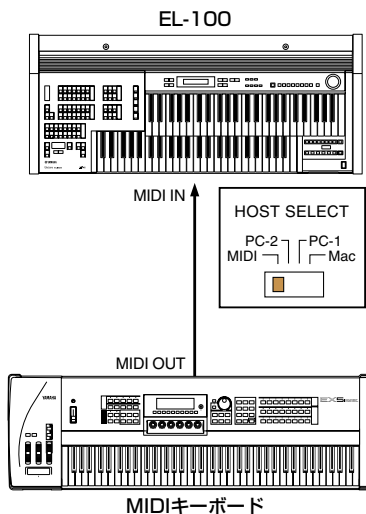
USB端子のみのコンピューターとの接続はUSBインターフェースが必要になります。

MIDI端子を使った接続例

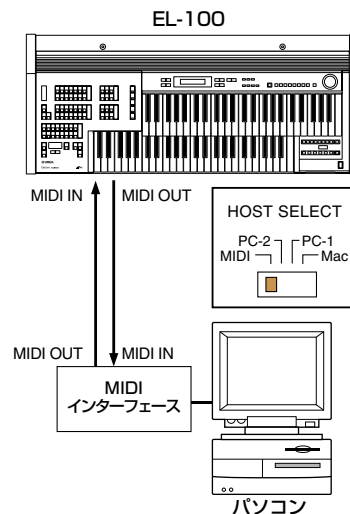
EL-100側から外部MIDI機器をコントロール



外部MIDI機器側からEL-100をコントロール



EL-100とコンピューター間でMIDIをやりとり



1 EL-100側から外部MIDI機器をコントロールする

MIDIキーボードまたはMIDI音源を接続した場合

- EL-100を演奏すると、接続先の機器もその機器の音色で同時に鳴らすことができます。音に厚みを出すときなど便利です。(→ただし、外部MIDI機器の受信チャンネルがEL-100の送信チャンネルと一致している必要があります。)
- この他にもいろいろな演奏の動作や状態を「メッセージ」と呼ばれるデジタルデータ(数値に置き換えたデータ)として送信することができます。接続先がメッセージを受けてどう対応するかは、接続先のMIDI機能によって決まります。
- EL-100の演奏をコンピューター(シーケンサー)に記録することができます。(→お使いのコンピューターにあったシーケンスソフトが必要になります。)

2 外部MIDI機器側からEL-100をコントロールする

MIDIキーボードに接続した場合

- 外部のMIDIキーボードで演奏すると、EL-100もEL-100の音色で同時に鳴らすことができます。(→ただし、外部MIDI機器の送信チャンネルがEL-100の受信チャンネルと一致している必要があります。1チャンネルの場合は上鍵盤が、2チャンネルの場合は下鍵盤が、3チャンネルの場合はペダル鍵盤が指定した音域で演奏されます。)
- 外部MIDIキーボードの演奏により、EL-100をキーボードパーカッションの音で鳴らすことができます。(→ただし、外部MIDI機器の送信チャンネルが15チャンネルである必要があります。)
- コンピューター(シーケンサー)で再生したMIDIデータをEL-100の音色で鳴らすことができます。EL-100は、XG音源として使用することができますから、コンピューターを使った音楽制作にも便利です。XG音源として使用する方法については、119ページをご参照ください。



NOTE

(内蔵の)MDRを同時に使用することはできません。

EL-100のMIDI機能

MIDIのメッセージはチャンネルメッセージとシステムメッセージの2つに大別することができます。チャンネルメッセージは、おもに鍵盤で弾いたノート(音符)や演奏表現(エクスプレッションペダルやボリュームなど)に関するデータで、特定のMIDIチャンネルごとにそれらの情報を送受信することができます。また、システムメッセージは、複数の楽器をリンクさせて1つのMIDIシステムとして機能させるために使われるデータです。ここでは、EL-100でも扱うことができるいくつかのMIDI情報をご紹介します。

チャンネルメッセージ

キー情報

演奏に関わる最も重要な情報で、EL-100の鍵盤を弾いたときにこれらのメッセージが送信されます。また、他のキーボードやシーケンサーなどからこれらの情報を送信してEL-100を演奏させることができます。

ノートオン： このキーを押した、ということを示す情報です。弾いた音の高さを表すために半音ごとに割り当てられた0~127のノートナンバーが内部的には用いられています。演奏時にノートナンバーを意識する必要はありませんが、EL-100のC3の鍵盤を弾いたときにノートナンバー60が送信されるようになっています。

ベロシティ： 鍵盤を弾いたときのタッチの強弱を示す情報です。

ノートオフ： 鍵盤を離れた、ということを示す情報です。

EL-100のキー情報や上鍵盤、下鍵盤に対応するノートナンバーについてはMIDIインプリメンテーションチャート(129ページ)やMIDIデータフォーマット(120ページ)をご参照ください。

プログラムチェンジ

音色を切り替えるための情報です。コンピューターやシーケンサーなどからこれらのメッセージを送信して、EL-100のレジストレーションを切り替えることができます。

コントロールチェンジ

エクスプレッションペダルなどの操作を伝えたり、エフェクトやボリュームなど、演奏表現を高めるために使われる情報です。各機能はコントロールナンバーによって区別され、それぞれのコントロール値を一般的に0~127の可変範囲で送信することができます。



EL-100のレジストレーションとプログラムチェンジナンバーの対応についてはMIDIインプリメンテーションチャート(129ページ)やMIDIデータフォーマット(120ページ)をご参照ください。



EL-100で扱えるコントロールチェンジについてはMIDIインプリメンテーションチャート(129ページ)やMIDIデータフォーマット(120ページ)をご参照ください。

システムメッセージ

システムエクスクルーシブメッセージ

エクスクルーシブメッセージとは、おもに機器固有のシステムや音色関係のデータをやり取りするために使われる情報です。EL-100では、エクスクルーシブメッセージを使って、レジストレーションデータをバルクダンプ(まとめて送受信)することにより、それらのデータをパソコンを使って管理することができます。いろいろなソング用に作ったレジストレーションデータを複数のファイルとして、ハードディスクなどの大容量のメディア上に保存しておき、必要に応じてパソコンからEL-100上に送信することができます。

レジストレーションデータの送受信例

それでは、以下の例を使ってレジストレーションデータを実際に送受信してみましょう。

この例では、まずシステムエクスクルーシブメッセージを使って、EL-100のレジストレーションデータを一度にすべてパソコン(シーケンサー)に送信する操作を行ないます。

シリアルケーブル(またはMIDI専用ケーブル)を使って、パソコン(シーケンサー)とEL-100をMIDI接続します。(114ページをご参照ください。)



お使いのパソコンに対応したMIDIインターフェース、エクスクルーシブメッセージの送受信に対応しているシーケンスソフトが必要となります。

レジストレーションデータをEL-100からパソコンへ送信する

前準備(レジストレーションの登録)

- 1 はじめにEL-100本体で、上鍵盤を弾いたときにストリングスの音が出るようにセットしておきます。
上鍵盤ボイスのストリングスボタンを押したあと、LCDディスプレイに表示されたストリングス1を選択してください。
- 2 この状態をレジストレーションボタン1に登録します。
M./TO DISK(メモリー)ボタンを押しながらナンバーボタンの1を押します。
その他のレジストレーションボタンの内容は、この例では意識する必要はありません。好きなパネル状態を登録してください。

レジストレーションデータの送信

- 3 パソコン(シーケンサー)からシステムエクスクルーシブメッセージを使って、全RAM送信要求データ"FO,43,70,70,10,F7"(16進)を送信します。
EL-100が全RAM送信要求データを受信すると、すべてのレジストレーションボタンに登録されているデータを自動的にパソコン側に送信します。
パソコンで受信したレジストレーションデータを1つのファイルとして保存します。パソコンを使って自由に管理することができます。



シーケンサーの容量によっては、レジストレーションを分けて送信する必要があります。分けて送信する場合(123ページ)送信要求コードをご参照ください。
たとえば
FO,43,70,70,10,F7
を
FO,43,70,70,17,F7
に変えると、キーボードパーカッションアサインのデータを送信します。

レジストレーションデータをパソコンからEL-100へ送信し、 レジストレーションボタンを切り替える

先ほどの操作で保存したファイルをパソコンからEL-100に送信する操作を行いません。また、レジストレーションボタンを選択し、上鍵盤の音をリモートコントロールで鳴らしてみます。

レジストレーションデータの受信

1 パソコン(シーケンサー)からシステムエクスクルーシブメッセージを使って、全RAM受信要求データ"F0,43,70,70,20,F7"(16進)を送信し、続いて先ほどファイルとして保存したレジストレーションデータを送信します。

EL-100は全RAM受信要求データを受信したあと、エクスクルーシブメッセージが受信できる状態になります。その後、送られてくるすべてのレジストレーションデータを受信し、各レジストレーションボタンにセットします。この操作で、パソコンで管理しているレジストレーションデータをEL-100に戻すことができます。

レジストレーションボタンの選択

パソコンからプログラムチェンジを送信することにより、EL-100のレジストレーションボタンを切り替えることができます。

2 パソコンからプログラムチェンジ"CF,00"(16進)をEL-100に送信します。
EL-100はプログラムチェンジを受信し、自動的にレジストレーションボタンの[1] が選択されたときと同じパネル状態になります。

ノートオンの送信

3 パソコンからノートオン"90,30,7F"(16進)をEL-100に送信します。
EL-100はノートオンを受信し、上鍵盤C2の音程を鳴らします。前準備(レジストレーションの登録)でセットしておいた、ストリングスのボイスで発音します。
続いてノートオフ"90,30,00"(16進)をEL-100に送信します。

レジストレーションデータの記録/再生はMDRを利用した方がより簡単にできますが、パソコンによる管理を行なう場合、ハードディスクを使用することによって、複数のフロッピーディスクのレジストレーションデータをまとめて保存しておくことができるメリットがあります。

EL-100をXG音源として使用する

EL-100はXG規格に対応していますので、コンピューターミュージック用の音源として活用することができます。外部シーケンサーを使ってオリジナルのXGデータを作成したり、XGデータを再生したりすることができます。

EL-100の音源部は、電源を入れたときには、いつもELモードと呼ばれるエレクトーン演奏用の状態にセットされています。

パソコン(シーケンサー)からレジストレーションデータをEL-100に送信するときと同じ要領で、システムエクスクルーシブメッセージをEL-100に送信し、音源部をXGモードと呼ばれる状態にセットすれば、XG音源としての利用が可能となります。

1 パソコン(シーケンサー)からシステムエクスクルーシブメッセージを使って、XGシステムオン"FO, 43, 1N, 4C, 00, 00, 7E, 00, F7"(16進数)を送信します。

*N=デバイスナンバー(EL-100では"0")

EL-100がXGシステムオンを受信すると、音源がXGモードにセットされ、NRPN、バンクセレクトなど、XGに定義されたすべてのMIDIメッセージを受信することができる状態になります。



EL-100のMDRを使って市販のXG曲集を再生したり、EL-100で録音した曲をXGデータに変換することもできます。XG曲集の再生や変換については95、96ページをご参照ください。



パソコン(シーケンサー)を使ってXGデータを作成する場合は、XGシステムオンのメッセージを曲データの最初に書き込んでおくとう便利です。つくったデータをパソコン(シーケンサー)でスタートさせるだけで、自動的にEL-100をXGモードに切り替えることができます。



市販のXG曲集の場合、曲頭にXGシステムオンのメッセージが書き込まれていますので、単純にXGデータを再生するだけで、EL-100は自動的にXGモードに切り替わります。

MIDIデータフォーマット

1. チャンネルメッセージ

1.1 E Lモード

コード	ファンクション	送信	受信	備考
8n.nn,00-7F	ノートオフ	×	1ch 2ch 3ch (4ch)* 5-14ch 15ch	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤 リード XG キーボードパーカッション
9n.nn,00 9n.nn,01-7F	ノートオフ ノートオン	(1ch)* (2ch)* (3ch)* × × ×	1ch 2ch 3ch (4ch)* 5-14ch 15ch	上鍵盤 下鍵盤 ペダル鍵盤(ノートオンの送信ベロシティ=50H) リード XG キーボードパーカッション
Bn.00.00-7F Bn.20.00-7F	バンクセレクト	×	5-14ch	XG
Bn.01.00-7F	モジュレーション	×	5-14ch	XG
Bn.04.00-7F	セカンドエクスプレッション	×	16ch (4ch)*	コントロール リード
Bn.05.00-7F	ポルタメントタイム	×	5-14ch	XG
Bn.06.00-7F Bn.26.00-7F	データエントリー	×	5-14ch	XG
Bn.07.00-7F	ボリューム	×	5-14ch	XG
Bn.0A.00-7F	パン	×	5-14ch	XG
Bn.0B.00-7F	エクスプレッション	16ch	16ch 5-14ch	コントロール XG
Bn.40.00-7F	ホールド	×	5-14ch	XG
Bn.41.00-7F	ポルタメント	×	5-14ch	XG
Bn.42.00-7F	ソステヌート	×	5-14ch	XG
Bn.43.00-7F	ソフトペダル	×	5-14ch	XG
Bn.47.00-7F	レゾナンス	×	5-14ch	XG
Bn.48.00-7F	リリースタイム	×	5-14ch	XG
Bn.49.00-7F	アタックタイム	×	5-14ch	XG
Bn.4A.00-7F	ブライテネス	×	5-14ch	XG
Bn.54.00-7F	ポルタメントコントロール	×	5-14ch	XG
Bn.5B.00-7F	リバーブセンドレベル	×	5-14ch	XG
Bn.5D.00-7F	コーラスセンドレベル	×	5-14ch	XG
Bn.5E.00-7F	パリエーションエフェクトセンドレベル	×	5-14ch	XG
Bn.60.00-7F Bn.61.00-7F	データインクリメント データデクリメント	×	5-14ch	XG
Bn.62.00-7F Bn.63.00-7F	NRPN LSB NRPN MSB	×	5-14ch	XG
Bn.64.00-7F Bn.65.00-7F	RPN LSB RPN MSB	×	5-14ch	XG
Bn.78.00 Bn.79.00 Bn.7B.00 Bn.7C.00 Bn.7D.00 Bn.7E.00 Bn.7F.00	オールサウンドオフ リセットオールコントローラ オールノートオフ オムニオフ オムニオン モノ ポリ	×	5-14ch	XG

コード	ファンクション	送信	受信	備考
Cn.nn	プログラムチェンジ	×	1ch	上鍵盤
		×	2ch	下鍵盤
		×	3ch	ペダル鍵盤
		×	5-14ch	XG
		16ch	16ch	コントロール
Dn.00-7F	アフタータッチ	×	5-14ch	XG
En.00-7F.00-7F	ピッチベンド	×	5-14ch	XG

*MIDI設定で変更。

1.2 XGモード

コード	ファンクション	送信	受信	備考
8n.nn.00-7F	ノートオフ	×	1-16ch	
9n.nn.00	ノートオフ	(1ch)		上鍵盤
9n.nn.01-7F	ノートオン	(2ch)* (3ch)*		下鍵盤
			1-16ch	ペダル鍵盤(ノートオンの送信ベロシティ=50H)
Bn.00.00-7F	バンクセレクト	×	1-16ch	
Bn.20.00-7F				
Bn.01.00-7F	モジュレーション	×	1-16ch	
Bn.04.00-7F	セカンドエクスプレッション	×	×	コントロール
		×	×	リード
Bn.05.00-7F	ポルタメントタイム	×	1-16ch	
Bn.06.00-7F	データエントリー	×	1-16ch	
Bn.26.00-7F				
Bn.07.00-7F	ボリューム	×	1-16ch	
Bn.0A.00-7F	パン	×	1-16ch	
Bn.0B.00-7F	エクスプレッション	16ch	1-16ch	コントロール
Bn.40.00-7F	ホールド	×	1-16ch	
Bn.41.00-7F	ポルタメント	×	1-16ch	
Bn.42.00-7F	ソステヌート	×	1-16ch	
Bn.43.00-7F	ソフトペダル	×	1-16ch	
Bn.47.00-7F	レゾナンス	×	1-16ch	
Bn.48.00-7F	リリースタイム	×	1-16ch	
Bn.49.00-7F	アタックタイム	×	1-16ch	
Bn.4A.00-7F	ブライツネス	×	1-16ch	
Bn.54.00-7F	ポルタメントコントロール	×	1-16ch	
Bn.5B.00-7F	リバーブセンドレベル	×	1-16ch	
Bn.5D.00-7F	コーラスセンドレベル	×	1-16ch	
Bn.5E.00-7F	バリエーションエフェクトセンドレベル	×	1-16ch	
Bn.60.00-7F	データインクリメント	×	1-16ch	
Bn.61.00-7F	データデクリメント			
Bn.62.00-7F	NRPN LSB	×	1-16ch	
Bn.63.00-7F	NRPN MSB			
Bn.64.00-7F	RPN LSB	×	1-16ch	
Bn.65.00-7F	RPN MSB			

コード	ファンクション	送信	受信	備考
Bn,78,00	オールサウンドオフ	×	1-16ch	
Bn,79,00	リセットオールコントローラ			
Bn,7B,00	オールノートオフ			
Bn,7C,00	オムニオフ			
Bn,7D,00	オムニオン			
Bn,7E,00	モノ			
Bn,7F,00	ポリ			
Cn,00-7F	プログラムチェンジ	16ch 1-16ch	コントロール	
Dn,00-7F	アフタータッチ	×	1-16ch	
En,00-7F,00-7F	ピッチベンド	×	1-16ch	

*MIDI設定で変更。

2. リアルタイムメッセージ

コード	ファンクション	送信	受信	備考
F8	クロック	○	○*	
FA	スタート	○	○	
FC	ストップ	○	○	
FE	アクティブセンス	○	○	
FF	リセット	×	×	

*外部同期モードのみ。

3. エクスクルーシブメッセージ

3.1 フォーマット

ユニバーサルリアルタイムメッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,7F,7F,04,01,SS,TT,F7	XGマスターボリューム	×	○
XN		×	○

ユニバーサルノンリアルタイムメッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,7E,7F,09,01,F7	GM ON	×	○
XN		×	○

XGネイティブ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,43,1N,4C,AH,AM,AL,...data...,F7	XGパラメーターチェンジ	×	○
F0,43,0N,4C,BH,BL,AH,AM,AL,...data...,cc,F7	XGバルクダンプ	×	○
F0,43,1N,27,30,00,00,MM,LL,cc,F7	XGマスターチューニング	×	○
F0,43,1N,4C,00,00,7E,00,F7	XGシステム ON	×	○

エレクトーン/シングルキーボード共通メッセージ

コード	メッセージ	送信	受信
F0,43,73,01,02,F7	内部同期モード要求	×	○
03	外部同期モード要求	×	○

エレクトーンエクスクルーシブ

コード	メッセージ	送信	受信
F0.43.70.70.00,・・・データ・・・F7 78 ID	バルクダンプデータ	×	○
F0.43.70.ID.00.F7	モデルIDデータ	○	×
F0.43.70.70.nn(*1),F7 78 ID	データ送信要求	×	○
F0.43.70.70.nn(*2),F7 78 ID	データ受信要求	×	○
F0.43.70.70.30.F7	モデルID送信要求	×	○
F0.43.70.70.38.7F.F7 00	バルクダンプアクリッジ バルクダンプアンアクリッジ	×	×
F0.43.70.70.40.nn(*3),7F.F7 00	スイッチON スイッチOFF	○	○
F0.43.70.70.40.50.TL.TH.F7	テンポ	○	○
F0.43.70.78.41.cd.dd.F7(*4)	パネルスイッチイベント	○	○
F0.43.70.78.42,・・・データ・・・F7	カレントレジストレーションデータ	○	○
F0.43.70.78.44,・・・データ・・・(*5),F7	EL MIDIパラメーター	○	○
F0.43.70.70.70.nn(*6),F7	外部MDR	×	○
F0.43.70.70.73.F7	EL ON	×	○
F0.43.70.70.78.SC.NC.F7	バーシグナル	○	○

X : don't care N : Device Number(EL-100では"0"のみ) ID=4C

*1 送信要求コード

nn	データ
10	全RAMデータ
11	レジストレーションデータ
12	リズムシーケンスデータ
14,15	ユーザーパターンデータ
16	ユーザーボイス
17	キーボードバーカッションアサイン

*2 受信要求コード

nn	データ
20	全RAMデータ
21	レジストレーションデータ
22	リズムシーケンスデータ
24,25	ユーザーパターンデータ
26	ユーザーボイス
27	キーボードバーカッションアサイン

*3 スイッチ

nn	スイッチ	送信	受信
45	レフトフットスイッチ	○	○
47	ニーレバー	×	○
48	フィルイン	○	○
4B	イントロ/エンディング	○	○

*4 スイッチコード一覧

セレクター

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
02	上鍵盤ボイス1セレクター	○	[00-0D]	○	[00-0D]	スイッチナンバー
03	下鍵盤ボイス1セレクター	○	[00-0D]	○	[00-0D]	スイッチナンバー
04	上鍵盤ボイス2セレクター	○	[00-01]	○	[00-0D]	スイッチナンバー
05	下鍵盤ボイス2セレクター	○	[00-01]	○	[00-0D]	スイッチナンバー
06	リードボイスセレクター	○	[00-04]	○	[00-04]	スイッチナンバー
07	ペダルボイス1セレクター	○	[00-04]	○	[00-04]	スイッチナンバー
08	ペダルボイス2セレクター	○	[00-04]	○	[00-04]	スイッチナンバー
0B	リズムセレクター	○	[00-0B]	○	[00-0B]	スイッチナンバー
0F	レジストレーションメモリー	×		○	[00-0F]	

ボリューム

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
12	上鍵盤ボイス1ボリューム	○	[00-7F]	○	[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
13	下鍵盤ボイス1ボリューム	○	[00-7F]	○	[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
14	上鍵盤ボイス2ボリューム	○	[00-7F]	○	[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
15	下鍵盤ボイス2ボリューム	○	[00-7F]	○	[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
16	リードボイスボリューム	○	[00-7F]	○	[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
17	ペダルボイス1ボリューム	○	[00-7F]	○	[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
18	ペダルボイス2ボリューム	○	[00-7F]	○	[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
1A	リズムボリューム	○	[00-7F]	○	[00-7F]	ボリュームデータ 00:MAX,7F:MIN
1B	リバーブボリューム	○	[00-7F]	○	[00-7F]	デプスデータ 00:MAX,7F:MIN

トゥーロー

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
36	リードボイストゥーロー	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON
37	ペダルボイス1トゥーロー	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON
38	ペダルボイス2トゥーロー	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON

サステイン

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
50	アッパーサステイン	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON
51	ローサステイン	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON
52	ペダルサステイン	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON

キーボードパーカッション

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
5B	ローキーボードパーカッション	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON
5C	ペダルキーボードパーカッション	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON

ディスエーブル

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
5F	ディスエーブル	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON

トレモロ

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
60	トレモロ	○	[00-01]	○	[00-01]	00:SLOW,01:FAST

リズムシーケンス

コード	スイッチ	送信	送信値	受信	受信値	備考
61	シーケンス1	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON
62	シーケンス2	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON
63	シーケンス3	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON
64	シーケンス4	○	[00-01]	○	[00-01]	00:OFF,01:ON

*5 EL MIDIパラメーター

音群パラメーター
オーケストラ音群パラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
00	00-04, 06, 07	00-0D	2	00-7F	音色アサインナンバーH		○	[00-7F]	○	[00-7F]	
				00-7F	音色アサインナンバーL		○	[00-0F]	○	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	10	1	00-0D	音色セレクトナンバー		×	[00-0D]	○	[00-0D]	
00	00-04, 06, 07	11	1	00-7F	ボリューム	00:MIN 7F:MAX	×	[00-7F]	○	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	12	1	00-7F	リバーセントレベル	00:MIN 7F:MAX	○	[00-7F]	○	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	14	1	00-04	フィート	00:Preset 01:16Feet 02:8Fee 03:4Feet 04:2Feet	○	[00] [01] [02] [03] [04]	○	[00][05-7F] [01] [02] [03] [04]	
00	00-04, 06, 07	15	1	00-7F	パン	00:Right 40:Center 7F:Left	○	[0B] [1D] [2B] [40] [55] [63] [75]	○	[00-11] [12-25] [26-31] [32-4E] [4F-5A] [5B-6E] [6F-7F]	
00	00-04, 06, 07	16	1	00-7F	インシャルタッチセンス	00:浅い 7F:深い	○	[00-7F]	○	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	19	1	00-01	ユーザービブラート	00:PRESET 01:USER	○	[00] [01]	○	[00] [01-7F]	
00	00-04, 06, 07	1A	1	02-1A	ビブラートディレイ	00:Short 7F:Long	○	[02-1A]	○	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	1B	1	00-54	ビブラートデプス	00:MIN 7F:MAX	○	[00-54]	○	[00-7F]	
00	00-04, 06, 07	1C	1	3C-6C	ビブラートスピード	00:Slow 7F:Fast	○	[3C-6C]	○	[00-7F]	
00	04, 06, 07	1F	1	00-01	TO LOWER	00:OFF 01:ON	×	[00] [01]	○	[00] [01-7F]	
00	04	20	1	00-02	スライド	00:OFF 01:ON 02:KneeControl	○ ×	[00] [01]	○ ○	[00] [01] [02]	
00	04	21	1	02-7F	スライドスピード	02:Slow 7F:Fast	○	[02-7F]	○	[00-7F]	
00	04	22	1	00-24	ディチューン	00:Normal 24:TuneUP	○	[00-24]	○	[00-7F]	
00	00-07 00, 01, 04, 06, 07	23	1	00-01	セカンドエクスプレッション	00:OFF 01:ON	×	[00] [01]	○	[00] [01-7F]	
00	00-04	24	1	00-01	グライド	00:OFF 01:ON	○	[00] [01]	○	[00] [01-7F]	

音群エフェクトパラメーター

Address		Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
00-01	00-04, 06, 07	3F	1	00-05	エフェクトセレクト					
					00:Preset	○	[00]	○	[00][07-7F]	
					01:OFF		[01]		[01]	
					02:Tremolo		[02]		[02]	
					03:Symphonic		[03]		[03]	
					04:Delay		[04]		[04]	
					05:Flanger		[05]		[05]	
					06:Distortion		[06]		[06]	
00-01	00-04, 06, 07	40-42	1	00-7F	リバーブパラメーター	×	[00-7F]	○	[00-7F]	
00-01	00-04, 06, 07	48-4A	1	00-7F	トレモロパラメーター	×	[00-7F]	○	[00-7F]	
00-01	00-04, 06, 07	50	1	00-7F	シンフォニックパラメーター	○	[00-7F]	○	[00-7F]	
00-01	00-04, 06, 07	58-5B	1.2	00-7F	ディレイパラメーター	○	[00-7F]	○	[00-7F]	
00-01	00-04, 06, 07	60-62	1	00-7F	フランジャーパラメーター	○	[00-7F]	○	[00-7F]	
00-01	00-04, 06, 07	68-69	1	00-7F	ディストーションパラメーター	○	[00-7F]	○	[00-7F]	

鍵盤パラメーター

サステインパラメーター

Address		Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
02	00-02	00	1	00-01	サステインON/OFF					
					00:OFF	×	[00]	○	[00]	
					01:ON		[01]		[01-7F]	
02	00-02	01	1	00-0C	サステインレンジ	○	[15-3D]	○	[00-7F]	
					0C:Long					

キーボードパーカッションパラメーター

Address		Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
02	01-02	10	1	00-01	キーボードパーカッション					
					00:OFF	×	[00]	○	[00]	
					01:ON		[01]		[01-7F]	
02	01-02	11	1	00-08	キーボードパーカッションモード	○	[00]	○	[00]	
					00:Preset		[00]		[00]	
					01-08:UserAssign 1-8		[01-08]		[01-08]	

鍵盤エフェクトパラメーター

Address		Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
02	00-02	40-42	1		リバーブパラメーター	×	[00-7F]	○	[00-7F]	
02	00-02	48-4A	1		トレモロパラメーター	×	[00-7F]	○	[00-7F]	
02	00-02	50	1		シンフォニックパラメーター	×	[00-7F]	○	[00-7F]	
02	00-02	58-5B	1.2		ディレイパラメーター	×	[00-7F]	○	[00-7F]	
02	00-02	60-62	1		フランジャーパラメーター	×	[00-7F]	○	[00-7F]	
02	00-02	68-69	1		ディストーションパラメーター	×	[00-7F]	○	[00-7F]	

リズム

リズムパラメーター

Address		Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
03	00	00-0B	1	00-65 67-98	パターンアサインナンバー					
					パターンナンバー	○	[00-62]	○	[00-62]	
03	00	10	1	00-0B	パターンセレクトナンバー	×	[00-0B]	○	[00-0B]	
03	00	11	1	00-7F	ボリューム	×	[00-7F]	○	[00-7F]	
					00:MIN		[00-7F]		[00-7F]	
					7F:MAX					
03	00	12	1	00-7F	リバーブセンドレベル	○	[00-7F]	○	[00-7F]	
					00:MIN		[00-7F]		[00-7F]	
					7F:MAX					
03	00	14	1	00-01	オートバリエーション	○	[00]	○	[00]	
					01:ON		[01]		[01-7F]	
03	00	15	1	00-7F	リズムバランス	○	[00-7F]	○	[00-7F]	
					00:Cymbal		[00-7F]		[00-7F]	
					40:Center					
					7F:Drums					
03	00	16	1	00-01	セカンドエクスプレッション テンポコントロール	×	[00]	○	[00]	
					01:ON		[01]		[01-7F]	
03	00	17	1	00-03	フットスイッチリズムモード	○	[00]	○	[00][04-7F]	
					01:RhythmStop		[01]	○	[01]	
					02:Ending		[02]		[02]	
					03:FillIn		[03]		[03]	

リズムシーケンスパラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
03	01	00-03	1	00-01	リズムシーケンス	00:OFF 01:ON	×	[00] [01]	○	[00] [01-7F]	

アカンパニメントパラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
03	02	10	1	00-03	パターンセレクトナンバー	00:Type1 01:Type2 02:Type3 03:Type4	○	[00] [01] [02] [03]	○	[00] [01] [02] [03]	
03	02	11	1	00-01	ボリュームミュート	00:OFF 01:MUTE	○	[00] [01]	○	[00] [01-7F]	
03	02	12	1	00-7F	ボリューム	00:MIN 7F:MAX	○	[00-7F]	○	[00-7F]	
03	02	13	1	00-7F	リバーブセンドレベル	00:MIN 7F:MAX	○	[00-7F]	○	[00-7F]	

A.B.C.設定パラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
03	03	00	1	00-03	A.B.C.モード	00:OFF 01:SingleFinger 02:Fingerd 03:CustomABC	○	[00] [01] [02] [03]	○	[00][04-7F] [01] [02] [03]	
03	03	01	1	00-01	LKメモリ	00:OFF 01:ON	○	[00] [01]	○	[00] [01-7F]	
03	03	02	1	00-01	PKメモリ	00:OFF 01:ON	○	[00] [01]	○	[00] [01-7F]	

M.O.C.設定パラメーター

Address			Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
03	04	00	1	00-03	M.O.C.モード	00:OFF 01:Close2Note 02:Close3Note 03:PassBOpen	○	[00] [01] [02] [03]	○	[00][04-7F] [01] [02] [03]	
03	04	01	1	00-01	M.O.C.ニークontrol	00:OFF 01:ON	×	[00] [01]	○	[00] [01-7F]	

全体
全体パラメーター

Address		Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
04	00	00	1	00-01	ディスエーブル	00:OFF 01:ON	×	[00] [01]	○ [01-7F]	
04	00	02	1	3A-46	トランスポート	3A:KeyDown 40:Normal 46:KeyUp	○	[3A] [40] [46]	○ [3A] [40] [46]	
04	00	03	1	00-0B	セカンドエクスプレッション変化幅	01:100¢ 0C:1200¢	×	[01-0C]	○ [01-0C]	
04	00	04	1	00-03	フットスイッチモード	00:OFF 01:Rhythm 02:Glide 03:Tremolo	○	[00] [01] [02] [03]	○ [00][04-7F] [01] [02] [03]	
04	00	05	1	3C-4F	ピッチ	3C:PitchDown 40:Normal 4F:PitchUp	○	[3C-4F]	○ [3C-4F]	
04	00	06	1	00-04	グライドスピード	01:Slow 05:Fast	○	[04-1C]	○ [00-7F]	
04	00	07	1	34-4C	マニュアルバランス	34:Upper 40:Center 4C:Lower	○	[34-4C]	○ [00-7F]	
04	00	09	1	00-01	LIT	00:Mode1 01:Mode2	×	[00] [01]	×	[00] [01]
04	00	0A	1	00-01	EXPRESSION INT/EXT	00:Internal 01:External	×	[00] [01]	○ [00][02-7F] [01]	

全体エフェクトパラメーター

Address		Size	Data	パラメーター	データ	送信	送信値	受信	受信値	備考
04	00	40-42	1		リバーブパラメーター		○	[00-7F]	○	[00-7F]
04	00	48-4A	1		トレモロパラメーター		○	[00-7F]	○	[00-7F]
04	00	50	1		シンフォニックパラメーター		×	[00-7F]	○	[00-7F]
04	00	58-5B	1.2		ディレイパラメーター		×	[00-7F]	○	[00-7F]
04	00	60-62	1		フランジャーパラメーター		×	[00-7F]	○	[00-7F]
04	00	68-69	1		ディストーションパラメーター		×	[00-7F]	○	[00-7F]

*6 外部MDR

nn	コマンド	送信	受信
01	プレイスタート	×	○
02	プレイストップ	×	○
03	レコードスタート	×	○
04	レコードストップ	×	○
09	リズムポインターリセット	×	○

MIDIインプリメンテーションチャート

YAMAHA [Electone-EL mode] / Model: EL-100

Date:15. Nov. 2001
Version: 1.00

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1, 2, 3, 16チャンネル ※1 1-16	1-3, 5-16チャンネル ※2 4チャンネル	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノートナンバー	音域	36-96 ※3 *****	0-127 ※4	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH, v=1-127 ○ 9nH, v=0	○ 9nH, v=1-127 ○ 9nH, v=0, 8nH	EL-100のペダルベロシティ 送信は80固定
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ○ ※6	EL-100のペダル鍵盤は 送信しない
ピッチベンダー		×	○ ※6	
コントロールチェンジ	0, 32 1, 5, 7, 10 4 6, 38 11 96, 97 64-67 71-74 84, 91, 93, 94 98-99, 100-101 120, 121	× × × × ○ ※7 × × × × × × × ×	○ ※6 ○ ※6 ○ ※7 ○ ※6 ○ ※6, 7 ○ ※6 ○ ※6 ○ ※6 ○ ※6 ○ ※6 ○ ※6 ○ ※6	バンクセレクト セカンドエクスプレッションペダル データエントリー エクスプレッションペダル データエントリーSW サウンドコントローラー NRPN, RPN
プログラムチェンジ	設定可能	○ ※9 *****	○ ※10	
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	○ ○	○ ※8 ○	(FAH, FCH)
その他	ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	× ○ (123-127) ※6 ○ ×	
備考		※1 1チャンネル:上鍵盤, 2チャンネル:下鍵盤, 3チャンネル:ペダル鍵盤, 16チャンネル:コントロール ※2 1チャンネル:上鍵盤, 2チャンネル:下鍵盤, 3チャンネル:ペダル鍵盤, 4チャンネル:リードボイス1, 5-14チャンネル:YG, 15チャンネル:キーボード ※3 上鍵盤:48-96, 下鍵盤:36-84, ペダル鍵盤:36-55 ※4 上鍵盤, 下鍵盤, ペダル鍵盤, リードボイス:36-96, YG:0-127, パーカッション:3-127 ※5 上鍵盤:アッパーキーボードホリゾンタルタッチ, 下鍵盤:ロワーキーボードホリゾンタルタッチ ※6 XGのみ ※7 コントロールのみ ※8 エクスターナルモードのみ ※9 コントロール:0-15, 112-116 ※10 上鍵盤, 下鍵盤, ペダル鍵盤, コントロール:0-15, 112-116, XG:0-127		

モード1:オムニ・オン、ポリ
モード3:オムニ・オフ、ポリ

モード2:オムニ・オン、モノ
モード4:オムニ・オフ、モノ

○: あり
×: なし

ファンクション		送信 ※11	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1, 2, 3, 16チャンネル 1-16	1-16チャンネル 1-16チャンネル	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノートナンバー	音域	36-96 *****	0-127	
ペロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH, v=1-127 ○ 9nH, v=0	○ 9nH, v=1-127 ○ 9nH, v=0, 8nH	EL-100のペダルペロシティ 送信は80固定
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ○	
ピッチベンダー		×	○	
コントロールチェンジ	0, 32 1, 5, 7, 10 4 6, 38 11 96, 97 64-67 71-74 84, 91, 93, 94 98-99, 100-101 120, 121	× × × × ○ × × × × × × × ×	○ ○ × ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	バンクセレクト セカンドエクスプレッションペダル(EL-100は送信しない) データエントリー エクスプレッションペダル データエントリーSW サウンドコントローラー NRPN, RPN
プログラムチェンジ	設定可能	○0-15, 112-116 *****	○	
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	○ ○	× ×	
その他	ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	× ○(123-127) ○ ×	
備考	※11 ELモードと同じ			

モード1:オムニ・オン、ポリ
モード3:オムニ・オフ、ポリ

モード2:オムニ・オン、モノ
モード4:オムニ・オフ、モノ

○: あり
×: なし

故障かな?と思ったら

現象	原因と対処
楽器全般	
時々ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具の電源をオン/オフしたり、電気ドリルなどを使用している場合は、雑音が入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントを使ってください。また、原因不明の場合は、サービスセンターまでご相談ください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュア無線局があるためです。どうしても気になる場合は、サービスセンターまでご相談ください。
エレクトーンから雑音が出る。	エレクトーンの近くで携帯電話を使っている(または呼び出し音が鳴っている)ためです。エレクトーンの近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。エレクトーンの近くでは携帯電話の電源を切ってください。
ラジオやテレビなどに雑音が入ることがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置くと、雑音が入ることがあります。できるかぎり離してご使用ください。
音が周囲のものを共鳴させてびりつく。	エレクトーンの音は持続音が多いため、周囲の戸棚やガラスなどの家具類を共鳴させることがあります。気になる場合は、家具類の配置を一工夫するか、エレクトーンの音量を小さくしてください。
ディスプレイセレクトセクションのボタンの中で点灯しないものがある。	トリモロボタンを押すと点灯しますが、それ以外のボタンを押した場合は一時的に点滅するだけです。
ボリュームを最大にセットしても、音が小さすぎる。	<ul style="list-style-type: none"> ●音量ダイヤルが最小近くになっています。時計回りに回してください。 ●エクスペッションペダルが踏み込まれていません。ペダルを踏み込んでください。
コントロールパネルなどが正常に動かない。 または、メモリーしていた情報が変わってしまう。	非常にまれなことで、落雷などにより異常電圧が流れ、エレクトーンが正常に機能しなくなったり、メモリーしていた情報が変わったりすることがあります。このような場合は、いったん電源スイッチを切り、電源スイッチをもう一度入れてください。それでも正常に動かない場合は、サービスセンターまでご相談ください。
ボタンを押しても、そのボタンのメニューが表示されない。	パターンディスクが入っているとメニューが変わりません。ディスクを出してから、あらためて目的のボタンを押してください。
音色/リズム	
選んだ音色によって、鍵盤位置による音量のばらつきがある。	一般に電子楽器は、音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量ばらつきをなくすことは非常に困難です。エレクトーンはどの音色でも演奏上問題の無いように設計、調整されていますが、設置場所や聞く位置によって音量や音色が異なることがあります。どうしても気になる場合は、サービスセンターまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上/下鍵盤の高音部ではピッチが低く感じられる。	特にピアノと比較した場合に感じることです。ピアノでは倍音構成が複雑なため、高音と低音の調律は実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律していますから、ピアノとエレクトーンでは、高音と低音の調律自体が本質的に違うわけです。
割れるような感じや、ノイズが入るような感じのする音色がある。	おもに管楽器の音色で感じることです。これは実際の楽器音の特長を再現するため、意図的に組み込まれた音色効果です。プラスの振動やブレスノイズなど、よりリアルな特徴をそなえた音色が得られます。
複数の鍵盤を押さえたとき、鳴らない音がある。	上鍵盤または下鍵盤では、上/下鍵盤合わせて最大10音まで同時に発音するようになっています。この同時発音数を超えると、音が鳴らない場合が生じます。
ペダル鍵盤またはリードボイスを同時に2音押さえても、1音しか発音しない。	ペダル鍵盤またはリードボイスでは、それぞれ同時に1音しか発音しないようになっています。同時に2音以上押さえた場合は、高音が優先されます。

現象	原因と対処
音色/リズム	
上鍵盤の音量が下鍵盤の音量に比べて大きすぎる。(またはその逆)	マニュアルバランスが上鍵盤または下鍵盤側に寄りすぎています。ボイスディスプレイボタンを押してLCDにボイスディスプレイを表示させ、マニュアルバランスを設定しなおしてください。
ボリュームをセットしても、ペダル鍵盤の音色が発音しない。	●オートベースコードのシングルフィンガーまたはフィンガーコードがセットされています。リズムコンディション、または、A.B.C./M.O.C.メニューのA.B.C.モードをオフにしてください。 ●ペダルボイスの下鍵盤▲ボタンがオンになっています。ボタンをオフにしてください。
ページボタンでボイス/リズムメニューを選んでいるときに、LCDディスプレイ上段の音色/リズム名とその下のボイス/リズムメニューのカテゴリーが異なる。	LCDディスプレイ上段には現在選択されている音色/リズム名が表示されます。ほかの音色/リズムを選択しなおすまで表示は変わりません。
下鍵盤またはペダル鍵盤を押さえるとリズム楽器の音と一緒に発音する。	キーボードパーカッションがオンになっています。 キーボードパーカッションを使用しないときはオフにしてください。
リズムドットボタンを押してユーザーリズムをスタートしたが、リズムが発音されない。	ユーザーリズムは、リズムパターンディスクで読み込んだリズムを呼び出すセクションなので、最初はブランクになっています。
エフェクト	
タッチコントロールが思ったよりきかない。	ボイスコンディションでのイニシャルタッチのレベル設定が低くなっています。ボイスコンディションのメニューを表示させ、イニシャルタッチのレベルを上げてください。
パネル左端のリバースボリュームを上げたが、かけたい音群にリバースがかからない。	かけたい音群のリバースが0に設定されています。まず、かけたい音群のボイスコンディション画面(ページ2)でリバースボリュームを上げてください。
ディスプレイセレクトのトレモロボタンを押したが、トレモロがかからない。	トレモロ効果を得るためには、まず、ボイスコンディション画面(ページ3)またはエフェクトセットページでトレモロ機能を選択する必要があります。
A.B.C./アカンパニメント	
A.B.C.のシングルフィンガーで下鍵盤の高い方を押さえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーでは定められた1オクターブの中の音が出るようになっていきます。同じコードまたは同じ音色であれば、下鍵盤のどの位置を押さえても同じ音程で和音が得られます。
イントロ/エンディングパターンに入っているとき、下鍵盤を弾いても発音しない。	アカンパニメントコードが自動的に選択演奏されるので、イントロ/エンディングパターンが演奏中は、その他の音は発音されないようになっています。
アカンパニメントを選んでリズムをスタートさせたが、アカンパニメントが鳴らない。	アカンパニメントのボリュームが0になっています。リズムコンディション画面で、アカンパニメントのボリュームを上げてください。
メロディオンコードによるハーモニーの音が発音しない。	上鍵盤でリードボイスだけが発音するようになっています。上鍵盤ボイスをセットしてください。

現象	原因と対処
レジストレーションメモリー	
レジストレーションに記憶されない機能がある。	次の機能は記録されないようになっています。 リズムのスタート、シンクロスタート、フィルイン、イントロ/エンディングなどの各スイッチ機能。ユーザーリズムの内容、レジストレーションシフト、MDRセレクトボタンなど。詳細については76ページをご参照ください。
トゥーディスクの操作をしたらエラー表示になり、データが移らない。	操作が不適切であるか、フロッピーディスクのライトプロテクトタブがオンになっています。操作方法などを確認してください。
基本レジストレーションを押すと“ピッ”と音がした。	EL-900m/900/700/500で作ったレジストレーションをMDRで読み込み、シーケンスデータやリズムインストゥルメントが初期設定と違っている場合、基本レジストレーションボタンを押すと初期設定に戻し、“ピッ”と鳴らしてお知らせします。
MDR	
録音/再生ができない。	鍵盤ごとの録音/再生のパート選択ボタンがオフになっています。録音/再生したいパートのボタンを押してオンにしてください。
40ソングまでデータの録音/記録ができない。	ひとつのソングに記録したデータの量が多い場合、メモリー残量が足りなくなることがあります。メモリー残量をご確認ください。
演奏が終わる前に録音がストップしてしまった。	<ul style="list-style-type: none"> ●メモリー残量が足りない場合：別のディスクを使用してください。 ●既に録音してあるソングナンバーに録音する場合：録音する曲の長さが前の曲の長さになっています。前の曲をデリートしてから、録音しなおしてください。
録音開始時にリズムがスタートしなかったり、スタートさせたリズムがストップしてしまう。	録音開始時にリズムがスタートした場合、リズムをストップさせる仕様になっています。リズムを使用する場合は、デジタルディスプレイの表示が---からメモリー残量表示に切り替わった後でスタートさせてください。
再生されていたエレクトーンの音が鳴らなくなりました。	イジェクトボタンを押してディスクを取り出したためです。停止ボタンを押して再生をストップしてから、ディスクを取り出して、電源を切るようにしてください。

EL-100の組み立て方

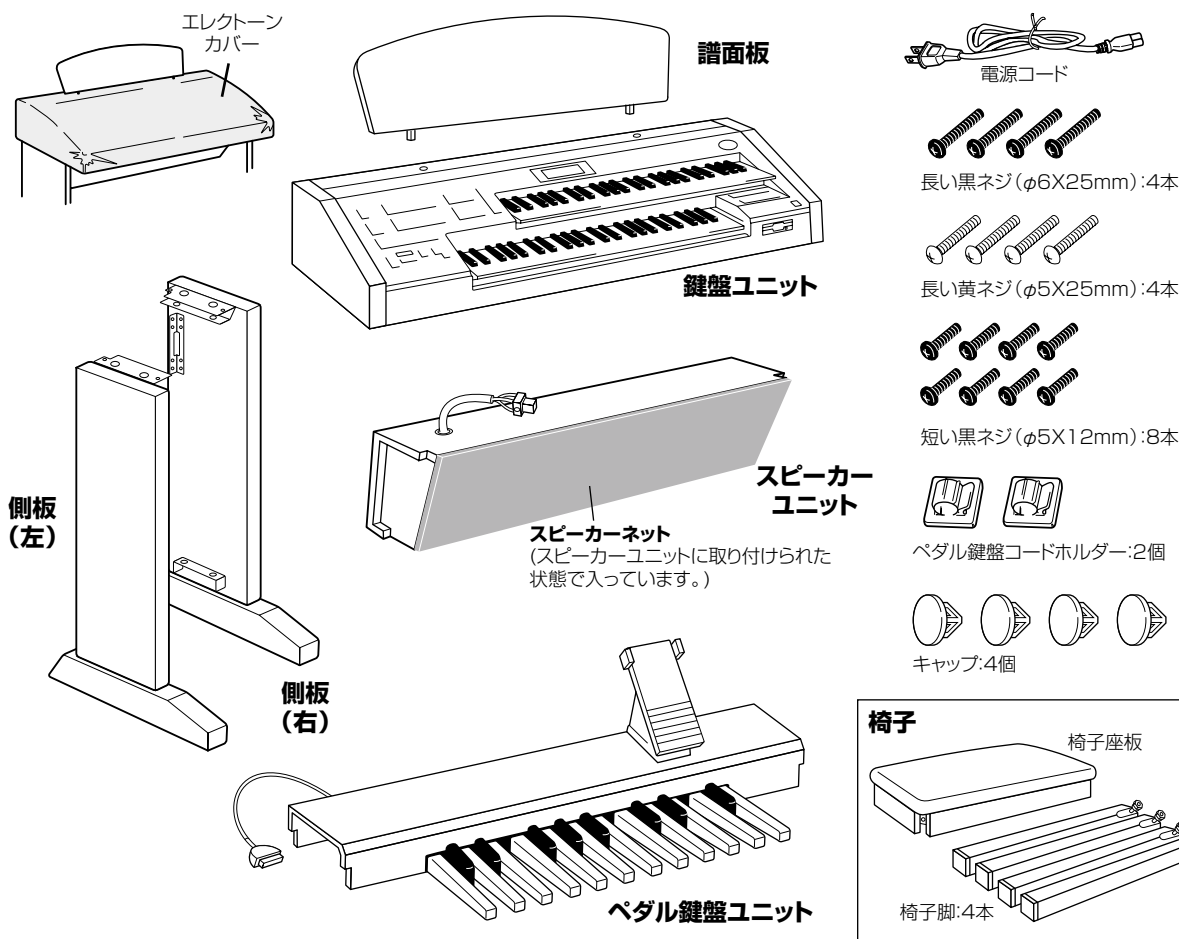
エレクトーンを組み立てる前に、必ずお読みください。

■ ご注意

- ❗ 部品をまちがえたり、向きをまちがえたりしないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ❗ 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ⊗ ネジは付属の指定サイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ❗ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- ❗ 分解するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

組み立てにはプラス(+の)ドライバーが必要です。ご用意ください。

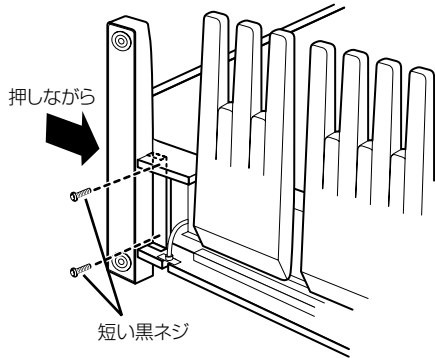
1. 箱を開けて、両サイドの段ボールパッド2個を取り出し、その上に鍵盤ユニットを置きます。
 段ボールパッドは、本体左下のヘッドフォンジャック部/端子パネル部、本体右下のMIDI端子部に当たらないように配置してください。
2. すべての部品を取り出します。
 最初に、部品がすべてそろっていることをご確認ください。



3. ペダル鍵盤ユニットに左右の側板を取り付けます。 側板の左右を間違えないようご注意ください。

3-1 ペダル鍵盤ユニットの鍵盤側を上に戻します。

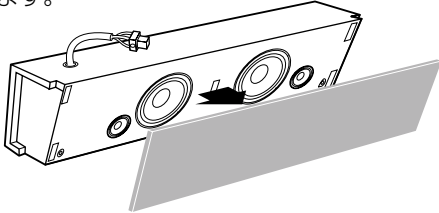
3-2 図のようにペダル鍵盤ユニットと側板の位置を合わせて、短い黒ネジ4本を使って固定します。



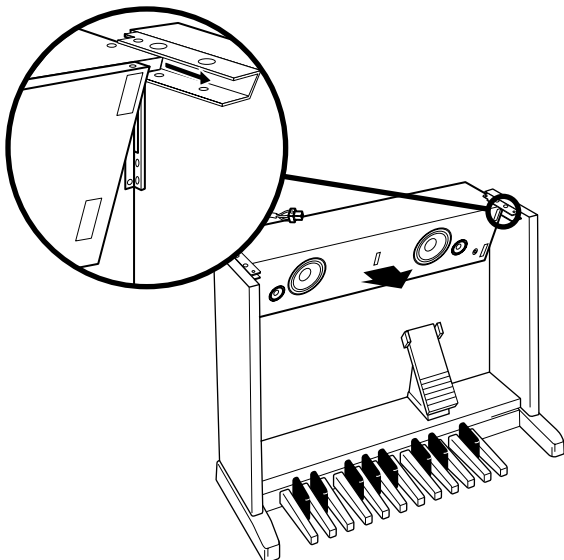
3-3 固定できたら、ペダル鍵盤ユニットを立てます。

4. スピーカーユニットを側板に取り付けます。

4-1 スピーカーユニットからスピーカーネットをはずします。



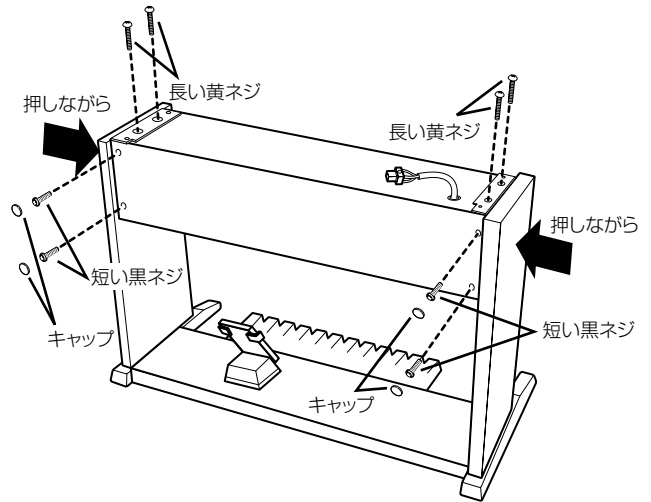
4-2 2人でスピーカーユニットを水平に持ったまま、背面から、図のように側板上部のガイドレールに沿ってスライドさせます。(止まるまで押し込みます。)



❗ 指をはさんだり、スピーカーユニットを落としたりしないようご注意ください。

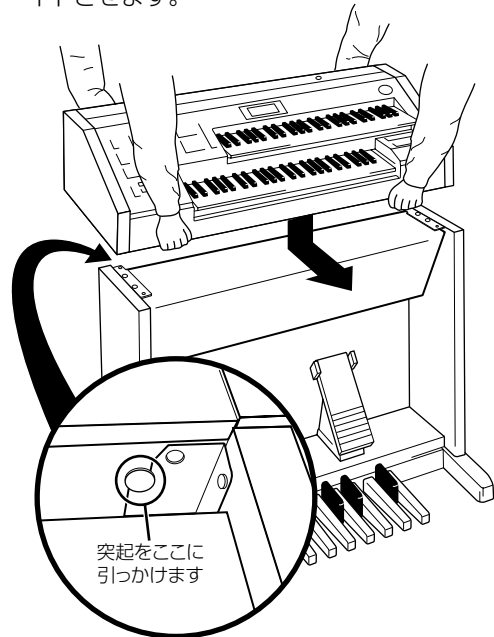
4-2 側板をスピーカーユニットに押しつけながら(側板とスピーカーユニットの間にすき間が生じないようにして)、背面から、短い黒ネジ4本を使って図のように固定します。キャップをネジ穴に取り付けます。

4-3 また、上面から、長い黄ネジ4本を使って固定します。



5. 鍵盤ユニットを取り付けます。

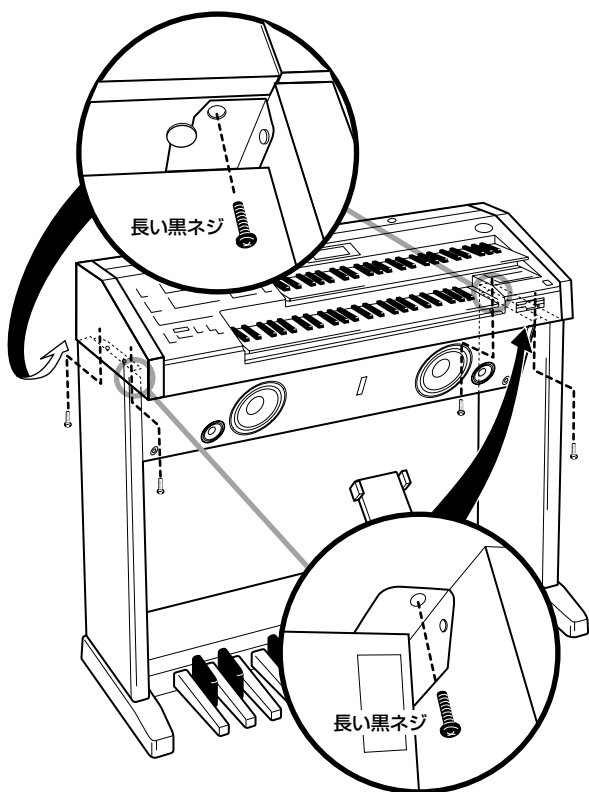
5-1 図のように2人で鍵盤ユニットを持ち、側板の後部に乗せながら背面側から前面に向かって平行にスライドさせます。



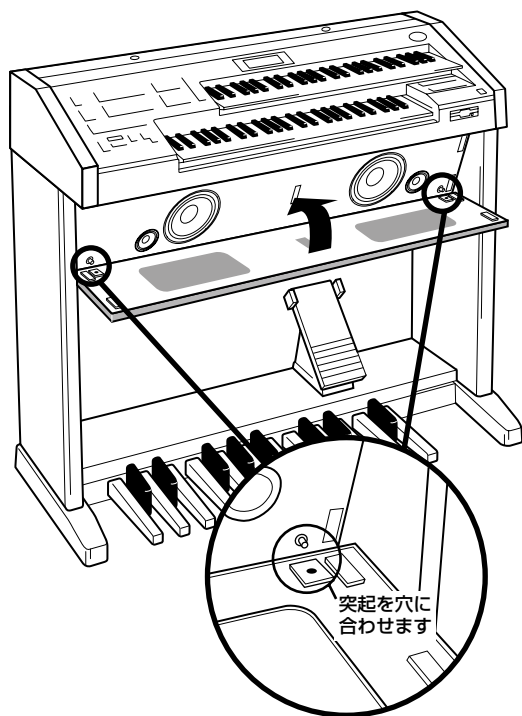
❗ この際、鍵盤ユニットの張り出し部分が左右均等になるように調整してください。

❗ 指をはさんだり、鍵盤ユニットを落としたりしないようご注意ください。

5-2 長い黒ネジ4本を使って図のように固定します。

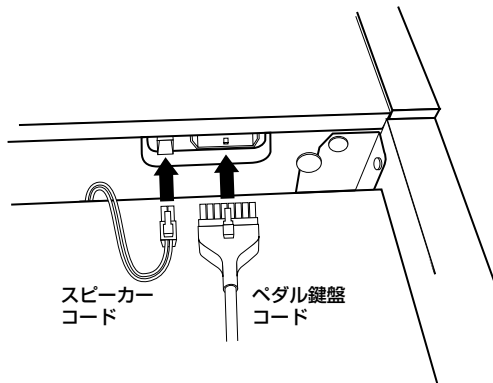


6. スピーカーネットをスピーカーに取り付けます。図のように下の位置を合わせてから取り付けてください。



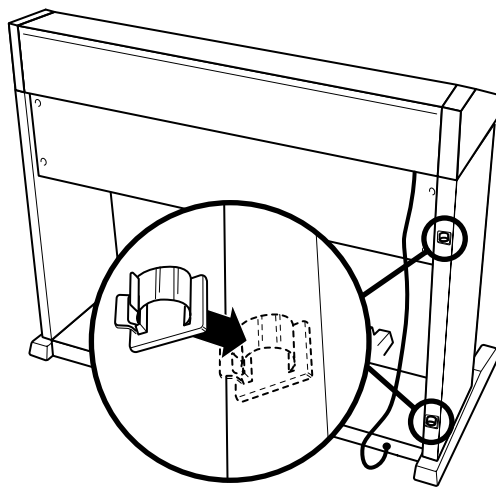
7. ペダル鍵盤コードとスピーカーコードを鍵盤ユニットに接続します。

ペダル鍵盤コードとスピーカーコードのプラグの突起があるほうを背面側にして、鍵盤ユニット側のそれぞれのソケットにしっかりと差し込みます。

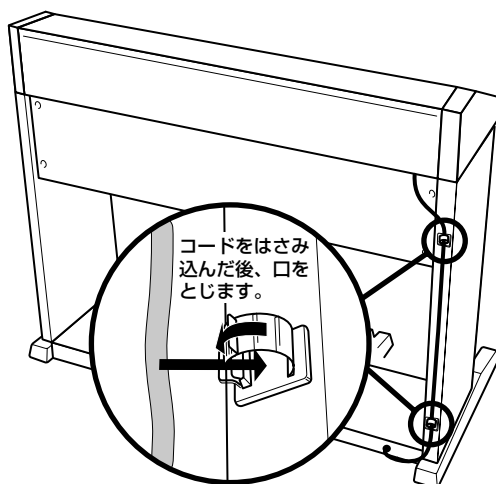


8. ペダル鍵盤コードホルダーを使って、ペダル鍵盤コードを固定します。

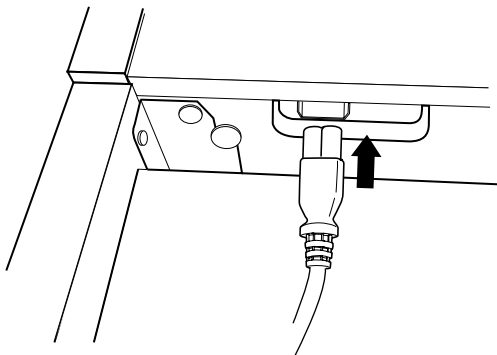
8-1 ペダル鍵盤コードホルダーを図のように側板背面に貼り付けます。



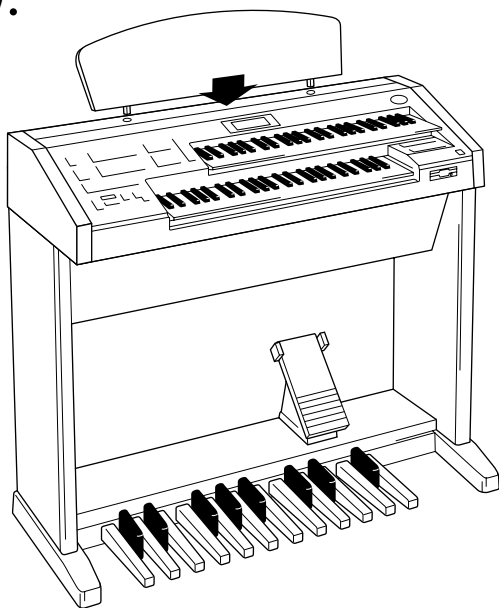
8-2 ペダル鍵盤コードをホルダーにはさみ込みます。



9. 電源コードのプラグを鍵盤ユニット側のACインレットに差し込みます。



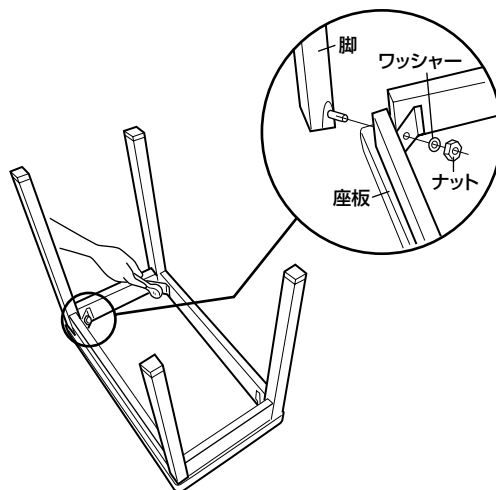
10. 譜面板を取り付けます。



11. エレクトーンの電源を入れ、音が出ること(正しく組み立てたこと)を確認します。

椅子の組立

椅子座板を裏返しに置き、椅子座板に椅子脚を図のように取り付け、付属のスパナを使って、ナットでしっかりと固定します。椅子座板とナットの間にワッシャーをはさむのを忘れないようにしてください。



■ 組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- **部品が余っていませんか？**
→ 組み立て手順を再確認してください。
- **部屋のドアなどがエレクトーンにあたりませんか？**
→ エレクトーンを適切な位置に移動してください。
- **エレクトーンがゆれませんか？**
→ すべてのネジを確実に締め直してください。
- **エレクトーンの電源は入りますか？**
→ 電源コードが確実に本体に差し込まれているかどうか確認してください。
- **エレクトーンの音は出ますか？**
→ スピーカーコードやペダル鍵盤コードが確実に本体に差し込まれているかどうか確認してください。

使用中にエレクトーン本体や椅子がきしむ、横ゆれする、ぐらつくなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

EL-100仕様

鍵盤	上鍵盤：49鍵(C-C)、下鍵盤：49鍵(C-C)、ペダル1、2：20鍵(C-G)	
イニシャルタッチ	上鍵盤1、2、リード、下鍵盤1、2、ペダル(外部MIDIコントロールのみ)	
音色	音源	AWM
	上鍵盤ボイス、上鍵盤ボイス2 下鍵盤ボイス、下鍵盤ボイス2	ストリングス1、2、3、4、5、6、7、ピチカートストリングス、トレモロストリングス、シンセストリングス1、2、3；プラス1、2、3、4、5、シンセプラス1、2、3；クラリネット1、2、バスクラリネット、シンセクラリネット1、2；サクソフォン1、2、ソプラノサクソ、サクソアンサンブル1、2、シンセサクソ、シンセリード1、2、3、4、5；コーラス1、2、3、4、5、ボーカル；オルガン1、2、3、4、ジャズオルガン1、2、3、4、ポップオルガン1、2、シアターオルガン1、2、アコーディオン、バンドネオン；ピアノ1、2、ホンキートンクピアノ、エレクトリックピアノ1、2、3、ハーブシコード、クラビ、クラビコード；ギター1、2、3、12弦ギター、バンジョー、マンドリン、シタール、三味線、エレクトリックギター1、2、ミュートギター、ディストーションギター、ハーブ、スチールギター、琴、大正琴；ピブラフォン、グロッケン、チェレスタ、オルゴール、マリンバ、シロフォン、チャイム、シンセチャイム、スチールドラム；コズミック1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16；トゥッティ1、2、3、4、5、6、7；[上鍵盤1、2]ハーモニカ1、2；[下鍵盤1、2]ホルン1、2、3、4、ミュートホルン；[ドットボタン1、2]；上鍵盤1、2＝115ボイス；下鍵盤1、2＝118ボイス；ボリューム
	リードボイス	バイオリン1、2、3、4、5、ピチカートバイオリン、チェロ、胡弓；フルート1、2、ピッコロ、横笛、リコーダー、オカリナ、パンフルート、尺八、ホイッスル；オーボエ1、2、イングリッシュホルン、バスーン1、2；トランペット1、2、3、4、5、6、ミュートトランペット、トロンボーン1、2、ミュートトロンボーン、フリューゲルホルン、ユーフォニウム；[ドットボタン1、トゥーローボタン；34ボイス]；ボリューム
	ペダルボイス、ペダルボイス2	コントラバス1、2、3、ピチカートベース、アップライトベース；エレキベース1、2、3、4、シンセベース1、2、3；オルガンベース1、2、3、4；チューバ、ティンパニ、ティンパニロール；[ドットボタン1、トゥーローボタン；19ボイス]；ボリューム
	ボイスディスプレイ	上鍵盤1、2、下鍵盤1、2、リード、ペダル1、2；マニュアルバランス
エフェクト/ コンディション	リバーブ	[コントロール]タイプ：ルーム、ホール、チャーチ；レンジ：デプス(上鍵盤1、2；下鍵盤1、2；リード；ペダル1、2；アカンパニメント；パーカッション)
	サステイン	上鍵盤、下鍵盤、ペダル；[コントロール]レンジ
	トレモロ/コーラス	上鍵盤1、2、下鍵盤1、2、リード、ペダル1、2；[モード]トレモロ(ファスト)：スピード、コーラス(スロー/ストップ)
	シンフォニック/セレステ	上鍵盤1、2、下鍵盤1、2、リード、ペダル1、2；[モード]シンフォニック/セレステ
	ピブラート	上鍵盤1、2、下鍵盤1、2、リード、ペダル1、2；プリセット/ユーザー(ディレイ、デプス、スピード)
	ディレイ	上鍵盤1、2、下鍵盤1、2、リード、ペダル1、2；[コントロール]タイム、フィードバック、バランス；[モード]モノ、ステレオ1、2、3
	フランジャー	上鍵盤1、2、下鍵盤1、2、リード、ペダル1、2；[コントロール]スピード、フィードバック、デプス
	ディストーション	上鍵盤1、2、下鍵盤1、2、リード、ペダル1、2；[コントロール]レベル、ハイパス
	グライド	アッパー1、2、ロー1、2、リード；[コントロール]タイム
	リードスライド	オン/オフ；[コントロール]スライドタイム
	リードデチューン	チューン
	パン	上鍵盤1、2、下鍵盤1、2、リード、ペダル1、2；7ポジション
	フィート	上鍵盤1、2、下鍵盤1、2、リード、ペダル1、2；プリセット/2'(ペダルボイスのみ)/4'/8'/16'

リズム	リズム	マーチ1、2、3、ポルカ1、2、カントリー1、2、ブロードウェイ、パロック：ワルツ1、2、3、4、5、ジャズワルツ1、2、3、ボレロ：スイング1、2、3、4、5、6、ジャズバラード、ディキシーランド1、2；パウンス1、2、3、レゲエ1、2；スローロック1、2、3；タンゴ1、2、3；チャチャ、ルンバ、ビギン、マンボ、サルサ：サンバ1、2、3、ボサノバ1、2、3；8ビート1、2、3、4、5、ダンスポップ1、2、3、4；16ビート1、2、3、4、5、ファンク1、2、3；ユーザー1、2、3、4、5、6、7、8(A～D)：[ドットボタン1、2；66リズム]；ボリューム
	バリエーション	フィルイン、イントロ/エンディング、タクト、オートバリエーション；オン/オフ
	コントロールその他	スタート、シンクロスタート、テンポ：パー/ビートディスプレイ；[コンディション]リバーブ、バランス、ボリューム
	リズムシーケンス	オン/オフ、シーケンス1～4
キーボードパーカッション		プリセット：下鍵盤、ペダル オン/オフ、ユーザー：1～8；LKプリセットコピー、PKプリセットコピー、ユーザーコピー；[アサイン]インストールメント(120)、クリア
アカンパニメント	オートベースコード	[モード]オフ/シングルフィンガー/フィンガードコード/カスタムA.B.C.；メモリー：下鍵盤、ペダル鍵盤
	アカンパニメント	[タイプ]1、2、3、4、オフ；ボリューム；リバーブ
メロディオンコード		[モード]オフ、1、2、3
基本レジストレーション		1～5
レジストレーションメモリー		M.(メモリー)/トゥーディスク、1～8、D.(ディスエーブル)ボタン、レジストレーションシフト
ミュージックディスクレコーダー		再生/録音：上鍵盤、下鍵盤、ペダル、コントロール、リード、キーボードパーカッション；一時停止、停止、早送り、巻戻し、ソングセレクト、シフト、カスタムプレイ、テンポ；フォーマット、リード&オートインクリメント、ソングリビート、ソングデリート、ソングコピー；フロム/トゥー、ディスクコピー、パンチイン録音、XG再生(16パート：ソロ、ミュート、ボリューム)、XG簡易変換、ソングネーム表示、リズムパターンディスク、メモリー残量；デジタルディスプレイ、イジェクト
フットスイッチ コントロール	左フットスイッチ	モード：オフ、リズム(ストップ、エンディング、フィルイン)、 グライド(アッパー1、2/ロワー1、2/リード：タイム)、トレモロ/コーラス
	右フットスイッチ	レジストレーションシフト：オフ、シフト、ジャンプ、ユーザー(80ポジション、カーソル、インサート、 デリート；シフトエンド：ストップ、トップ、ネクストソング)
トランスポーズ/ピッチ		トランスポーズ(-6～+6)、ピッチ(438.8Hz～444.5Hz)
LCDディスプレイ		20 x 2 キャラクター
表示言語		日本語/英語
コントロール		パワーオン/オフ、エクスペリションペダル(左/右フットスイッチ)、ピッチコントロール、トランスポーズ、 マスターボリューム、ディスプレイセレクト、データコントロール、ページ、 MIDI(アウトプット：アッパー、ロワー、ペダル；インターナル/エクスターナル：リード、シンクロ、 エクスペリション
その他の装備		MIDIイン/アウト端子、ヘッドフォンジャック、AUXアウト端子(RCA：L/R)、 トゥーホスト端子、ホストセレクト
付属品		椅子、譜面板、エレクトーンカバー、取扱説明書、組立説明書、保証書、愛用者カード
オプション		パターンディスク、HPE-170ステレオヘッドフォン
サウンドシステム	アンプ	40W(ステレオ)
	スピーカー	[2ウェイ]ウーファー 16cm x 2、ツイーター 5cm x 2
定格電圧・消費電力・周波数		100V、40W、50/60Hz
サイズ		[本体]間口1,123mm、奥行き482mm、高さ925mm(譜面板を立てたとき1,111mm) [椅子]間口595mm、奥行き295mm、高さ580mm
質量		[本体]55.0kg、[椅子]6.2kg

*仕様および外観は、改良のため、予告無く変更することがあります。

索引

ア

アカンパニメント	63
アカンパニメントリバーブ	64
アサイン(キーボードパーカッション)	66
アップパー(MIDI OUT)	111

イ

イジェクトボタン	82
一時停止(MDR)	97
イニシャルT(イニシャルタッチ)	39
インサート(レジストレーションシフト)	81
インターナル/エクスターナル(MIDI IN)	112
イントロ/エンディング	55

ウ

上鍵盤ボイス	26
上鍵盤ボイス2	27

エ

エクスプレッション	109
エクスプレッションペダル	13, 109
エフェクト	38, 41
エフェクトイメージ(ディレイ)	46
エフェクトセット	43
演奏データ	87
エンディング	55

オ

オートバリエーション(リズム)	57
オートベースコード(A.B.C.)	61
音群	26
音群選択	44
音色	26
音量ダイヤル	13
音量バランス	29

カ

カーソルコントロール(レジストレーションシフト)	80
カスタムA.B.C.	61
カスタムプレイ(MDR)	97
カスタムプレイボタン	97
カテゴリ(キーボードパーカッション)	68

キ

キーボードパーカッション	65
基本レジストレーション	20

ク

グライド(フットスイッチ)	107
クリア(キーボードパーカッション)	68

コ

コード	62
コーラス	44, 51
コピー/LKプリセット(キーボードパーカッション)	71
コピー/PKプリセット(キーボードパーカッション)	72
コピー/ユーザー(キーボードパーカッション)	72
コピープロテクト	104
コントロール(エフェクト)	38
コントロールデータ	87

サ

再生(MDR)	93
再生テンポ(MDR)	98
サステイン	50

シ

シーケンスボタン	75
下鍵盤プリセット	66
下鍵盤ボイス	26
下鍵盤ボイス2	27
シフト(レジストレーションシフト)	79
シフトエンド	80
シフトエンドマーク	80
シフトボタン	84
シャッター	83
ジャンプ(レジストレーションシフト)	79
受信(MIDI)	112
出力端子	113
シングルフィンガー	61
シンクロ(MIDI IN)	112
シンクロスタート	55
シンフォニック	41, 44

ス

スタート(リズム)	55
ストップ(MDR)	86
ストップ(シフトエンド)	80
スピード(ビブラート)	42
スピード(フランジャー)	47
スピード(トレモロ)	53
スライド	43
スライドタイム	43

セ

セット(キーボードパーカッション)	68
セレステ	44

ソ

ソロ(XG)	95
ソングコピー	99
ソングセレクトボタン	84
ソングデリート	101
ソングリピートボタン	94

タ

タイプ(アカンパニメント)	64
タイプ(リバーブ)	49
タイム(ディレイ)	45
打楽器名(キーボードパーカッション)	68
タクト	55

チ

チャーチ(リバーブ)	49
チューン	43

テ

データエディット(レジストレーションシフト)	81
データコントロールボタン	23
停止(MDR)	86
ディスエーブル(D.)ボタン	77
ディスクコピー	101
ディストーション	41, 48
ディスプレイセレクト	11, 29
ディレイ(エフェクト)	41, 45
ディレイ(ビブラート)	42
デジタルディスプレイ	84
デプス(ビブラート)	42
デプス(フランジャー)	47
デプス(リバーブ)	49
デリート(レジストレーションシフト)	81
電源スイッチ	12
テンポ(MDR)	98
テンポボタン	56

ト

トゥーローワー	30
ドットボタン(ボイス)	30
ドットボタン(リズム)	58
トップ(シフトエンド)	80
トランスポーズ	110
トレモロ(エフェクト)	41, 44, 51
トレモロ(ファスト)ボタン	53
トレモロ(フットスイッチ)	108

ナ

内蔵音群	36
------	----

ニ

入力端子	113
------	-----

ネ

ネクストソング(シフトエンド)	80
-----------------	----

ハ

ハービート	56
パート(XG)	95
パート再生	93
パート録音	88
ハイパス(ディストーション)	48
早送り(MDR)	97
バランス(ディレイ)	46
バランス(リズム)	57
パン	40
パンチン録音	90

ヒ

ピッチ	110
ピッチ/MIDIボタン	110, 111
ビブラート	42
表示言語	25

フ

フィート	39
フィードバック(ディレイ)	45
フィードバック(フランジャー)	47
フィルイン	56
フィンガードコード	61
フォーマット	84
フォーマットボタン	84
付属端子	113
フットスイッチ(左)	106
フットスイッチ(右)	78
フットスイッチボタン	106
フランジャー	41, 47
プリセット(エフェクト)	41
プリセット(キーボードパーカッション)	65
プリセット(ビブラート)	42
フロッピーディスク	82
フロッピーディスク挿入口	82

ヘ

ページボタン	23
ペダル(MIDI OUT)	111
ペダル鍵盤プリセット	66
ペダルボイス	26
ペダルボイス2	27

ホ

ポーズ(MDR)	97
ホール(リバーブ)	49
ボイスコンディション	39
ボイスディスプレイ	26
ボイスディスプレイボタン	29
ボイスメニュー	27, 32
ポジション(レジストレーションシフト)	80
ボリューム(XG)	95
ボリューム(アカンパニメント)	64
ボリューム(ボイスコンディション)	40
ボリューム(リズム)	57

マ

巻戻し(MDR)	97
マニュアルバランス	29

ミ

ミュージックディスクレコーダー(MDR)	82
ミュート(XG)	95

メ

メトロノーム	75
メモリー(M./TO DISK)ボタン	76
メモリー(下鍵盤/ペダル)	62
メモリー残量(MDR)	103
メロディオンコード(M.O.C.)	73

モ

モード(コーラス)	53
モード(ディレイ)	46
モード(メロディオンコード)	74

ユ

ユーザー(レジストレーションシフト)	80
ユーザー音色(ボイス)	31
ユーザーキーボードパーカッション	67
ユーザー切り替え(ビブラート)	42
ユーザーリズム	59
ユーズランブ	82

ラ

ライトプロテクトタブ	83
------------	----

リ

リード&オートインクリメント(MDR)	97
リードボイス	26
リズム	54
リズム(フットスイッチ)	107
リズムコンディション	57
リズムシーケンス	75
リズムパターンディスク	103
リズムメニュー	60
リトライ	86
リバーブ(ボイスコンディション)	40, 49
リバーブ(リズム)	57
リピート再生	94

ル

ルーム(リバーブ)	49
-----------	----

レ

レジストレーションシフト	78
レジストレーションデータ	87
レジストレーションの記録	91
レジストレーションメモリー	76
レベル(ディストーション)	48
レンジス(リバーブ)	49

ロ

録音	85
録音ボタン	85
ロワー(MIDI OUT)	111



A

A.B.C.	61
A.B.C./M.O.C.ボタン	61, 73
ACC.(アカンパニメント)リバーブ	64
AUX. OUT端子	113

B

BAL.(リズム)	57
-----------------	----

D

D.(ディスエーブル)ボタン	77
DELETE	81

E

EXP.(エクスプレッション)	109
-----------------------	-----

H

HEADPHONES端子	113
HOST SELECT	113

I

INSERT	81
--------------	----

L

LCDディスプレイ	22
LEAD(MIDI IN)	112
LEDメッセージ(MDR)	105
LK(下鍵盤)プリセット	66

M

M./TO DISK(メモリー)ボタン	76
M.BAL(ボイス)	29
MDR	82
MIDI	111, 114
MIDI IN	112
MIDI OUT	111
MIDIコントロール	111
MIDI端子	113

P

PK(ペダル鍵盤)プリセット	66
----------------------	----

R

RETRY	86
-------------	----

S

SYNC.(MIDI IN)	112
----------------------	-----

T

TO HOST端子	113
-----------------	-----

X

XG	6, 95
XG簡易交換機能	96

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「故障かな?と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点 (修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスステーション	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL (011)512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL (022)236-0249
首都圏サービスセンター	〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F	TEL (03)5762-2121
浜松サービスステーション	〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL (053)465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL (052)652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL (06)6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029 高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL (087)822-3045
九州サービスステーション	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL (092)472-2134

[本社]CSセンター 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 TEL (053)465-1158

●所在地・電話番号などは変更されることがあります。

ヤマハ株式会社

国内楽器営業本部 鍵盤営業統括部

北海道鍵盤営業課	〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター TEL 011(512)6114
仙台鍵盤営業課	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル TEL 022(222)6025
東京鍵盤営業部	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL 03(5488)5463
名古屋鍵盤営業部	〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 TEL 052(201)5140
大阪鍵盤営業部	〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館 TEL 06(6252)2390
九州鍵盤営業課	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL 092(472)2153
企画推進室 エレクトーン推進グループ	〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL 03(5488)5443

PA・DMI事業部


EKB営業部EL営業課	〒430-8650 浜松市中沢町10-1 TEL 053(460)2191
-------------	------------------------------------------

*住所および電話番号は変更になる場合があります。

エレクトーンに関するあらゆる質問にお答えします。

エレクトーンインフォメーション

営業時間:月～金 10:00～12:00 13:00～17:00

フリーダイヤル  0120-186-808

インターネットホームページ

<http://electone.yamaha.co.jp/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/>

「音楽する人、音楽したい人のための頼れるポータルサイト」

ミュージックイークラブ・ドットコム

<http://www.music-eclub.com>